

## 第11回 新県民体育館整備等基本計画検討会 次第

日時：令和8年6月10日（水）10:00～11:30

場所：高知会館2階 「白鳳」

### 1 開会

### 2 議事

(1) パブリックコメント（最終報告）

(2) 基本計画（案）

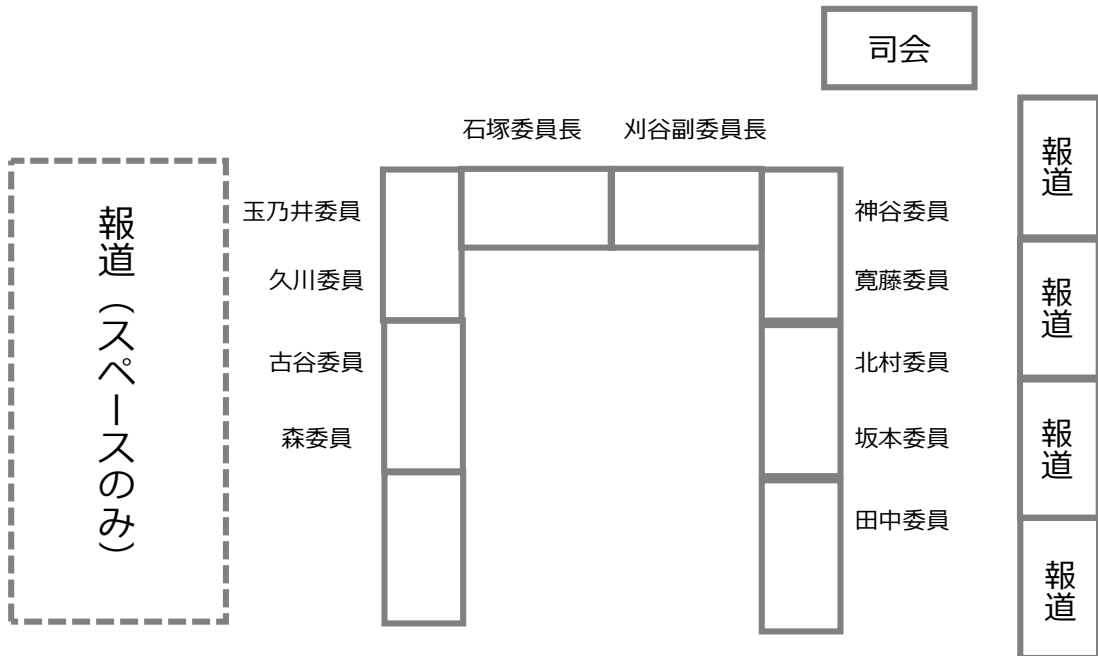
### 3 閉会

#### <配付資料>

- ・次第
- ・配席図
- ・委員名簿
- ・【資料1-1】新県民体育館整備等基本計画（案）パブリックコメント集計結果
- ・【資料1-2】「新県民体育館整備等基本計画（案）」の意見公募手続（パブリックコメント）へ寄せられたご意見に対する考え方
- ・【資料2-1】新県民体育館整備等基本計画（全体版）（案）の修正内容
- ・【資料2-2】基本計画案（概要版）
- ・【資料2-3】基本計画案（本編）

# 第11回 新県民体育館整備等基本計画検討会

## 配席図



☆  
マイクランナー

☆  
マイクランナー

事務局 別府  
副部長

小西 前田  
部長 振興監

柏井 西森  
企画監 チーフ

事務局

事務局

事務局 事務局

事務局

事務局

事務局

傍聴席 (イスのみ)

傍聴席 (イスのみ)

傍聴席 (イスのみ)

出入口

# 第11回 新県民体育館整備等基本計画検討会 委員一覧

(五十音順)

【 委 員 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	石塚 悟史	国立大学法人高知大学 副学長（研究担当） 兼イノベーションセンター長 兼IoP共創センター 副センター長	産業振興	○	
2	神谷 美来	高知市 副市長	自治体	○	
3	刈谷 好孝	前公益財団法人高知県スポーツ協会 専務理事	競技スポーツ	○	
4	寛藤 次男	高知県柔道協会 会長	武道	○	
5	北村 大河	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 参加支援グループ長	障害者スポーツ	○	
6	坂本 淳	国立大学法人高知大学教育研究部自然科学系理工学部門 講師	防災	○	
7	田中 拓生	株式会社ユーエスケー 新規事業開発部長	イベント企画	○	
8	玉乃井 欣樹	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会（ACPC） 理事	コンサート	○	
9	久川 俊秀	高知市文化プラザかるぼと 館長	文化	○	
10	古谷 純代	高知商工会議所 副会頭	商工	○	
11	森 恒一郎	前土佐経済同友会 観光推進委員会委員長	観光	○	

【 アドバイザー 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	中嶋 善浩	株式会社民間資金等活用事業推進機構 官民連携支援センター長	民間活力、事業手法	○	web参加
2	山花 英司	株式会社がんばろう徳島 取締役	プロスポーツ	○	web参加

## 新県民体育館整備等基本計画(案)パブリックコメント集計結果

- 1 意見公募期間:令和8年5月1日から令和8年5月 31 日
- 2 意見提出 : 114通(個人112、団体2)、216件  
(うち、積極的な意見36通、慎重な意見78通)
- 3 提出された主な意見(意見5件以上を抜粋)
  - ・津波浸水及び液状化の危険性がある場所での地下駐車場整備に対する反対・見直し (21件)
  - ・アスパルこうちに関する慎重意見(グラウンドの使用反対、意見聴取の不足に対する懸念) (19件)
  - ・津波浸水区域にある建設予定地の変更・見直し (17件)
  - ・狭小地内への施設を詰め込みすぎに対する懸念 (13件)
  - ・施設規模の縮小(高知県でのアリーナ運営への不安) (12件)  
( 施設規模の拡大(収容人数 10,000 人程度) (5件) )
  - ・地域経済活性化への期待 (12件)
  - ・津波浸水区域へ整備することに対する防災対策(ハード・ソフト)への懸念・要望 (9件)
  - ・事業費の再精査及び上振れへの懸念 (7件)
  - ・駐車場台数の不足への懸念 (7件)
  - ・料金設定に対する要望・提案(現在の利用料金からの大幅な値上げへの懸念、プール利用の学校や高齢者からの利用料金徴収の提案等) (6件)
  - ・交通渋滞による近隣住民や近隣施設等への影響に対する懸念 (5件)
  - ・機能集約による利便性向上 (5件)
  - ・新しい体験(スポーツ・エンタメ)の創出 (5件)
  - ・プールの機能要請(アーティスティックスイミングや水球、競泳等への対応) (5件)

## 「新県民体育館整備等基本計画（案）」の意見公募手続（パブリックコメント）へ寄せられたご意見に対する考え方

- 意見公募期間：令和8年5月1日から令和8年5月31日
- 意見提出：114通（個人112、団体2）、216件

### 1 整備の考え方

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(整備の必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これからの高知に求められる役割を意識した内容。県内外から人が集まる施設となることを期待。子どもや若い世代が身近で質の高いスポーツやイベントに触れられる環境整備は大きな意義がある。防災機能と誰もが利用しやすい施設として、日常利用と南海トラフ地震など大規模災害時の拠点となることに安心感がある。</li> <li>○ 全国規模の大会や著名アーティストのコンサート開催は、交流人口拡大と県経済活性化の「起爆剤」になる。武道館やプール、展示機能の集約は利用者視点で合理的。</li> <li>○ スポーツの楽しさや感動を広く共有でき、プロスポーツやエンターテインメント、文化による地域活性化の基本理念に共感する。老朽化施設の集約・複合化により、効率的かつ多目的に利用できる施設となることは大きなメリット。施設運営にあたっては、①持続可能性の確保（維持管理・財政面での持続可能な運営計画の充実）、②防災・安全対策（浸水想定区域への浸水リスクを考慮した設計・対策）に配慮願う。</li> <li>○ 本計画は現県民体育館の整備を前提とするものであり、208億円超の県民の財産を投じる大型投資が、県民の安全と財政の両面で最善の形で実現されることを求める。計画書が認識する重大リスクに対して「合理的な対策を講じた」と言うには、現状を大幅に超えた具体的・定量的な安全担保が必要。南国市大そね地区など代替候補地の存在に鑑み、透明な比較評価の実施・公開を強く要望する。</li> <li>○ 以下の事項について「確定／未確定」「根拠資料の有無」「未確定時の整理時期及び判断主体」を明示いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①主目的及び優先順位</li> <li>②需要見込み・利用日数・料金設定・収支見通しの前提と下振れ時の県負担への影</li> </ul> </li> </ul>	<p>これまで令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会（以下、「あり方検討会」という。）」、令和7年度からの「新県民体育館整備等基本計画検討会（以下、「基本計画検討会」という。）」において、各専門分野の方々からご意見をいただくとともに、並行して各種関係団体へのニーズ調査やアスパルこうち利用者等へのアンケート調査なども実施してきました。</p> <p>それらのご意見も踏まえ、新県民体育館の整備方針や施設の機能、規模、建設地、教育的配慮、防災対策などについて、基本計画に盛り込んでいます。</p>	34

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③プロスポーツ・興行・MICE 誘致の成立条件と未達時対応</li> <li>④ライフサイクルコスト（建設費～解体費）の試算</li> <li>⑤機能縮減判断基準と優先順位</li> <li>⑥前提条件変更時の対応方法</li> <li>⑦検討会意見の反映状況</li> <li>⑧検討会の役割と意思決定との関係性</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在、利用者やスポーツ教室参加者から、休館中のスポーツ活動の場について大きな不安の声がある。対策として、サブアリーナとプールを第一期工事として早期着手・供用開始し、現体育館を解体、第二期工事でメインアリーナと武道館を整備することで、利用中断期間を最小限に止め、利用の継続が図られる。</li> <li>○ 現在の施設を壊さず通常使用を続けながら建設を進めることを提案する。現体育館はリニューアルにとどめ、グラウンド部分にイベント対応ホール付駐車場を建築することを勧める。</li> <li>○ 県民体育館の必要性は感じるが、場所・規模・利便性をもう一度初めから積み上げるべき。一方的な事業計画ありきで進められていると感じる。多目的施設は何にとっても中途半端になる懸念がある。高知は駐車場スペースが必須。5,000人規模なら尚更。他県や実際の利用者、興行専門家の見地を参考に、常に予約でいっぱい施設を目指すべき。拙速な決定を避け、再検討をお願いする。</li> <li>○ 新県民体育館整備計画に全面的に賛成する。実態に合った、地に足のついた計画である。高知らしい施設が誕生し、賑わいや活性化につながることを期待。</li> <li>○ 「県民の日常的なスポーツ活動」が中心に考えられていない。アンケート調査も不十分で、日常活動や非競技団体の意見が反映されていない。利用に格差が生じ、特定団体だけが優遇される懸念がある。複数団体が年間活動を円滑に行うことは不可能に近い。安全管理や周辺住民への影響を考えると、「集約」より「分散」にメリットがあり、集約に利点は考えられない。</li> <li>○ 県民体育館は建て直してほしい。今の規模で良いと思う。</li> <li>○ 今の県民体育館がある場所にアリーナ機能のついた体育館を作るのは反対。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①市民が利用しているグラウンドを壊してまで作る必要はない。</li> <li>②はりまや橋から徒歩20分圏内だが、電車乗り場に歩道橋しかなく、イベント終了時は危険。</li> <li>③アリーナを実際利用するのはちばさんセンターの展示会など。プロスポーツや</li> </ul> </li> </ul>		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>ライブは想定できない。</p> <p>④赤字分を人口減の中でどう賄うのか。</p> <p>○ 一番大事なのは利用者の声であるのに、集約ありきで設計図ができています。経費抑制は理解するが、約 200 億円の施設をサンプル約 2,000 人の声で判断するのはあり得ない。</p> <p>○ 人口減対策として、公共施設を減らすと国から交付金が出るための計画ではないかと知った。交付金より県民の意見を聴き、計画を見直すべき。</p> <p>○ 県民の体育館とすることを希望する。広域避難所機能を持つ施設にしてほしい。5,000 人アリーナでは敷地が不足。地下駐車場は浸水地域では不向き。住宅隣接で高さ制限があるのでは。グラウンドを含めても広さが不十分。稚拙な計画。</p> <p>○ 現建設計画には反対。アスファルトの扱い、駐車場など問題が多すぎる。人口減の高知県、後々の県民に負担をかけない方法にしてもらいたい。</p> <p>○ 敷地面積に対し要求項目が多すぎるため、配置が窮屈。</p> <p>○ 住宅隣接、長期浸水地域に地下駐車場、教育施設グラウンド廃止、210 億円の費用は中止したほうがよい。</p> <p>○ 将来の人口減に見合った身の丈に合った県民のための施設であってほしい。</p> <p>○ 津波浸水の懸念があり、地下駐車場建設は無理がある。青年センターグラウンドが喪失。建設費の見積りも甘い。現在地は学びの多様化学校、アスファルト、潮江市民図書館など教育の要の場所。完成後も騒音や敷地内への一般人立ち入りが懸念。Bリーグが来るかも不明。来ても赤字なら撤退。有名アーティスト 3,500 人キャパは専門家から難しいと指摘。利用者の意見を聴くこと。南高校跡地を使わない理由は。県庁内にこの計画を進言する職員がいるのか。自治体競争に勝てる見込みもないのに突入するのは止めるべき。拙速な決定を止め、時間をかけた議論を求める。</p> <p>○ 県民体育館整備等基本計画に強く反対する。何もかも詰め込みで、あの土地に地下駐車場を作る発想が理解できない。</p> <p>○ 「抽選漏れで利用できない状況」の詳細データが不明。利用できない程度により、必要な施設規模も変わる。大型アリーナは甘い想定しか示されておらず、巨額の整備費と今後のコストを考えると賢くない方針である。</p> <p>○ 現県民体育館の整備は、現敷地（旧南消防署を取り込む程度）を基本とすべき。</p> <p>○ 本計画は体育館整備が前提だったはずだが、経済界等の要望により機能が次々に追加され、アスファルト、ちばさんセンター、武道館まで犠牲にしている。高知県と県民にとって何が最も大事で価値があるのか、県内部や検討委員会のみならず関</p>		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>連分野の県民代表も含めて再度議論し、真に実効性のある計画にすることを強く求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育館建て替えには賛成するが、アリーナ主目的の建設には反対。この計画案を作成した執行部が本当に「大丈夫」と自信を持っているのか疑問。自信や気概が感じられず、他人事のような感じを受ける。</li> <li>○ 50年以上の維持管理が必要。20年後、30年後、50年後の県民にとっても「よかった」と思える施設にすべき。</li> <li>○ 新県民体育館整備計画に反対し、白紙撤回を求める。既存建物を改修する方がよい。資材不足で費用は膨れ上がるだろう。</li> <li>○ 現体育館の稼働率が高い場合、工事で長期使用不可が大課題である。先行施策を提案する。①ちばさんセンター跡地にサブアリーナ+武道館規模の「第2体育館」整備。②アスパルこうちグラウンド一部転用でプール整備。</li> <li>○ 今の計画自体に反対。全てが中途半端。誰もが「メインアリーナは稼働しない、採算取れない」と分かる。</li> <li>○ 県内スポーツ施設は老朽化・空調・駐車場など問題が多いため、設備が整い多くのイベントが開催できれば、商店街や観光の発展・活性化につながる。よさこい文化やeスポーツを通じた若者への魅力向上に期待する。</li> <li>○ 県民体育館と言いながら県民の声を聴かない冷たい進め方に怒りさえ覚える。</li> <li>○ 運動や交流の場として大事な場所。1日でも早く県民体育館を建ててほしい。</li> <li>○ コンサートやVリーグ、Bリーグの試合を生で観戦したい。新県民体育館の早期完成を切に願う。</li> <li>○ 新県民体育館に期待すること <ul style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツプロリーグの開催</li> <li>2. 施設の改築</li> <li>3. エンタメ</li> <li>4. 地元のための体育館</li> </ul> </li> </ul>		

## 2 施設の機能

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(機能の集約)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現県民体育館の機能充実とアリーナ機能の付加による複合施設化の方向性に賛同する。現体育館の立地とアスパルこうちグラウンドを活用し、室内プールや武道館機能も備えた大規模複合施設として整備することに賛同する。</li> <li>○ 高知市のコンパクトさは利点である。一つの施設に多くをまとめるのではなく、イベント集中時の回遊のしやすさを向上させることが、公共交通機関の利用や市内店舗の利用など経済効果につながるのではないかと。</li> <li>○ ちばさんセンター大ホールを集約しアリーナ化する意見に賛成する。Bリーグ誘致・設立の話から、アリーナでの観戦体験は何物にも代えがたく、将来に見いだせる投資である。社会福祉の側面も武道館などの小ホール化で賄えると考える。アリーナでも平時は体育館利用が可能であることを丁寧に説明し、青年センターとの連携も含めた運用を進めてほしい。</li> <li>○ 補助金の絡みがあると思うが、詰め込み過ぎだと思う。武道館とプールは南高校の施設改良で対応できないか。武道館は現計画で縮小するため、武道者の立場では現在でも施設が足りないのに減らさないでほしい。現武道館を残し、南高校にも計画するなら賛成である。</li> <li>○ 人口減少や老朽化施設の増加、県の厳しい財政状況を踏まえた「施設の集約化・複合化」に強く賛成する。武道館やプール、ちばさんセンター大ホールの機能を新県民体育館に集約することは、将来の財政負担を抑える賢明な判断である。集約によるメリットが最大限に考慮されている。メインアリーナとサブアリーナを連動させることで多くの面数が確保でき、全国規模の大会運営や複数競技の同時開催が可能になる点に大きな魅力を感じる。</li> <li>○ ちばさんも武道館も新県民体育館に持ってこようとしたところに無理があると思う。ちばさんは今の場所で建て替え、県民体育館は津波想定でかさ上げし、プールもグラウンドも今のまま残せばいいのではないかと。</li> <li>○ 計画案は限られた敷地にあらゆる機能を詰め込み過ぎており、無理がある。資材高騰を鑑みると建築費は相当に上ると予想され、完成後の維持管理費が県財政の過度な負担にならないか強く懸念する。何でも詰め込むのではなく、本県の財政規模に見合った「身の丈に合った取捨選択」と民間資金の活用を徹底し、持続可能な計画にすべきである。</li> <li>○ 今の計画は反対である。何もかも詰め込み過ぎ。武道館は今のところにあるのが</li> </ul>	<p>新県民体育館は、現在の県民体育館の老朽化等の状況を踏まえ、県民がスポーツをする施設（社会体育施設）に加え、プロスポーツや音楽コンサート、大規模展示会などを開催できるアリーナ機能を融合させた複合施設として整備する方針です。</p> <p>機能の集約化を図ることで、施設を一体的に使用することが可能となり、これまで開催できなかった全国規模の大会などが開催可能となるなどの効果が期待できます。</p> <p>特に、ちばさんセンター大ホールの機能を集約化することで、展示会や見本市などのビジネス利用による稼働率の底上げや、年間を通して中心市街地と連動した人の流れや活気が生まれることが期待できます。</p> <p>また、国の有利な財源である公共施設等適正管理推進事業債を活用することができ、県の財政負担の軽減につながります。</p>	<p>20</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>良い。ちばさんセンターの駐車場 800 台分を確保できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アリーナだけでなく、武道館やプールまで、施設を詰め込み過ぎだと思う。</li> <li>○ 計画の敷地に様々な施設を詰め込み過ぎたものとなっており、様々な問題が内在しているため、1か所に集約することは再検討し見直すべきである。</li> <li>○ 県民体育館の建て替え計画が大型化しているのに驚いている。アリーナ、武道館等の併設、はては隣接の高知市の教育施設のグラウンドも使用する計画が肥大化しているようである。詰め込み過ぎではないか。各々の施設をゆったりと使い勝手の良いものとしてはどうか。従来の県民体育館を整備していくことが重要だと思う。</li> <li>○ 現在の計画に反対。狭い敷地内にたくさんの機能を作ることは全体に無理だと思う。浸水地域になっているのに地下駐車場はあり得ない。5,000人収容するものが本当に必要なのか。</li> <li>○ ちばさんはそのまま、県民体育館もそのまま建て替えは不要。老朽化を建て替えずに必要な最低限で対応してほしい。</li> <li>○ 一極集中は、不測の事態があったときに機能不全に陥る。それぞれの利便性や特徴を活かし、適度に分散して余裕を持たせた方がよいと考える。</li> <li>○ ちばさんセンターは、体育館の本来の目的から逸脱している。これは入れるべきではない。</li> <li>○ 武道館やプール、ちばさんセンター大ホールを集約することによるメリットは大きいと考える。展示会などのイベント時にメインとサブの両アリーナを一体的に活用できれば、より多くの来場者を迎えることができ、周辺の観光や飲食産業へも大きな経済効果が生まれる。</li> <li>○ ちばさんセンター機能も集約するとは。現在のちばさんセンターは駐車スペースも十分あり、現地での検討の方が良い。</li> <li>○ 利便性や経済的メリットはもちろん重要だが、武道館だけでなく「この建物が今ここにある意味」を鑑みること「まちづくり」の観点から重要ではないか。</li> <li>○ 「県立武道館」および「高知ちばさんセンター大ホール」の機能集約後の既存施設の解体・改修費用の明示、および「公営納骨堂」等の公益用途への再利用（コンバージョン）の多角的な比較検討を求める。</li> <li>○ 武道館の統合計画に反対。現武道館は、公園隣接で無料駐車場完備の利用上何の問題もない立派な独立施設である。耐震等に問題があれば、現地での再整備こそ最も利用者にとって一番の解決方法である。</li> </ul>		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(スポーツ機能)</p> <p>○ 新県民体育館が、多様なインドアスポーツの全国大会を受け入れられる施設となるよう、アーチェリー競技についても早い段階から検討対象に加えていただきたい。</p>	<p>ニーズ調査の対象外となった競技団体に対して、必要に応じて設計段階で施設要件を個別にヒアリングし、実装可能な提案については基本設計に組み込むよう検討いたします。</p>	1
<p>(その他機能)</p> <p>○ 本計画においては、安全性、利便性、収益性の向上および持続可能な施設運営の実現に向け、ICT・デジタル技術の活用をより具体的に位置付けることが望ましい。</p>	<p>ICT・デジタル技術の活用は、利用者の利便性向上と施設の安全性確保に向け、重要な要素と認識しています。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、設計段階において、導入の優先順位や実装方法を具体的に詰めていく予定です。</p>	1

### 3 施設の内容

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(施設整備の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者からお年寄りまで老若男女が集える体育施設に期待する。有名アーティストのコンサート観覧やプロスポーツ競技の観戦を可能にし、スポーツのみならず文化や健康維持でも地域に貢献できる施設を整備してほしい。</li> <li>○ アリーナでこれまで高知で体験できなかったショーやコンサートが見られるので楽しみにしている。よさこい踊りなど高知の文化を発信する拠点となり、外国人観光客のおもてなしも可能ではないかと願っている。</li> <li>○ 全国のアリーナ建設では木材を大量に使用するなど、「高知らしさ」溢れる体育施設の整備を期待する。</li> <li>○ 四国では少ないアリーナの要素を持った新体育館の建設を望む。高知でプロスポーツチームやコンサート開催は地域経済に貢献できると思う。早期着工を望む。</li> <li>○ 一般の人たちが満足に利用できていない実態と、今後の県活性化にはイベントによる集客が必要なことを考えると、メインアリーナを有する大型施設の整備は必ずやるべきことと思う。</li> <li>○ 県民がトップレベルのスポーツに触れられる環境を整えるため、プロリーグ公式戦が開催可能な新県民体育館の整備を強く要望する。各種スポーツ大会に対応でき、コンサートや大型イベントも開催できる多目的アリーナとして整備することで、幅広い世代が利用できる施設となる。</li> <li>○ 近隣県でアリーナ構想の見直しや規模縮小が見られる今こそ、高知県は「逆張り」の姿勢で5,000人規模の本格的なアリーナ整備を断行すべきである。中心市街地から徒歩圏内という立地優位性を生かし、県外観光客の消費を最大化させるため、VIP席の設置などの柔軟な設備投資を強く求める。</li> <li>○ 新県民体育館は、今の敷地内に耐震性の優れた建物を建設してほしい。地盤沈下・津波・長期浸水が予想される地域で、豪華なアリーナを作る計画に不安しかない。特に地下駐車場は論外。</li> <li>○ 様々な意見があるかと思うが、若者をはじめ多くの県民が高知に愛着を持てる、20～30年先の将来ビジョンを踏まえ、アリーナ機能の充実によるプロスポーツ・大規模コンサート等の誘致を実現してほしい。防災機能の充実により、地域住民の福祉向上に努めてほしいと願う。</li> <li>○ 競技者だけでなく高齢者や子どもたちが日頃から健康増進のため気軽に立ち寄れる、地域に開かれたコミュニティスペースの充実を望む。</li> </ul>	<p>新県民体育館は、県民がスポーツをする施設（社会体育施設）に加え、プロスポーツや音楽コンサート、大規模展示会などを開催できるアリーナ機能を融合させた複合施設として整備する方針です。</p> <p>誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点となることを目指します。</p>	<p>15</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現行敷地で多少増築できるかもしれないが、「あれもこれも多目的」な施設をこしらえるには敷地が狭小であり無理だと思う。</li> <li>○ 青年センター駐車場を立体化し、屋上部分に人工芝スペースを整備する案を提案する。日陰を確保できる構造で熱中症対策となり、災害時にはペット同行避難への活用も期待できる。新体育館と上階部分で接続することで、避難時の円滑な動線確保につながると考える。</li> <li>○ 館内の声や音が反響しないよう吸音対策を徹底し、近隣への音漏れ対策を講じること。</li> <li>○ 観客が見えやすいよう、座席を「千鳥配置」にすること。</li> <li>○ 十分な観客席数が確保されるとのことであるので、運動会や体育祭などの学校行事にも積極的に活用していただければと考える。</li> </ul>		
<p><b>(施設の規模)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ メインアリーナの規模が小さいと感じた。コンサート利用で座席数 3,500 席は少なすぎる。高松のあなぶきアリーナ同等の 1 万席は必要だと思う。</li> <li>○ 一番期待していた音楽興行時の座席数が少なくてびっくりした。四国の他三県はすでに 5,000 席以上のアリーナがあるのに。中途半端なものはいらない。</li> <li>○ 最大観客数について 5,000 人を 6,000 人等、もう少し増やしていただきたい。</li> <li>○ 5,000 席規模のメインアリーナは大規模すぎるため、規模縮小を求める。高知県の人口・経済状況に対して過剰である。</li> <li>○ 大きなアリーナにすることには反対。既に高松市には大きなアリーナが活動しており、四国に 2 つは必要ない。財政難である高知県が無理して大きな施設を創設することは、人口減少が予測される県に負担となることは明らかである。</li> <li>○ 座席数については、トップリーグ等開催には限界がある一方、各種スポーツ・文化イベントに対応可能な「約 3,500 席規模」を目安として再検討を提案したい。360 度回転ステージや 3D 演出など、多様な舞台演出が可能な設備を備えることで、「規模はコンパクトでありながら質の高い」イベント開催が可能となることを期待する。音響、モニター、トイレ設備等は関連企業から設備提供を受け、PR 機会を提供する仕組みで最新設備導入につながるのではないか。</li> <li>○ 人口減少が続く高知県において 5,000 人も収容するアリーナがそもそも必要か。それほどの回数の大イベントが計画されている訳ではない。</li> <li>○ コン서트などに使う 5,000 人規模のメインアリーナは、使用するイベントがなく、有名歌手コンサートは高松などで開催されると思う。</li> </ul>	<p>令和 6 年度の「あり方検討会」及び令和 7 年度から 8 年度の「基本計画検討会」の議論を踏まえ、メインアリーナは 5,000 人以上の観客を収容できる座席数とするという方針を決めましたが、これはプロスポーツの試合の開催基準を満たす座席数となっています。</p> <p>設計段階でより詳細な配置や規模を決めていきます。</p>	12

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 約 5,000 人規模のメインアリーナ機能について、本当に需要や採算性が見込めるのか。四国内では昨年開業した「あなぶきアリーナ」で高い稼働率と集客を実現していると聞けが、高知県において同様の規模が必要なのか、慎重な検証が必要である。</li> <li>○ 高知県に多くの方が集まる施設を作ってほしい。新幹線もない四国に国内外から多くの方を誘致する方法として、1 万人規模のアリーナ建設を切望する。</li> <li>○ コンサート開催時、ステージを作ると 3,500 人収容になるそうだが、3,500 人では若者が好きな人気アーティストは高知に来てくれない。若い方に高知に来てほしいなら、もっと広い敷地に 1 万人以上収容のアリーナを作ったほうが良いのではないか。</li> <li>○ 社会体育施設としての体育館のみを希望する。5,000 人規模のアリーナは必要ない。</li> </ul>		
<p><b>(武道館)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新県民体育館に新しい武道館として利用できるなら、駐車場や暑さの心配がなくなり、利用しやすくなると期待する。</li> <li>○ 新県民体育館には、現在武道館を使っている少人数の団体を含むすべての人達が、今と同じようにそれぞれ利用できる剣道場や柔道場が確保されるのか。</li> <li>○ 県立武道館は、高知城や城西公園との環境の融合性や、文化的歴史的風格など、現在の場所が最適である。交通の便も良く、様々な年代の人が健康づくりに参加できる。</li> </ul>	<p>武道館については、大会や練習の場として使用できる試合場 3 面分の広さを備えた施設を整備することとしています。</p>	3
<p><b>(プール)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ レーンを分けるだけでなく、プール自体を用途別（子供・競泳他）に区別することを希望する。採暖室やジャグジー等の付帯設備があることで施設の魅力向上につながると考える。一方、敷地面積を踏まえると、教育利用を主目的とした「必要最小限の設備」による整備が望ましいと思われる。</li> <li>○ 現県民体育館の利用状況を鑑みると、プールは利用者の 35.7% を占めるのにもかかわらず、プール仕様策定はずさんで、議論も希薄である。競技関係諸基準を確認し、少なくとも県大会開催が可能な仕様で計画を再策定する必要がある。</li> <li>○ アーティスティックスイミングは安全面・競技特性から水深 2m 以上を必要とする。新施設においては、一部コースのみでも深水確保、中央部分のみを深くするなど部分的な深水エリア整備、深水を活かしつつ浅水利用も可能となる構造や運用を検討いただきたい。また音楽を使用した練習が必要不可欠なため、音響設備使用</li> </ul>	<p>プールは現在の県民体育館と同規模とし、障害者スポーツセンターのプール機能を集約します。</p> <p>障害のある方の利用に配慮したスロープ付きレーンを設置し、県民の日常的なスポーツ利用を主目的とします。</p> <p>設計段階において、関係団体からのご意見を踏まえ、実装すべき施設規模と機能を決めていきます。</p>	5

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>環境整備、音の反響を軽減した構造、競技特性を理解した柔軟な運用についても検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新プールのインクルーシブな県民利用に配慮しつつ、県大会以上の公式競技（競泳、アーティスティックスイミング、水球、飛込）が開催可能な「日本水泳連盟のプール公認規則」に則った仕様（可動床導入等による水深確保）への見直しを要望する。</li> <li>○ 公認プールとしての水深 1.8m 以上 10 コース、また一部 3m の深さがあれば「県体」や「水泳の日」等のイベントも可能になる。水泳各競技（競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング）の選手の競技力向上に必要な冬季の室内プール練習環境を確保していただきたい。</li> </ul>		
<p><b>(付属施設)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6歳の子供がいます。高知は雨天時に遊ばせる場所がないため、都会にもある有料のキッズスペースやスポーツに親しめる環境を早く作ってほしい。ジムやヨガ教室も併設すれば、子育て世代が親子で利用できる施設になると考える。</li> <li>○ ぜひプールの充実、特に更衣室を快適な空間にし、パウダールームを設けてはどうか。「運動する」と気負わず、カフェに行くような感覚で体育館に足を運びたい。デザイン性に優れた建築で、室内では素敵な音楽が流れる施設になることを望む。新しい利用者呼び込むことができるのではないかと。</li> <li>○ 一般の方が利用できるトレーニングルームを整備していただきたい。</li> <li>○ 新施設にはボルダリングができるスペースがほしい。スケートボードなどを含めた「アーバンスポーツ」ができる場所として整備すれば、若者の交流の場にもなると思う。</li> <li>○ 「ユニバーサルなデザイン」として、感覚過敏や自閉症、発達・精神、知的障害を持つ人たちがパニックや気持ちを安心して落ち着けさせることができるカームダウンスペースやカームダウンルームの設置、通常の客席で観劇・観戦が難しい人たちも落ち着いて観劇・観戦できるセンサリールームを設置してほしい。</li> <li>○ 館内にコンビニエンスストアや弁当を購入できる店舗を設置していただければ利便性が向上する。飲食店を併設することで施設利用の促進にもつながると思う。</li> </ul>	<p>いただいたご意見を踏まえ、県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代の方々が集まり交流することができる施設を目指します。</p> <p>敷地内には憩いのスペースを設けることとしており、来館者が屋外でくつろいだり、イベント時にはキッチンカーによる軽食の提供ができるようにします。</p> <p>また、トレーニングルームや、ボルダリングなど親子で楽しめるスペースの設置も検討します。</p> <p>加えて、初めて利用しようとする方にとっても入りやすい、使いやすい施設となるような工夫を検討します。</p>	6

#### 4 事業費・スケジュール・収支見込み

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(事業費・スケジュールの試算)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画では事業費が「約 208.9 億円」で「さらなる建設費高騰により上振れが見込まれる」とあり、供用開始時期は「令和 13 年度半ば」とされている。昨今の物価高騰と世界情勢を踏まえると、不確実な要素が多く、計画どおりに進まないことが懸念される。事業費や供用開始時期は都度見直し、県民に丁寧に情報提供・説明していただきたい。</li> <li>○ 事業費について、今後さらに大幅に上振れするのではないか。物価高騰から着工が遅れば遅れるほど事業費が高額になる。早期着工が最も事業費の縮減につながる。投資分に見合う経済効果や公的サービスの質の向上を生み出してほしい。</li> <li>○ 国の補助金を活用することを見込んでいるようだが、ここ数年来の人件費や建設資材の増額傾向から、現在の試算額で賄えるとは思えない。</li> <li>○ 建設費用 200 億円とのことだが、そんな費用でできるはずがない。この計画は建設ありきで、後のことは何も考えていないのではないか。</li> <li>○ 事業費については適宜時点修正を行い、入札公告前の県議会予算承認の際には、入札公告から入札時までの物価上昇への対応を整理し、入札不調や再公告のタイムロスを防ぐため、物価上昇分を加味した適切な予算設定をお願いしたい。</li> <li>○ 建築資材等の高騰は止まることなく、新体育館の建設費も予定金額より上振れが予想されるが、想定内か。</li> <li>○ 人口減少が進む高知県において、総事業費が 200 億円を超える計画は過大である懸念を拭えない。後付けで機能を盛り込んだ結果、将来の県民に過度な負担を強いることがないよう、機能の精査やコスト削減の議論を尽くしてほしい。</li> </ul>	<p>新県民体育館の整備については、現時点では事業費を「約 208.9 億円」、供用開始時期を「令和 13 年度半ば」としておりますが、ご意見のとおり、昨今の物価高騰の状況や世界情勢を踏まえると、今後さらなる事業費の上振れや供用開始時期の遅れが発生することも見込まれます。</p> <p>節目、節目のタイミングにおいて、事業費やスケジュールについて見直すことも含め、随時県民の皆様へ情報提供・説明を行ってまいります。</p>	7
<p>(収支見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県側が示した「年間利用シミュレーション」を見ると、メインアリーナ利用における競技大会・プロスポーツ・エンタメの件数は 55 件に過ぎない。しかもこの数字自体、かなり盛った数字であるとの指摘がなされている。検討会のトラブルがありながら結論を急ぐ県の姿勢からは、よりよい新県民体育館整備の検討が、いつの間にか「公共施設等適正管理推進事業債」獲得の検討になっているのではないかと懸念を抱く。</li> <li>○ 現在の計画では、収入の見積もり金額が甘いのではないか。Bリーグと大型コンサートを見込んでの設備を構えようとしているが、今の計画では収入の道を絶</li> </ul>	<p>現時点で、新県民体育館の供用開始後最初の 5 年間でプロスポーツチームがない「するスポーツ中心」時期、6 年目以降はプロスポーツチームができ、新県民体育館をホームアリーナとして試合を開催する「する+みるスポーツ」時期として想定し収支を見込んでいます。</p> <p>新県民体育館でプロスポーツの試合や音楽コンサートなどが開催されるよう、プロモーターなどイベント主催者と意見交換を行うなど、誘致に向けた取り組みを行って</p>	6

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>たれた気がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の規模が大きくなるほど、建設後の施設管理費も増大し、その負担は最終的には高知県民にかかってくる。</li> <li>○ 近年の建設費高騰は予測が難しく、費用が倍増することは十分に考えられる。見込まれる収益と高額な建設費、維持費を十分に検討する必要がある。</li> <li>○ 今後ますます人口減少が進む中で、この高知にアリーナが必要か、維持できるか議論されているか。施設の維持管理費は20年後、30年後の高知県人口で負担できるレベルか。</li> <li>○ 計画の財政的裏付けについても十分な説明が必要である。長期的な収支見通しや維持管理計画について、県民に丁寧を示すべきと考える。</li> </ul>	<p>きます。</p> <p>また、ネーミングライツや広告掲出料などの貸館以外の収入を増やす取り組みも検討し、県の財政負担の軽減を図っていきます。</p>	

## 5 建設地

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(建設地の選定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 棧橋地区は津波浸水区域で地震時は津波を心配するが、高知市の中心商店街から近く集まりやすいメリットがある。被災時の避難場所や避難経路を明確にし、利用者の人命を守ることを第一に考えた整備をお願いしたい。</li> <li>○ 様々な反対意見があるかと思うが、負けずに必ず実現させてほしい。特に津波浸水想定区域への建設に反対の声については、レベルⅡの津波発生確率が著しく小さいことを県がしっかり県民にアナウンスすべきである。</li> <li>○ 敷地が狭いなら無理に今の場所にこだわらなくてもいいのではないか。それができないならちばさんセンター跡地に音楽興行専用ホールなどを整備してほしい。</li> <li>○ 鏡川の南側で海拔が低く、住宅街も隣接。大きなイベント時に災害発生の場合、鏡川が北に位置することで避難できる場所が限られる。土地自体も弱く「安全安心に利用できる」とは言い難いと思う県民が多いのではないか。</li> <li>○ 現在地は住宅密集地で、周辺には教育施設も多く、津波浸水想定区域である。交通渋滞、災害時の避難や安全性、地域負担について、十分な検証や県民への説明がなされているとは言えない。現在地ありきではなく、より適切な立地について時間をかけて検討する必要がある。</li> <li>○ 路面電車の利用促進も兼ねて、旧高知南中高跡地に建ててほしい。現地では到底平時でも足りるスペースがあるとは思えない。「駐車」だけでなく、近辺で人が過ごせるかどうかの問題である。広々とした土地を有効活用していただきたい。</li> <li>○ 今後コンサート以外でも県体など一度に多数の方の利用が想定される。おそらく今の場所では近隣への迷惑や利用者の不便が想定される。①東部球場くろしおアリーナ周囲整備、②ちばさんセンター活用、③南高校跡地利用を提案する。</li> <li>○ ちばさんセンター跡にアリーナを建設すべきである。</li> <li>○ 現在提示されている建設予定地は敷地が狭隘で、要求される多機能を合理的に配置するには無理がある。狭い敷地に押し込むのではなく、広大な県有地である「旧高知南中学校・高等学校」の敷地を活用すべきである。隣接する「わんぱくこうちアニマルランド」は津波による動物溺死リスクを抱えているため、「のいち動物公園」への移転・統合を早急に検討し、その跡地も含めた広大な敷地で都市防災とスポーツ拠点のランドデザインを総合的に検討し直すことを強く求める。</li> <li>○ 乱暴な発想かもしれないが、今後の高校生減少や県立高校再編を念頭において、</li> </ul>	<p>新県民体育館の建設地については、はりまや橋など高知市中心部から徒歩 20 分圏内であり、公共交通機関によるアクセスの利便性が高いことや、中心市街地と連動した賑わいづくりが期待できることから、現在の県民体育館の敷地が最適と判断しました。</p> <p>現在、L2 クラス (1000 年に 1 回程度発生しうる最大クラス) の地震が発生した場合、2～3m の津波浸水、津波到達時間 40～60 分が予想されていますが、新県民体育館は利用者や地域住民が緊急に避難することができる「指定緊急避難場所」や一定期間避難生活を送ることができる「指定避難所」の指定を見据えた規模・構造とし、地域の防災力を高める施設を目指します。</p>	<p>19</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>現在の県立岡豊高校の場所に新県民体育館を考えてもいいのではないかと。閉校せずとも敷地や周辺地をうまく使い、高校と共用可能な体育館設備、文化イベント会場とすることで、稼働率や設備メンテナンス費用などメリットがあるのではないかと。</p> <p>○ 新県民体育館は、市中心部から一定距離があったとしても、高知ちばさんセンターの土地に、アリーナ型ではない体育館で建設してほしい。</p> <p>○ 南中高跡地は現在の体育館敷地面積の2.7倍、37,000㎡あり、こちらの方が適地である。1階フロアを高くする津波対策も可能で、地下駐車場の心配もなく、地震時の災害対策拠点ともなりうる。メイン及びサブアリーナを南中高跡地に建設すれば、体育館不在の期間もなく、他人の土地をあてにせず県民の同意を得られるのではないかと。</p> <p>○ 考える候補地①こうち旅広場、②城西公園、③丸の内高校。施設稼働率を高め、街づくりにつながり、防災施設としての役割を考慮すれば、浸水地域の栈橋通りは適当と思えない。時間をかけて、施設の規模を含めた総合的で長期的判断が必要である。</p> <p>○ 市の中心部では無理がある。公共交通で大規模輸送のできない高知ではイベント時に交通の大混乱を引き起こす。郊外やちばさんセンター跡地に建設し、シャトルバス送迎が現実的である。</p> <p>○ 南海地震が来ると言われている中で、アスパルこうち、県民体育館は浸水・液状化する危険があると言われている。そこに施設を集約するのは反対である。ちばさん、武道館は今の役割を大切に、そこを使用している人の意見を聴き建て替えてほしい。</p> <p>○ 災害時に長期間に及ぶと予想される浸水エリアに新県民体育館を建設することに反対する。</p> <p>○ ただ単にそこにアリーナを作ればいい、持ってくればいいという発想ではダメだと思う。人が多く集まるためには、交通・飲食・宿泊などを考える必要があるが、計画は建設予定地の周辺地区再開発まで含めて勘案すべき案件ではないかと。</p> <p>○ 現地での5,000人収容アリーナ建設に反対する。津波などの安全面の懸念があるが、敷地が狭すぎる。現在のちばさんセンターの場所に5,000人以上のアリーナを作る方が現実的だと思う。</p> <p>○ 現予定地の安全性についての検討が十分になされず、利便性が優先されたのはなぜか。「南中高跡地リスクとそんなに変わらない」と述べられているが、数年前</p>		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>南中高と高知西高等学校統合の際、南中高の弓道場は災害時に安全性が確保できないとの理由から即閉場されたと聞く。計画概要に「安全・安心」と掲げられているなら、新県民体育館は避難所として地域住民のよりどころ、災害時こそその視点が第一義的に必要ではないか。</p>		

## 6 交通・駐車場

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(交通渋滞・駐車場不足)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの来場者が予想されるため、交通渋滞や駐車場不足への対策を最優先で検討していただきたい。駐車場確保はもちろん、公共交通機関との連携を強化し、県内外から誰もがスムーズにアクセスできる計画の策定を要望する。</li> <li>○ 高知市内の交通結節点から体育施設まで徒歩移動しても苦にならないような仕掛けが必要である。ベンチ設置、歩道ペイント、街路灯統一、通りの愛称設定など、歩きやすい環境づくりや県民に歩く文化の啓発が大切である。また公共交通利用者増加からバス停留所や電停の改修も検討すべきである。</li> <li>○ 駐車場確保については「主催者や出展関係者の駐車場として使用」とされている。イベント開催時の来場者用駐車場は整備しない計画なのか。</li> <li>○ 敷地面積に対して機能を詰め込み過ぎている。公共交通利用を促すとあるが、高知県民は圧倒的多数が車を利用している。細い路地も多い住宅街が隣接し、コインパーキングも少なく、大勢利用の日は近隣住民にも不利益が生じる。</li> <li>○ 駐車場は身障者・搬入搬出・職員・送迎用等、必要最小限の併設に限定し、一般利用者向け駐車場については、近隣で管理運営可能な団体・事業者を公募し委託方式を検討してはどうか。</li> <li>○ 「大規模イベント時には潮江緑地や旧高知南中高グラウンド等を活用する」とされているが、数百～数千に及ぶ利用者をスムーズに移送するための対応が検討されたのか。そのための費用がいくらで、誰が負担するのかの検討もされたのか。</li> <li>○ 駐車場はどう考えても足りないと思う。特にちばさんセンター機能を持ってきて250台はあり得ない。また南中高敷地を臨時駐車場にするとの話だが、セットにすれば南中高敷地をずっとキープしなければならない。そんなことが可能か。</li> <li>○ 計画案では敷地内への車両引き込みスペースと歩車分離など周辺地域渋滞緩和の建築的配慮が謳われている。しかしイベント時の絶対的交通量を想定すると、現敷地周辺道路自体のキャパシティが圧倒的に不足している。近隣の「旧高知南中高」跡地を有効活用し、駐車場やバス発着拠点などの機能を外側に分散させる対策が不可欠である。</li> <li>○ 駐車場250台地下は主にイベント関係者用。一般駐車場が全く不足。とさでん交通利用は良いが、高知はクルマ社会。県民体育館はクルマに対応できる場所に造るべき。南高跡地に新県民体育館と駐車場を作るのが良いのではないか。</li> <li>○ 現状の県民体育館でも大規模大会時には渋滞などの混雑が発生している。地域</li> </ul>	<p>新県民体育館は、地下駐車場の選択肢を含め250台以上の駐車場を確保することとしています。ただ、一般の来館者に対しては公共交通機関の利用や徒歩での来館を促すとともに、大規模イベント時には、駐車場が不足することが予想されるため、潮江緑地や旧高知南中高のグラウンド等を臨時駐車場として活用することを想定しています。</p> <p>さらに、大規模イベント時の路面電車や路線バスの臨時的な増便やバス停留所や電停の改修について運営主体のとさでん交通株式会社などと協議を行っていきます。</p> <p>また、新県民体育館周辺での渋滞や混雑の発生を極力少なくするため、車両進入路などの誘導板の設置や周辺の住宅地や教育施設などに配慮した動線を検討していきます。</p>	<p>15</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>住民に愛される施設でなければ、利用率が低迷した際、存在意義の薄い施設になる懸念がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 立地条件が十分に考慮された計画になっていないと感じる。県民体育館周辺はすでに建物があり空いたスペースがないように思う。駐車スペースや搬入スペースをもっと確保してほしいが、今回の計画は建物が目いっぱい建設される計画であり無理があるため、再検討してほしい。</li> <li>○ 現武道館の駐車場スペースは極めて狭く、大会が行われ他競技とバッティングした際には他の駐車場に移動しなければならない。武道関係者に不便を強いることがないように、十分な駐車スペースを要望する。</li> <li>○ 路面電車に近い好立地だが、5,000人規模のイベント時の周辺渋滞対策が不十分だと感じる。一般駐車場の大幅な制限が高齢者や遠方からの利用者排除につながるよう、実効性のあるアクセス計画を求める。</li> <li>○ 貴重な施設敷地を駐車場で埋めてしまうのはもったいないため、駐車台数は計画の250台から半分程度に減らし、周辺の交通渋滞を併せて考えること。</li> <li>○ 駐車場は最大料金設定のある24時間出し入れ可能なものにしてほしい。</li> </ul>		
<p><b>(地下駐車場)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 浸水地域に地下駐車場とはどう考えてもあり得ない。</li> <li>○ 今の計画には大反対。浸水予想多大な地域への地下駐車場を今の時代に新たに作る計画なんて、全く無責任甚だしい。</li> <li>○ 「ピロティ空間や地下空間等を活用して250台以上の駐車台数を確保」とあり、防災対策では「地下駐車場を整備する場合の対策」と必須ではないとも読めるが、地下駐車場は計画の必須条件か。</li> <li>○ 現在の計画にある「地下駐車場」は止水板や排水ポンプによる対策を講じるとされているものの、水害時の心理的・物理的リスクを完全に払拭できない。むしろこのスペースを「立体駐車場」へと転換することを提案する。</li> <li>○ 体育館敷地内に地下駐車場を作ることは、施設周辺の渋滞や災害時の危険が予想できるため、別地に平地もしくは立体の駐車場を建設する方針を提案する。</li> <li>○ 新県民体育館計画で一番問題なのは駐車場である。L1クラスなら三重防護があれば心配ないというが、津波だけでなく地盤沈下も想定される地域で、はたして地下駐車場から無事車を出せるか。潮江地区は古来地盤が脆弱な地域で、地下湧水処理に想定以上の多額費用がかかるのではないか。</li> <li>○ 潮江地域は南海地震で地盤沈下する場所なのに地下駐車場はだめではないか。</li> </ul>	<p>現建設予定地の敷地内において地上と立体駐車場による必要な駐車台数の確保は困難であることから、地下駐車場の整備が有力な選択肢であると考えております。</p> <p>また、地下駐車場を整備する場合は、内水氾濫対策として出入口に止水板や土嚢等の設置による物理的な浸水対策を講じます。</p> <p>さらに、津波浸水対策として施設を津波に耐えられる躯体構造とするほか、地下駐車場から垂直避難が出来る階段(ルート)を複数設置することや、避難訓練の徹底などのソフト対策を講じます。</p>	21

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南海トラフ地震対策が喫緊の課題となっている中で、浸水地域に地下駐車場を新たに建設するなど、理解に苦しむ。</li> <li>○ 浸水地域での地下駐車場は防災面から考えてやっていいことなのか。</li> <li>○ 地下駐車場は水害にあうので無駄にならないか。</li> <li>○ 長期浸水地域に地下駐車場をつくることは、常識的に考えてあり得ないことである。</li> <li>○ 一番心配しているのは地下駐車場。高知県は南海トラフの防災対策に力を入れていると思うが、浸水危険区域である棧橋通りに地下駐車場を造ることに関してどのような見解を持っているのか、納得できない。</li> <li>○ 浸水想定地域に地下駐車場を設置して駐車場不足を解消しようとしている。</li> <li>○ 現在の場所で建て替える以上、地震（津波や液状化）に対して脆弱な地域であるという現実を直視すべきである。このような災害リスクのある土地に、多大なコストをかけて無理に「地下駐車場」を整備する必要はない。</li> <li>○ 浸水地域に地下駐車場とはどうしたものかと思う。地盤は大丈夫か。色々な疑問点が山積み、県民の声をもっと聴き入れてもらいたい。</li> <li>○ 浸水地域に地下駐車場は作るべきではないと考える。</li> <li>○ 地下駐車場は必要か。掘削の際、水の流入のため工期遅延の可能性があり、止水板、土嚢はそもそも機能するのか疑問である。武道館をあきらめて地上の駐車場を増やしてはどうか。</li> <li>○ 津波・長期浸水地域に地下駐車場を作ることに反対する。潮江地域は南海トラフ地震などの大規模地震発生時に、液状化と地盤沈下のリスクが高い地域である。</li> <li>○ 駐車場については、地下駐車場は浸水リスクに加え、暗く感じられ、駐車もしづらさを感じる。地下駐車場を整備される場合には、明るさにもご配慮をお願いしたい。</li> <li>○ 駐車場は規模が中途半端で、わざわざ地下式にするメリットが分かりにくい。旧南高校に臨時ではなく常設の立体駐車場整備を提案する。</li> <li>○ 津波浸水地域に地下駐車場を作るなんて正気の沙汰ではない。</li> </ul>		

## 7 防災対策

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(防災対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津波浸水区域内での立地となるため、震災時に多くの利用者が避難できるようハード面はもとより、ソフト面も含めて最大限の対策を講じるべき。地域住民の安心と安全のために、防災の拠点施設ともなるよう検討を深めるべきである。</li> <li>○ ①三重防護の決壊も想定する中で、地下空間を整備する計画は、「制御不能な二次災害を未然に防止する」とする高知市総合計画との齟齬をきたすのではないか。②2,000人規模の指定避難所指定はアスパルグラウンドの存在が大きかったのではないか。地下空間が使えない浸水時の代替機能をどう確保するのか。</li> <li>○ 水害時の安全性を最優先に考慮し、一階部分を駐車場（ピロティ構造）とし、メインアリーナ等の主要機能を想定浸水深より上の階層へ配置する「メガストラクチャー（高床式構造）」への変更を提案する。</li> <li>○ 新体育館は災害時の避難所や物資輸送拠点としても位置づけられているが、現敷地のリスクを踏まえると、自家発電の燃料備蓄や生活用水確保など、名実ともに機能する設計への精査が必要である。</li> <li>○ 一旦津波が来ればこの建物の下部は水没し、アリーナは壊滅的な被害を受け、修復には多大な費用と時間を要する。これを避けるには、津波の来ない別敷地の高台に建てるか、一階の床を4～5m上げる方法がある。現在の予定地は厳しい日影規制と道路斜線制限があり、5,000人収容アリーナに必要な最低14～15mの天井高では床を上げる計画は不可能である。</li> <li>○ 県民体育館は潮江地区にあり、「津波浸水」ばかりでなく、地震直後の大規模火災とともに「津波火災」の発生危険度が高い場所である。これは単に「津波浸水」による被害ではなく、多くの「人命」に関わる問題である。この問題は「設計」のみで解決するものではない。様々な施設を集約するが、「巨大地震」を踏まえるなら「集中」より「分散」の視点でも検討すべきである。「巨大地震」の被害想定およびその後の復旧・復興を踏まえた計画とすべきである。</li> <li>○ 計画地は津波被害イエロゾーン・長期浸水地域だが、ここに今から県が巨費を投じて建てるアリーナの床面が水没を前提にしていることは問題である。せめて水没を免れる高さを確保するために嵩上げするのが県の最低限の責任である。</li> <li>○ 1階部分をピロティ構造にし、その上に体育館を配置することで津波浸水対策としつつ、災害時には周辺住民の「津波避難所」としても機能させること。</li> <li>○ 現在地は津波浸水や周辺の混雑が懸念される地域である。南海トラフ地震を想</li> </ul>	<p>新県民体育館は利用者や地域住民が緊急に避難することができる「指定緊急避難場所」や一定期間避難生活を送ることができる「指定避難所」の指定を見据えた規模・構造とし、地域の防災力を高める施設を目指します。</p> <p>現在、L2クラス（1000年に1回程度発生しうる最大クラス）の地震が発生した場合、2～3mの津波浸水が予想されており、メインアリーナ2階以上の観客席やコンコース、サブアリーナ屋上などに一時避難ができるよう整備を行うとともに、収容可能人数分の備蓄スペースの確保などの防災対策を講じます。</p> <p>なお、必要な機能については、高知市としっかりと連携しながら検討を進めます。</p> <p>また、災害時の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うため、防災訓練や日常的な広報に努めることとします。</p>	<p>9</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
定した際、避難所や防災拠点として機能するための具体的な安全対策を提示してほしい。		

## 8 事業手法

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(事業手法の選定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業手法の選択は、利用料金水準や県民のスポーツ利用機会、長期的な財政負担に深く関わるものである。県民がより実質的な意見を述べられるよう、評価結果と選定理由が固まった段階で、改めて情報を共有していただきたい。</li> <li>○ これまでの高知県発注方法を変更することは難しいと思慮するが、単純に分離発注とするのではなく、入札不調等のタイムロスがなくせるような発注方法、発注条件としていただきたい。</li> <li>○ 本工事は高知県発注のため、県内建設会社との共同企業体組成が求められると考えるが、入札参加のための共同企業体組成の要件等については、入札公告前のできるだけ早い段階で情報提供をいただきたい。</li> <li>○ 指定管理にせず高知県直営にしてほしい。</li> <li>○ 建設後の運営に民間事業者が参画するのは20年が目安とのことだが、50～60年の建物の耐用年までをどう過ごす(負担する)のか。</li> </ul>	<p>事業手法については、新県民体育館が県民が「スポーツをする」施設(社会体育施設)としての機能をベースとしていることや、県民等の意見の反映、状況変化や不足のリスクへの対応、供用開始時期などを総合的に判断し、設計・施工・運営を分離して発注する、いわゆる「従来方式」を採用することとしています。</p> <p>入札不調等による供用開始時期の遅れを防ぐため、適切な発注方法や発注条件のあり方を検討していきます。その際には、県内事業者の参入に配慮し、共同企業体組成の要件なども併せて検討していきます。</p>	<p>5</p>

## 9 教育的配慮

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(アスパルこうちへの教育的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グラウンド廃止に至る意思決定過程では、当事者にごく簡易なアンケートが行われたのみで、十分な意見の反映がなされていない。現時点からでも、子ども・保護者・当事者の意見を聞き取り、グラウンドの使用の是非について再検討すべきである。</li> <li>○ 計画によって直接影響を受ける当事者の意見聴取が十分に行われる前に方向性が決定されたことは、丁寧な合意形成の観点からも、子どもの意見表明権の保障からも問題がある。県民との議論と十分な検討を経たうえで計画を進めるべきである。</li> <li>○ 高知市では不登校児童生徒数が増加しており、多様な学びの場や教育支援センターの充実が求められている状況の中で、現在の教育環境を後退させることは慎重であるべきである。不登校の子どもたちにとって最善の環境は何かを中心に据え、教育的観点から改めて検討すべきである。</li> <li>○ アスパルのグラウンドは不登校の子どもたち以外にも高校生や社会人も利用している。教育的配慮について屋上に人工芝を敷いた代案が示されたが、当事者はそのことに納得していない。当事者ともっと話し合いをしてもらいたい。</li> <li>○ グラウンドは無くさないでほしい。多数の意見を聞くこと。</li> <li>○ 体育館・ちばさん・武道館・プールを今の体育館スペースに詰め込むため、グラウンドをつぶすのをやめてほしい。土に触れることは子どもたちの成長に欠かせない。</li> <li>○ 新体育館の屋上に人工芝グラウンドを設ける代案が示されているが、広さや利便性などで違いが大きいのではないか。</li> <li>○ 不登校の子どもたちが通う施設の隣である。当事者の子どもたちや保護者の意見も十分に聴いて計画を進めてほしい。</li> <li>○ 今回の新県民体育館整備等基本計画に反対する。アスパルこうちのグラウンド敷地を使うことに対して、現在そのグラウンドを利用している人の意見を聞いていない。また、教育支援センターの近くに人を集める施設ができたら、教育支援センターに通うことができなくなる子ども出るのではないか。現在教育支援センターから見える広々とした空が見えなくなるのも、子どもたちに精神的に圧迫感を感じさせるのではないか。</li> <li>○ アスパルこうちのグラウンド廃止に反対する。グラウンドは不登校の子ども達</li> </ul>	<p>これまで、アスパルこうち内の教育支援センター利用者等を対象としたアンケートを実施し、子どもや保護者のご意見の把握に努めてきたところです。</p> <p>教育支援センターに通う子どもや保護者の意見は様々あり、その声を丁寧に受け止めることは重要であると認識しています。</p> <p>今後、高知市教育委員会との継続的な協議を通じて、子どもや保護者等の意見も踏まえながら、教育活動に支障が生じないように、必要な配慮や環境整備について検討していきます。</p> <p>アスパルこうちのグラウンドを全面利用することの代替措置として、高知市教育委員会とも協議の上、サブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、子どもたちが運動や活動のために優先的に使用できるスペースを設置することとしています。</p> <p>また、アスパルこうちのグラウンドを利用している団体に対しては、現在の利用状況を踏まえ、旧高知南中高のグラウンドを含む市内の公的施設が所管するグラウンドの情報提供を行うとともに、旧高知南中高のグラウンドに照明設備を設けるなど、代替施設の確保について検討していきます。</p>	<p>19</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>やスポーツクラブの青年達、工業高校や南高校の生徒達が使っている。若者の場所を奪わないでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アスパルこうちグラウンドを必要としている人が多く、無くしてはいけない。</li> <li>○ アスパルこうちのグラウンドを屋上に設置するなど、「その場しのぎ」に感じる。</li> <li>○ グラウンドを残してほしい。今、必要としている児童生徒がいる。子どもの声を聴いてほしい。</li> <li>○ 概要に「隣接する高知市教育施設の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮」とあるが、そもそも利用者のいる市の施設を用途の異なる県の施設敷地に召し上げること自体が配慮を欠いていると言わなければならない。</li> <li>○ 対処療法かもしれないが、増えている不登校の子ども居場所の一つであるアスパルの機能が後退することはやってはいけない。アリーナ建設でのグラウンド使用はやめてほしい。</li> <li>○ アスパルこうち内にある教育支援センターみらいに通う不登校の子ども達もアスパルこうちのグラウンドを利用している。工業高校のグラウンドを不登校の子ども達が借りることは現実的ではない。旧高知南中高グラウンドも児童が利用しに行くには遠く、車移動にも教員不足で難しい。子ども達や若者のことをもっと知って考えてほしい。</li> <li>○ 教育施設グラウンドが他の目的に使用されることは不適切である。本来の教育支援や青少年スポーツに使用すべきである。</li> <li>○ 高知市の土地であるアスパルこうちのグラウンドは使用しないでほしい。</li> <li>○ アスパルは高知市民の財産である。これを非情にも取り上げていないか。</li> </ul>		

## 10 料金設定

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(料金設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ プールの利用料金について、高齢者からも学生と同額の利用料を徴収すべき。</li> <li>○ 安定した施設維持費の確保について、平日等の県民利用による利用料金収入が確保されるよう、会議室や多目的ルーム、トレーニングルーム等の日常的に使われる機能を一定、整備することが必要。駐車場の利用料について、県民の日常利用への費用負担に配慮をしたうえで、収入確保について検討すべき。</li> <li>○ プールの教育利用を行う場合、市内の公立小・中学校から一定の利用料を徴収することで、平日日中の利用収益を補填できる可能性があるのではないかと。</li> <li>○ 市民は出来るだけ安いところを探して利用している。賃金は上がらないのに物価は高騰し、やりくりしながら生活をしている中でも気軽に利用できる施設にしてほしい。</li> <li>○ 現在県民体育館やプールを利用している人たちの声を十分に聞いて、利用料金も使いやすく、県民・市民の納得のいくものにしてほしい。</li> <li>○ 利用料金設定を県民が利用しやすいものにしてほしい。</li> </ul>	<p>利用料金の設定においては、県民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるよう配慮する一方で、施設の維持管理費等の支出に利用料金などの収入を充て、県の財政負担（税負担）を抑える視点も重要です。</p> <p>プロスポーツや音楽コンサート等の興行の利用料金は高めに設定し、アマチュア競技の利用料金は低めに設定するなど、利用目的に応じた適切な料金設定を、現在の県民体育館や他施設などの事例も踏まえて検討していきます。</p>	<p>6</p>

## 11 その他

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p><b>(プロスポーツチーム誘致)</b></p> <p>○ 県民のどれほどが税金投入を伴ってまで支援を望んでいるのかは十分な議論が必要ではないか。今回の県民体育館もBリーグ等のホーム利用を想定しているようだが、複数競技のプロチームを継続的に支える地域となり得るのか、慎重な検討が必要。</p> <p>○ 次の条件と併せて、高知にBリーグが必要なのか、教えてほしい。</p> <p>① 県民の余暇行動の実態</p> <p>② 県全体の人口・経済規模</p> <p>③ 県民の公平性</p> <p>④ 県民課題の優先順位</p>	<p>県内で新たなプロスポーツチーム等の試合が観戦できたり、地元チームが誕生することは、競技力の向上はもとより、観光や地域経済の活性化にも大きく貢献するものと考えています。</p> <p>一方、プロスポーツチーム等の創設については、経営面で中心となる運営会社やメインスポンサーの確保が必要不可欠であり、チーム創設に向けた民間の動きなどとも連携し、必要な支援を検討していきます。</p>	2
<p><b>(既存のイベント等)</b></p> <p>○ 施設が整備され利用が可能となった際には、中学・高校の大会やイベントばかりで地域の方が満足に利用できないという状況は避けていただきたい。年間の施設利用計画作成においては、その点を十分考慮してほしい。</p> <p>○ 複合施設となっているので、武道館が他の用途(コンサートや他の競技団体の大会など)とのバッティングが生じた際には、例えば旧高知南高等学校の体育館使用を認め、代替で使用を許可させること。</p>	<p>新県民体育館では、アマチュアスポーツの競技大会や音楽コンサート等のイベント興行など多様な用途に対応できるように整備しますが、年間の利用調整にあたっては特定の用途に過度に偏ることがないように配慮します。</p> <p>また、旧高知南中高の体育館を含め、県民のスポーツをする機会の際の確保に努めます。</p>	2
<p><b>(若者の参画)</b></p> <p>○ 県内の高校生を対象に、共有スペースのデザインコンペや愛称募集を行うなど、若い世代が整備に参画できる企画を設けてはどうか。</p>	<p>新県民体育館は、若い世代の方々に親しみや愛着を抱いてもらえる施設となることを目指しており、ご提案のように県内の高校生に施設整備の一端に参加いただくことで、より県民や地域、若い世代の方々に愛される施設になるのではないかと期待します。</p>	1
<p><b>(備品等の利活用)</b></p> <p>○ 建て替える時、今の体育館の備品等で使える物はできるだけ捨てずに使ってほしい。例えば、トイレの便器はまだ新しくてきれいな物がたくさんあるので、女性用トイレに和式が多く使いづらい高知市立自由民権記念館に譲渡できないか。</p>	<p>現在の県民体育館で使用している備品の利活用を今後具体的に検討していきます。</p> <p>ご提案の譲渡については、高知市との調整が必要になりますが、一般的に新設よりも費用が高くなるため、難しいのではないかと考えています。</p>	1

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(弘徳館の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立武道館分館である弓道場「弘徳館」の存続を、以下の理由により希望する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①高知県立高知工業高校、同高知追手前高校の練習場となっている。</li> <li>②高知県立弓道場の近くにはバス停・電停がなく、公共交通機関を利用していくことができない。</li> <li>③高知県は「人口1万人当たりの弓道連盟登録人数」が全国一である。</li> <li>④横に広く移動に時間を要する高知県においては、県内の弓道場の数は決して十分ではない。</li> </ul> </li> <li>○ 新県民体育館整備等基本計画の推進にあたり、利用者である高校生・大学生の教育環境、安全性および競技環境への影響を十分に考慮し、「弘徳館」弓道場の存続を強く要望する。</li> <li>○ 現在、弓道は自分の生活になくってはならない存在となっており、今後とも弘徳館の存続を切に希望する。</li> </ul>	<p>弘徳館については、現在県立武道館の分館として、一体的に管理運営を行っています。</p> <p>県立武道館を新県民体育館へ移転・集約化することとしており、弘徳館の存廃は関係団体や利用者のご意見も踏まえた上で検討していきます。</p>	3
<p>(ちばさんセンター大ホールの集約)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高知ちばさんセンターの今後の方針についても、可能な範囲で本計画と併せてお示しいただけると、より安心して計画を受け止めることができる。</li> <li>○ 産振センターからの要請項目を取り入れるかどうかにかかわらず、県としては、ちばさんセンター大ホールの新県民体育館供用開始後の廃止は決定事項なのか。</li> <li>○ なぜ、公益財団法人高知県産業振興センターから高知県知事あて「ちばさんセンター大ホール利用者の利便性確保に関する要請書」を出さないといけなくなったのか。</li> </ul>	<p>ちばさんセンター大ホールの今後のあり方については、大ホールを所有する公益財団法人高知県産業振興センターが令和7年7月に設置した「ちばさんセンター大ホール等あり方検討会」において検討が行われてきました。</p> <p>令和8年4月に開催された第5回の検討会において大ホールの廃止の方向性が示され、6月4日に開催された理事会において、「新県民体育館に機能を移転することを前提に大ホールを廃止する」方針が承認されています。</p> <p>ちばさんセンター大ホール等あり方検討会の過程で、大ホールの既存利用者に対し実施された「新県民体育館の利用意向に関する調査」において、新県民体育館の搬入出口や駐車場等について要望があったことを受け、大ホールの機能が新県民体育館に集約された後においても、利便性が確保され、大ホールが有してきた効果が継続されるよう、同財団法人から要請書が提出されたと承知しています。</p> <p>県としましては、要請内容を踏まえ、搬入出の動線や駐車場などコンベンションホールとして必要な機能・設備を確保していきます。</p>	3

## 新県民体育館整備等基本計画（全体版）（案）の修正内容

資料 2 - 1

No.	ページ	修正内容	理由
1	6	【変更前】県立武道館、高知ぢばさんセンター大ホールを集約 【変更後】県立武道館、高知ぢばさんセンター大ホール及び障害者スポーツセンターのプール機能を集約	新県民体育館のプールは障害のある方が利用できるインクルーシブなプールとする方針であり、県立障害者スポーツセンターのプール機能を移転・集約化するものであることから、基本計画へ明記
2	45	【変更前】コンベンションホール機能の移転・集約化を行う 【変更後】コンベンションホール機能、障害者スポーツセンターのプール機能の移転・集約化を行う	
3	49	【変更前】「内水氾濫」や「高潮」の浸水想定区域としての指定も視野に入れ 【変更後】「内水氾濫」や「高潮」の浸水想定区域としての指定、 <u>長期浸水への対応も視野に入れ</u>	長期浸水区域であることを踏まえ追記
4	58	【変更前】両施設の除却費用も起債対象となる。また、公適債の充当のほか、 【変更後】両施設の除却費用も起債対象となる。また、 <u>障害者スポーツセンターのプールも集約化の対象施設とし、除却する際は起債対象となる。</u> なお、公適債の充当のほか、	No.1及び2と同様
5	69	【変更前】コンサート興行は、チケット収入・グッズ収入とする 【変更後】コンサート興行は、 <u>チケット収入</u> とする	経済波及効果の試算にあたり、コンサート興行時のチケット収入とグッズ収入の全額を算入していたが、地元への経済波及効果としてはチケット収入の一部のみを算入することが妥当と判断
6	69	イベント来場者による波及効果と合計の経済波及効果の値を修正	
7	72	令和6年度「県立スポーツ施設のあり方検討会」の開催実績を追記	県民体育館の再整備に向け本格的に議論をスタートした令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」の開催実績を追記
8	72～74	「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップ（WS）の開催実績などを追記	賑わいづくりや防災などWSで出た意見やアイデアを今後の検討に生かしていくため、基本計画に追記

※この他、表現の統一や文言整理等の軽微な修正を行った。

## 1 計画策定の経緯・目的

現在の県民体育館は、1973年（昭和48年）の開館以降、長年にわたり本県におけるスポーツの振興及び県民の健康増進を図るうえで重要な役割を担うとともに、広く県民に親しまれてきた。競技大会や日常的なスポーツ活動の拠点として多くの県民に利用されてきたほか、成人式や文化イベントの会場としての利用など地域の交流やにぎわいの創出にも寄与してきたところである。

しかしながら、施設・設備の老朽化が進むことに伴い、安全性や快適性の確保、設備機能の修繕などの面で課題が顕在化しているほか、全国規模の大会や音楽コンサートなどのイベント、また近年人気がある屋内プロスポーツ（バスケットボール「Bリーグ」やバレーボール「Vリーグ」など）の試合を誘致・開催する観点で、機能面の制約が指摘されている状況にある。

こうした課題を踏まえ、県民が安全・安心に利用できるスポーツ環境の確保に加え、交流人口の拡大や地域の活性化に資する新たな拠点として、県民体育館の再整備を行うこととした。

令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」、令和7年度からの「新県民体育館整備等基本計画検討会」における議論を踏まえ、本計画は、新県民体育館の基本的な考え方や施設の機能・規模、整備手法等について整理し、今後の具体的な整備に向けた指針を示すものである。

### 県民体育館の再整備等における考え方の方向性（R6年度県立スポーツ施設のあり方検討会）

#### 基本計画策定に向けた重点ポイント

#### ① スポーツ×エンタメ

- ▶ 全国規模の競技大会やプロスポーツの試合、コンサートなど、県内外から若者や子育て世代が集い、楽しめる空間を創出
- ▶ 全県規模の競技大会等の主たる施設として整備



#### ② スポーツ×防災

- ▶ 災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備



#### ③ 同種施設との役割の明確化

- ▶ 周辺の同種施設の状況を踏まえ、県立のスポーツ施設として優先的に整備する機能・規模等を整理し実情に即した施設を整備



#### ④ ユニバーサルなデザイン

- ▶ すべての人が利用しやすいデザインを考慮した整備



#### 新施設の機能・規模

#### <新施設>

- 必要なフロア面積を確保するとともに、**大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能なアリーナ機能を整備**することが望ましい
- フロアをはじめ、附帯設備などに**多様な活用を想定した機能を整備**することが望ましい
- **災害時の避難を想定した整備**が望ましい
- **誰もが自由に集える憩いのエリア**をつくるのが望ましい

#### <具体的な内容案>

- **メインアリーナはバスケットボールコート2面～3面、サブアリーナはバスケットボールコート1面**がとれる広さ
- **メインアリーナは5,000人程度**の観客を収容できる座席数
- **屋外に憩いのスペースと現状以上の台数を収容できる駐車場**
- **多様な活用を想定した床、音響、照明、会議室・控室等の機能**

※上記はR6年度末時点の検討会における方向性であり、基本計画の配置案の施設規模とは異なる

## 2 計画地の概要

計画地（高知県高知市棧橋通二丁目1-53）は、とさでん交通の棧橋通二丁目電停前に位置しており、JR高知駅から車で7分、高知龍馬空港から車で24分とアクセス・利便性も優れた場所となっている。計画地周辺は、高等学校や高知市立青年センター、図書館等の文教施設と住宅地が広がっているエリアである。はりまや橋など高知市中心部から徒歩20分圏内であり、中心市街地と連動した賑わいづくりが期待できる。

計画地は、現県民体育館の敷地と、旧南消防署及びアスパルこうちグラウンドとする。現県民体育館には、主競技場と補助競技場、室内プールで構成された建物と駐車場（82台）があり、主競技場と室内プールにそれぞれエントランスが設置されている。



用途地域	商業地域	第一種住居地域
地域地区	準防火地域	
敷地面積	約17,950㎡	
	4,790㎡ (図上計測)	13,160㎡ (図上計測)
指定容積率	400%	200%
	加重平均：約253%	
指定建ぺい率	80%	60%
	加重平均：約85% (緩和適用値)	



# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 3 現状・課題

現県民体育館においては、施設自体の老朽化や全国規模の大会を開催する際の設備不足といったハード面の課題に加え、利用者のニーズに適切に対応できていないといったソフト面の課題も指摘されている。

### 指摘されている課題

- ① 老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている
  - 近年、多額の修繕コストがかかっており、今後も必要な修繕が見込まれている
  - 修繕の工事期間中に利用できない状況が発生
  - 音響機器や放送設備、照明器具などが古く、構造上や在庫の状況から修繕が難しい設備がある
- ② 土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない
  - 県民体育館の各施設の土日祝及び平日夜間の稼働率はほぼ100%であり、日単位の利用者数も多い
  - 周辺施設（体育館・プール）の利用者も多く、稼働率もほぼ100%
  - 利用希望者は抽選により決定するが、抽選漏れで利用できない状況がある
- ③ 全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している
  - 観客席：現状（1,572席）
  - 駐車場：現状（82台）
  - 全国規模の大会やイベントの開催実績が少ない
  - イベントは、コンサート、プロレス、相撲など
- ④ プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている
  - トップチームによる試合は、ほとんどが野球やサッカーなどの屋外競技に限定
  - 既存の施設では、女性人気が高いバレーボール（Vリーグ）やバスケットボール（Bリーグ）、若者に人気のダンスなどを受け入れることが難しい
  - 全国的にはアリーナ型の施設整備が進んでおり、新たなスポーツの誘致については、施設面から不利な状況がみられる

## 4 整備コンセプト

新県民体育館の整備により目指していく姿や基本的な考え方を以下のとおり整理した。

### 目指していく姿と取り組み

- ・ 新県民体育館を核とした「まちづくり」「地域活性化」を進めることで、スポーツ、文化、観光、経済などの分野で一層の振興を図る
- ・ 県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代が集まり交流することで、関係人口や交流人口の増につなげる
- ・ 子どもたちの健やかな成長を促し、地域の防災力を向上させる施設として活用される

### 基本理念

誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、  
プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点

### 基本方針

- ① まちづくりの拠点  
県民や県外から来られた方が親しみ、愛着を持ち、交流人口や関係人口の拡大につながる、まちづくりやコミュニティの形成のハブとなる施設を目指します。
- ② スポーツ振興の拠点  
県民の誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、若い世代のアスリートの育成や県民のニーズに合ったスポーツを「する」ことができる施設を目指します。
- ③ にぎわいの拠点  
プロスポーツのハイレベルな試合を観戦することにより憧れや感動を抱かせ、スポーツを「みる」という文化を定着させます。  
また、コンサートや展示会などの様々な催しが開催されることで、県外から多くの方が本県を訪れ、飲食や宿泊、観光産業が潤い、地域活性化につながっていくことを目指します。
- ④ 安心・安全な拠点  
県民の誰もが使いやすく安全・安心な施設となるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた施設とします。また、災害等が発生した場合において、施設利用者や地域住民の一時避難が可能な施設とします。

### 整備方針

- ① スポーツをする施設（社会体育施設）に加え、
- ② 「稼げる」施設となるよう、諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備
- ③ 老若男女、特に若者や子どもが集い、多世代で楽しみ、交流できる憩いの空間の整備
- ④ ユニバーサルデザインに対応した整備
- ⑤ 災害時の避難機能を備えた整備
- ⑥ 県の財政状況も踏まえ、コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用した整備
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪ 県立武道館を移転・集約化する整備
- ⑫ 高知ちばさんセンター大ホールの機能を集約し、展示会等のMICEの開催が可能な規模・機能の整備

＜県民体育館の修繕費及び修繕内容＞

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
修繕費	106,020	0	149,900	11,908	2,662	7,590	12,461	778
修繕内容	・体育館・プール外壁改修 ・吊り天井脱着対策	-	・トイレ改修 ・補助競技場空調 ・モーター制御ユニット交換	天井・水櫃壁改修	吐出口修繕	エレベーター修繕	プール換気扇整備 ・湯器交換修繕 ・プール棟トイレ天井補修	・プール換気扇給湯器交換修繕 ・プール棟トイレ天井補修

＜高知市が管理する施設の利用状況：R6年度＞

高知市総合運動場	利用者数(人)	稼働率(※)	高知市東部総合運動場	利用者数(人)	稼働率(※)
体育館(主)	91,367	99%	体育館(※)	27,017	94%
体育館(補助)		99%	プール(※)	47,324	99%
プール	71,307	99%			

※体育館：10月～5月、プール：6月～9月

＜県民体育館の利用者数及び稼働率＞（ ）は土日祝及び平日夜間の稼働率 単位：人

施設	R元						R6	
	R元	R2	R3	R4	R5	利用者(稼働率)	利用人数/日	
主競技場	84,656	44,398	48,928	64,347	74,000	73,333 (99%)	205	
補助競技場	25,556	19,430	22,310	26,366	30,412	31,210 (99%)	87	
プール	61,443	36,763	49,878	59,919	43,161	57,933 (99%)	201	
合計	171,655	100,591	121,116	150,632	147,573	162,476	-	

＜県民体育館で開催した全国規模の大会やイベントの実績＞

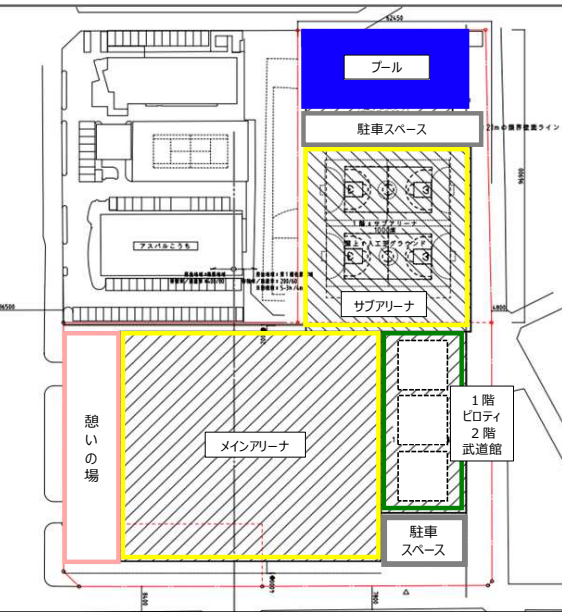
項目	R元	R2	R3	R4	R5	R6
全国大会	2件	0件	1件	2件	2件	1件
イベント	0件	1件	3件	2件	0件	2件

＜県内で開催した主なプロスポーツやトップリーグの大会の実績＞

R2	R3	R4	R5	R6
・プロ野球PSM ・JFL公式戦 ・プロゴルフ公式戦	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・ラグビー公式戦	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・JCL(自転車) ・ソフトアジアカップ	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・JCL(自転車) ・ソフトアジアカップ ・Wリーグ(女子バスケ) ・天皇杯(サッカー)	・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・Wリーグ(女子バスケ) ・天皇杯(サッカー)

# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 5 施設整備計画



### 【敷地】

現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）

### 【主な施設規模】

- メインアリーナ**：バスケットボール3面、バレーボール3面、観客席5,000席以上、床面は土間コンクリート
  - ・壁面に収納できる可動席の設置を想定
  - ・センターハングビジョンなど重量物の吊り下げが可能な強度の天井
  - ・搬出入口を2ヶ所以上確保
- サブアリーナ**：バスケットボール2面、バレーボール3面、観客席500～1,000席程度、床面は木製フローリング、屋上に人工芝等による運動・活動スペースを設置
- 武道館**：試合場3面、片面にひな壇型の観客席300席以上
- プール**：25m×6～8コース程度（うち1コースは入水用スロープ）
- 憩いの場**：メインアリーナ西側などに確保
- 駐車場**：250台以上（地下駐車場を含む）

- ※ 延床面積約17,000㎡～最大19,000㎡（ピロティ、地下駐車場除く）。ただし、現時点で想定する面積であり、設計段階で変動することがある
- ※ メインアリーナ等の施設の中に、各諸室を設置する。具体的には、管理事務室、会議室、更衣室、トイレ、授乳室、控室、医務室、倉庫、機械室、メディアルームなど

### メインアリーナ

- これまで本県で開催できなかったアマチュア競技の全国大会やプロスポーツの試合、音楽コンサート、大規模展示会などのMICEを開催

### サブアリーナ

- 競技大会をサブアリーナ単体で開催可
- 屋上には運動や活動ができる人工芝等のスペースを設置

### 武道館

- 武道大会や練習の場として活用
- パーテーションの間仕切りによる3つの諸室として活用可
- 大規模な武道大会は、サブアリーナやメインアリーナを活用可

### プール

- 障害のある方の利用、将来的な学校の水泳授業の受けこみを想定し、「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」を設置

### 憩いの場

- 来館者が屋外でくつろげ、イベント時や休日にキッチンカーなどを配置し、にぎわいを創出
- サブアリーナとアスパルこうちの建物間のスペースや屋上スペースも憩いの場として活用を検討

### 駐車場

- ピロティや地下などで250台以上の駐車台数を確保

### その他

- メインアリーナは、将来的にプロスポーツチームがホームアリーナとして使用することを前提に、あらかじめVIP席等を設置する場所を想定し、利用ニーズの変化に応じた設備更新などに柔軟に対応できる、増改築がしやすい構造・整備
- 高知県の「県産材利用推進方針」に沿って、建材の一部に高知県産の木材を使用
- 隣接する高知市教育施設（アスパルこうち及び潮江市民図書館）の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮

# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 6 交通手段、駐車場、動線

### 交通手段

#### <電車・バス>

- 来館者には、公共交通機関の利用や徒歩での来館を促す
- 大規模イベントの際には路面電車や路線バスの臨時的な増便に向けて運営主体のときでん交通株式会社と協議していく

#### <自動車>

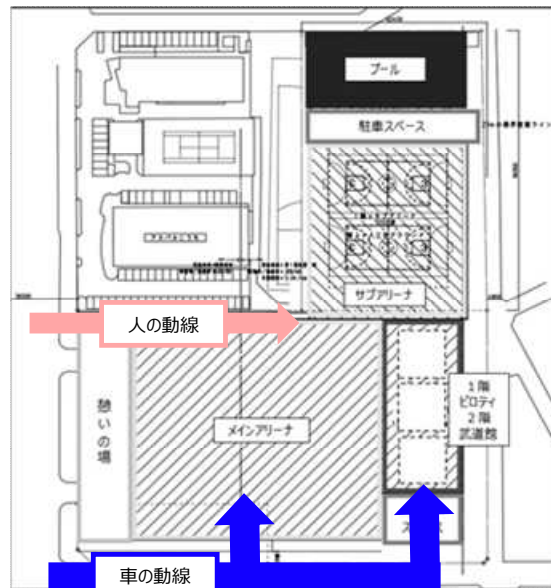
- 周辺での渋滞や混雑の発生を極力少なくするため、車両進入路などの誘導板の設置を検討
- 大規模イベント時には、潮江緑地や旧高知南中高のグラウンド等を臨時駐車場として活用することを検討

### 駐車場

- 地下駐車場を含め250台以上の駐車場を確保する
- 大規模イベント時には、潮江緑地や旧高知南中高のグラウンド等を臨時駐車場として活用することを検討（再掲）
- 市街地の駐車場の利用促進（「まちなか」駐車場割引など）

### 動線

- 人の動線と車の動線を分け、歩行者の安全に配慮
- 周辺に住宅地や教育施設、公園があることに配慮した動線とする
- イベント時の行列や待機場所を想定し、周辺に混雑が発生しないよう配慮
- 車の動線は敷地南側の市道とする
- 設営・撤去を行う大型トラックなどは、敷地南側の市道又は西側の県道34号線から直接メインアリーナのフロア（土間コンクリート）に進入できるようにする
- 搬入出口は、大型トラックが直接乗り入れることができる十分な間口、高さを確保し、段差のない構造とする



## 7 整備にあたっての配慮事項

### ①ユニバーサルデザインへの配慮

- ピクトグラムなど、子どもから高齢者、障害のある方、外国人の方にとって分かりやすい案内表示とし、視覚や音声による情報伝達に配慮するなど、来館するすべての人々が利用しやすい施設とする
- エレベーターやスロープなどにより、車椅子利用者が円滑に車椅子用客席をはじめとする施設内外へアクセスできるよう配慮し、すべての人々が安全で利用しやすい動線を計画する

### ②安全性への配慮

- 大地震発生時などの非常時において、メインアリーナの2階以上の観客席やコンコース、サブアリーナの屋上などに緊急一時避難ができ、収容可能人数分の備蓄を保管するスペースの確保など、防災対策を講じる
- 医務室を設置し、施設外へ通じる通路やドアは、担架や車椅子が支障なく通行できるだけの広さを確保するなど、の緊急医療対策を想定した設計とする
- 試合やイベントの警戒レベルに応じた手荷物検査等が実施できるよう計画するなどのセキュリティ対策を想定した設計とする

### ③快適性への配慮

- どの観客席からもフロア全体が見渡せ、競技者や演技者に近い位置に観客席を設置する
- 観客席は、隣や前の席との間を一定とり、ドリンクホルダーの設置や座りごっこなど快適性へ配慮する
- 競技大会や式典などの開催に必要な照明や音響、空調の水準を確保する
- 音楽コンサートなどに必要な照明や音響の機材は主催者が持ち込むことを想定し、相応の演出が可能な設備水準を確保する
- Wi-Fi環境など、最新鋭の通信環境を整備し、施設利用者の利便性向上に配慮する

### ④環境への配慮

- 周辺に住宅地や教育施設があることに配慮した施設の外観デザインとする
- 周辺駐車場の空き情報の提供など、周辺道路においてスムーズな通行の確保に配慮する
- 建物外への音漏れや振動が生じないように防音・防振対策を講じる
- 省エネルギー性に優れた設備機器を積極的に採用するなど、コスト面、環境面に配慮する
- 周辺には樹木などの植栽を配置する

### ⑤隣接する高知市教育施設の教育活動等への配慮

- 高知市教育施設（アスパルこうち及び潮江市民図書館）の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮する
- 新県民体育館の敷地としてアスパルこうちのグラウンドを全面使用することへの代替措置として、グラウンド敷地に建つサブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、児童・生徒が運動や活動のために優先的に使用できるスペースを設置する
- 新県民体育館の建物はアスパルこうちの建物から一定の距離（15m以上を想定）を確保して圧迫感を軽減することや、新県民体育館の周辺に花壇や樹木などの自然植栽を設置し、児童・生徒が土や草木、虫に触れられるよう配慮する
- 県と高知市教育委員会で定期的な協議の場を設け、新県民体育館の供用開始後も、施設管理者と高知市教育委員会で定期的な協議の場を設ける
- その他、アスパルこうちのグラウンドを全面使用するにあたり、高知市教育委員会が求める「教育的な配慮」について、最大限の配慮を行うこととし、具体的な内容については、県と高知市教育委員会が開く定期的な協議の場で決めていく

# 新潟県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 8 概算事業費

- 過去10年間（2014年以降）に着工したプロスポーツ利用又はコンサート興行利用に対応し、延床面積が10,000㎡以上かつ最大収容人数が概ね5,000人以上のアリーナ施設の情報収集
- オープンハウスアリーナ太田、あなぶきアリーナ香川、SAGAアリーナ、沖縄アリーナなど11施設の整備費をもとに、1㎡あたりの整備単価の平均を算出（72.4万円/㎡）
- 各施設の着工時期が異なるため、建設費高騰の係数補正を行ったうえで、R7年時点の1㎡あたりの整備単価を試算（93.9万円/㎡）
- 延床面積17,500㎡×93.9万円/㎡ = 164.3億円

※下記の延床面積には、ピロティと地下駐車場の面積は含まない

費目	計上すべき費用	新潟県民体育館 延床面積17,500㎡	備考
解体費	現県民体育館及び旧南消防署の解体費	9.6億円	設計事務所の見積
整備費	新潟県民体育館の建設費 ※ピロティ、地下駐車場、人工芝の整備費を除く	164.3億円	他のアリーナにおける建設費単価の平均値に、物価高騰を反映させた建設費単価93.9万円/㎡を採用 ※R7年4月現在予測
	ピロティ（駐車場）の建設費	7億円	
	地下駐車場の建設費	16億円	設計事務所の見積
	人工芝の整備費	0.9億円	
	外構工事費（+駐車場）	3.5億円	
	設計費	4.7億円	設計事務所の見積
	調査費	0.4億円	
	施工監理費	2.5億円	
	<b>合計金額</b>	<b>208.9億円</b>	

・この他、備品の整備費用が必要。 ※参考：あなぶきアリーナ約11億円  
（センターハングビジョン、リボンビジョン、デジタルサイネージ、木製フローリングパネル、移動式観覧席、バスケットゴール一式 など）

着工が予定される令和10年には、さらなる建設費高騰により、事業費の上振れが見込まれる

## 9 収支の見通し

- 収支見通しから、県の財政負担（指定管理代行料）は年間**1.6億円～1.9億円程度**が見込まれる

<試算の考え方>

### ○ 収入

- ・ 貸館収入は、プロスポーツ、音楽コンサート、MICE、競技大会などの年間利用日数に、現県民体育館の利用料金収入をベースに2倍又は1.5倍の水準を想定し算出。利用料金は、平日・土日祝日、アマチュア・アマチュア以外、入場料の徴収あり・なしによって区分して設定
- ・ 貸館以外収入は、備品貸出、ネーミングライツ、広告掲出料、物販飲食、駐車場収入などが考えられ、他のアリーナの事例や本県の状況を踏まえ試算
- ・ 試算パターンとして、「するスポーツ中心」時期は県内にプロスポーツがない時期、「する+みるスポーツ」時期は県内にプロスポーツチームが誕生し、新潟県民体育館をホームアリーナとして試合を開催している時期を想定して、それぞれ試算

### ○ 支出

- ・ 現在の県民体育館の運営にかかる支出実績を踏まえ、延床面積比較による支出の増を見込んで試算

（単位：千円/年）

収入項目	利用料金2倍パターン		利用料金1.5倍パターン	
	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期
貸館収入	76,922	115,898	57,691	86,923
貸館以外収入	27,388	55,448	25,772	52,858
収入合計	104,310	171,346	83,463	139,781

（単位：千円/年）

支出項目	利用料金2倍パターン		利用料金1.5倍パターン	
	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期
人件費	127,144	158,478	127,144	158,478
維持管理費ほか	139,156	171,972	139,156	171,972
支出合計	266,300	330,450	266,300	330,450

指定管理代行料	161,990	159,104	182,837	190,669
---------	---------	---------	---------	---------

# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 10 経済波及効果

### <利用者数と観光消費額>

利用者数 (年間推計)	約35万人	県外観光客がもたらす 観光消費額(年間推計)	約14億円
----------------	-------	---------------------------	-------

※利用者数は、令和8年3月24日に開催した「第7回新県民体育館整備等基本計画検討会」で示した年間利用のシミュレーションの日数に、令和6年度実績の現県民体育館や高知ぎばさんセンター大ホール等の来館者数を乗じて算出した試算。また、県外観光客がもたらす観光消費額は、利用者数のうち県外観光客が約63,000人と見込み、県外観光客1人当たりの消費額22,452円（令和6年県外観光客入込・動態調査報告書（プロスポーツキャンプ等調査）より）を乗じて算出した試算。

### <経済波及効果> 完成後30年間で**1,089億円**を超える効果が見込まれる

#### 【算出方法】

- 高知県経済波及効果簡易分析ツール（平成27年表バージョン）を用いて、県内の消費、投資等の需要の増加がもたらす県内への経済波及効果を試算
- 試算する経済波及効果の期間は30年間とし、年間利用日数シミュレーションで設定した「するスポーツ中心」時期を5年間、「する+みるスポーツ」時期を25年間とした日数に基づき、30年間の累計金額を試算
- スポーツ興行は、チケット収入・飲食費・グッズ購入費・宿泊費。コンサート興行は、**チケット収入**。展示会などのMICEは、飲食費・買物・娯楽費・宿泊費。競技大会・文化系イベントは飲食費・宿泊費とする
- 1催事あたりの来場者数や消費単価は、県内の現状や他県の事例をもとに設定

#### 経済波及効果の総額（30年間）

（単位：百万円）

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
建設による波及効果	20,890	6,257	3,803	30,950
維持管理運営による波及効果	5,985	1,511	1,061	8,558
イベント来場者による波及効果	<b>46,364</b>	<b>15,698</b>	<b>7,408</b>	<b>69,470</b>
合計	<b>73,239</b>	<b>23,466</b>	<b>12,272</b>	<b>108,977</b>

直接効果………自地域内の各産業分野で誘発された生産額  
 第1次波及効果……直接効果によって生じる原材料等の中間需要によって起こる波及効果  
 第2次波及効果……直接効果と第1次波及効果で増加した雇用者所得のうち消費に回された消費需要により新たな生産を誘発する効果

## 11 周辺施設との一体的利用や役割

- 新県民体育館を核として、まちづくりや地域活性化につなげていくために、周辺施設との一体的利用や役割を整理
- プロスポーツの試合や音楽コンサートなどの開催
  - ・ これまで本県で得ることが難しかった新しい体験を提供し、「感動」や「熱狂」、「活気」を生む
  - ・ 関西圏を中心に、県と関係性のある屋内プロスポーツチーム等による教室開催や合宿誘致等を推進
  - ・ Bリーグ、SVリーグなどの屋内プロスポーツ等のプレシーズンマッチ等の招聘
- 展示会などMICEの開催
  - ・ ぎばさんセンター大ホールで行っている展示会等を開催できる規模・機能を確保
  - ・ 新たなMICEの掘り起こしなど、市中心部での新たな経済効果を生む
- 新県民体育館を中心とした滞在時間増・観光消費増を目指す取り組み
  - ・ 新県民体育館の利用前後で主要な観光地や商店街等を巡り、飲食や宿泊など滞在時間を伸ばし、来場者の消費喚起を促す仕組みづくり
  - ・ 市街地の駐車場の利用促進（「まちなか」駐車場割引）
  - ・ 公共交通機関の利用促進
  - ・ 旅館やホテルと連携した宿泊プランの造成
  - ・ 新県民体育館を活用した修学旅行（防災教育）向けの商品造成 など
- 若者に関心の高いアーバンスポーツやeスポーツの大会やイベント
  - ・ ダンス、eスポーツなど、新たなジャンルのスポーツを「する」「みる」体験
- 「よさこい」など観光イベントの会場としての活用
  - ・ 天候に左右されない利点を生かした観光イベントの会場として活用
  - ・ 「よさこい踊り」や「アニメ・まんが」など本県が誇る文化のイベントの会場として活用
- イベントの開催がない日も賑わいを生む設え
  - ・ キッチンカーなどによる飲食の提供、良心市、屋外マーケットなどによる物販
  - ・ 学生の勉強スペースや社会人のワーキングスペースの設置を検討
  - ・ フィットネスジムやランニングコースの設置を検討
- 地震等の災害時には、地域住民や利用者の緊急一時避難所や避難所として活用
  - ・ 地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、災害時の地域住民の受け入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施

# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 12 防災対策・機能

### 現状・課題

- 津波浸水エリアに立地しており、南海トラフ地震（L2クラス）の発生で、2～3mの津波浸水、津波到達時間40～60分が予想される。
- 現在の県民体育館は、「指定避難所」に指定されているが、「指定緊急避難場所」には指定されていない。
- 「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」の浸水想定区域としての指定、長期浸水への対応も視野に入れ、地域の防災力の一層の向上を目指し整備することが望ましい。



### 防災対策

#### (1) 指定緊急避難場所について

- 「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」においても、これらのハザードを対象とした緊急避難場所の指定を見据えた規模・構造
- 津波避難ビル指定に際し、第3次高知市備蓄計画に基づく資機材の保管スペースをメインアリーナ等の2階以上に確保
- 災害時の地域住民の速やかな受入れはもとより、これを円滑に行うための日常的な広報や防災訓練の実施

#### (2) 指定避難所について

- 台風・風水害はもとより、南海トラフ地震においても揺れや津波の被害を免れた際の避難所の指定
- 施設全体のうち指定避難所の収容人数及び居住スペースとして可能なエリア・範囲を考慮した設計
- 収容可能人数分の備蓄スペースの確保
- 避難所の指定後は、地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、災害時の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施

#### (3) 地下駐車場を整備する場合の対策

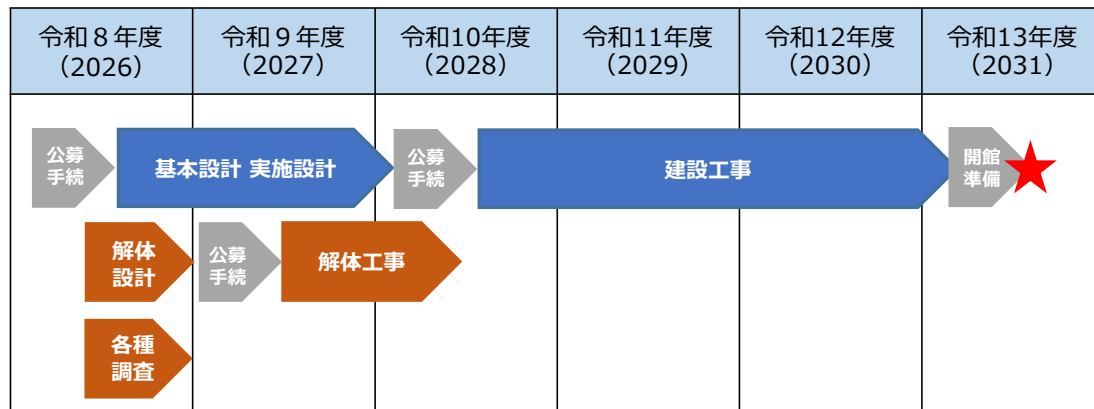
- 地下駐車場の出入り口に止水板や土嚢等の設置による物理的な浸水対策
- 浸水した場合に早期復旧が可能な排水ポンプ等の設置
- 地下駐車場から垂直避難ができる階段（ルート）を複数確保
- 水圧でドアが開かなくなることを防ぐため、地下駐車場に対して外開きドアとする仕様の採用

#### (4) その他

- 南海トラフ地震を想定し、電気やガス、通信（Wi-Fi、電話）等のインフラについて、耐災害性の考慮（例：太陽光発電・蓄電池、空調整備の熱源をプロパンガスや、都市ガスとプロパンガスの併用にするなど）
- 避難所の食事の質や生活用水、トイレ環境といった良好な生活環境を提供することに努め、発災後にも活用可能な調理設備や入浴設備等の整備を検討
- 高知市の教育施設との連携した避難訓練の実施

## 13 整備スケジュール

新県民体育館は令和13年度半ばの供用開始を目指す。



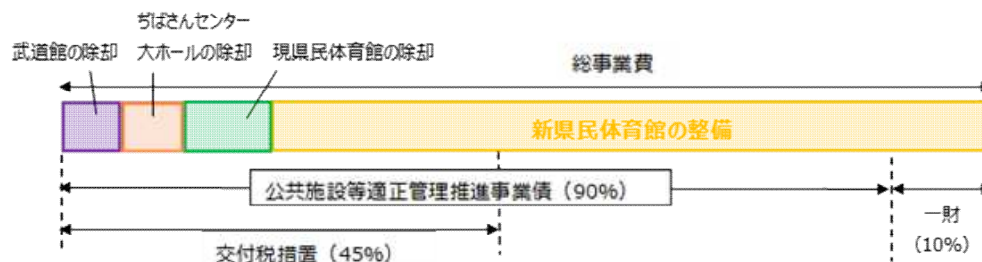
## 14 財源内訳についての考え方

県立武道館と高知ぢばさんセンター大ホールの除却費用を含めた全体整備コスト

概算事業費 約216億円 うち公共施設等適正管理推進事業債192億円  
※県の実質負担額 120億円

※「8 概算事業費」で示した試算に基づき、公共施設等適正管理推進事業債の対象事業費を214.2億円と見込み、充当率90%で起債額は192億円、交付税措置率50%を踏まえ、国からの支援額は96億円と試算

### <公共施設等適正管理推進事業債の充当イメージ>



- 公共施設等適正管理推進事業債は、対象事業費における起債充当率90%、交付税措置率50%の有利な制度
- 公共施設等適正管理推進事業債の充当における集約化・複合化の対象施設に県立武道館及び高知ぢばさんセンター大ホールを含めるため、その除却費用も起債対象となる。また、障害者スポーツセンターのプールも集約化の対象施設とし、除却する際は起債対象となる。
- 施設のうち指定避難所に指定される予定の部分については、緊急防災・減災事業債の活用も検討するとともに、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など、民間資金の活用も視野に入れる

# 新県民体育館整備等基本計画（概要版）

## 15 事業手法

事業手法は、本施設整備の特性を踏まえて、施設建設や管理運営の検討方針について、「県の財政負担が軽減されること」「民間ノウハウが効果的に発揮されること」「一定の県民利用が確保されること」の3つの目的が達成できる事業手法及び管理運営手法を抽出した。

令和7年11月から12月及び令和8年3月から4月にかけて行ったサウンディング調査（民間企業意向調査）などの定性的評価とVFMの定量的評価を踏まえ、総合的に事業手法を選定

### ＜事業手法の評価＞

従来方式と比較し、官民連携手法によりどれだけの財政負担額を削減できるかを示す割合であるVFM（Value For Money）を算出し、定量的評価を行った。  
また、サウンディング調査（民間企業意向調査）結果などを踏まえ、事業手法に関する判断項目と比較検討し定性的評価を行った。

事業手法及び管理運営手法	概要	事業スキーム図
<b>従来方式（+指定管理）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が設計、建設、維持管理・運営の各業務を個別に分離して民間事業者に発注</li> <li>維持管理・運営業務は別途指定管理者の公募手続きを行い、指定管理者を選定する場合もある</li> <li>各段階において公共の意向が反映しやすい一方、設計と施工が分断されることにより、工期短縮は期待しにくい</li> </ul>	
<b>DB+O（指定管理）方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が設計業務と建設業務を一括して民間事業者に発注</li> <li>従来発注よりも発注手続きが一括で実施することができるため期間を短縮することが期待</li> <li>維持管理・運営業務は別途指定管理者の公募手続きを行い、指定管理者を選定</li> </ul>	
<b>DBO（指定管理）方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が設計施工と維持管理・運営を一括して民間事業者に発注</li> <li>従来発注よりも発注手続きが一括で実施することができるため期間を短縮することが可能</li> <li>民間事業者は一定の裁量の中で設計から運営までを実施することから、設計業務の段階から運営視点が反映された設計を行うことが期待</li> </ul>	
<b>PFI（BTO）方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が設計施工と維持管理・運営を一括して民間事業者が本事業のみを実施するために設立する特別目的会社（SPC）に発注</li> <li>自治体は基本協定とPFI事業契約を締結するのみとなる</li> <li>民間事業者は、整備～維持管理・運営に関わる構成企業がSPCを組成し、SPCから各企業が委託を受けて各業務を実施。また、事業費を金融機関からプロジェクトファイナンスで調達</li> </ul>	

	従来方式	DB+O方式	DBO方式/PFI-BTO方式
VFM	-	1.7%	3.8%/3.5%
設計施工段階の運営目線確保	県が設計段階から主体的に関与し、運営目線を調整・反映可能（アドバイザー等を活用）	アドバイザー活用等について要求水準書に詳述することで運営目線を一定反映（県の主体的関与には制約あり）	設計段階から運営企業が参画し、運営目線の反映が可能
県民等の意見反映とその説明	設計、施工の各段階において、県民や議会に対してタイムリーに、丁寧に進捗報告や説明が可能。透明性と合意形成の確実性を確保できる	事業者選定（要求水準書の提示・契約）のタイミングで一括して説明。契約締結以降は、設計と施工が民間主導で一体不可分として進行するため、途中段階（基本設計相当の時期など）で県民意見の反映が構造的に難しい	
状況変化やリスクへの対応（計画変更など）	設計・解体・本体工事の手順を県が握るため、状況変化への柔軟な対応が可能 ・発注者支援業務を導入することにより、執行体制を補強し、同時並行の複雑な工程を安全・確実に管理することが可能	民間への一括委任となるため、契約後の状況変化に対して柔軟な軌道修正が利きにくい	
工期遅延のリスク	各段階の分離発注となるため、市場の影響を受けやすく、 <u>入札不調のリスクが伴う</u> 。 工期遅延リスクは一番高い	不調リスクは一括契約時のみ。万一、 <u>再公募となった場合のタイムロス</u> は従来方式よりも長い	
<b>総合評価</b>	◎	○	△

DB: Design Build（設計施工一体発注方式） DBO: Design Build Operate（設計施工運営一体発注方式）

<b>結論</b>	<p><b>本事業に最も適合する事業手法として、「従来方式」を採用とする</b></p> <p>※なお、実施にあたっては、サウンディング調査などにより市場動向等を踏まえ、不調・不落の回避や工期の確実な遵守に努める。</p>
-----------	---

### ＜まとめ＞

定量的評価では、官民連携手法は従来方式と比較して、公共負担額を最大3.8%（現在 価値ベース）削減できる試算となったが、本事業で重視する事項の定性的評価を踏まえ、総合的に判断した結果、新県民体育館が社会体育施設としての機能を有することに加え、県民等の意見反映、状況変化やリスクへの対応などの観点から、最も適した事業手法として「従来方式」を採用する。

なお、実施にあたっては、サウンディング調査などによる市場動向等の把握や、発注者支援業務の導入等を検討し、不調・不落の回避や工期の確実な遵守に努める。

# 新県民体育館整備等基本計画（案）

令和 8 年 6 月

高知県

## 目次

第1章	はじめに	1
1.	基本計画策定の経緯・目的	1
2.	現県民体育館の現状と課題	2
第2章	基礎調査	5
1.	上位計画、関連計画との整合	5
2.	現県民体育館の利用状況	7
3.	ニーズ調査	8
4.	県民意見の把握	19
第3章	計画地の概要	34
1.	立地環境と周辺環境	34
2.	計画地の現状、特性	34
3.	関連法規制の整理	35
第4章	整備コンセプト	36
1.	基本的な考え方（基本理念と目指していく姿と取り組み）	36
2.	基本方針	37
3.	整備方針	37
4.	周辺施設との一体的利用や役割	38
5.	施設整備において配慮すべき事項	39
第5章	施設整備計画	41
1.	関係規則、ガイドライン等整備条件の整理	41
2.	集約化の検討	45
3.	施設構成と機能・規模	46
4.	構造計画（耐震安全性含む）	49
5.	防災対策・機能	49
6.	イメージパース	51
第6章	周辺環境への配慮についての検討	55
1.	動線計画	55
2.	公共交通利用促進策	55
第7章	概算事業費の算定	56
1.	イニシャルコストの検討	56
2.	ランニングコストの検討	57
3.	収入の見通し	57
4.	財政負担額（指定管理代行料）の見込み	58
5.	財源の確保	58

第8章 事業手法及び管理運営手法.....	59
1. 適用可能な事業手法の抽出.....	59
2. 事業スキームの検討.....	59
3. 民間企業意向調査.....	62
4. 事業手法の評価.....	68
第9章 経済波及効果.....	69
1. 経済波及効果の前提条件.....	69
2. 経済波及効果の試算結果.....	69
3. 利用者数と観光消費額.....	70
第10章 整備スケジュール.....	71
1. 整備スケジュールの検討.....	71
第11章 実現に向けた課題整理.....	72
1. 検討会での議論.....	72
2. 今後の検討課題及び方針.....	72

## 第1章 はじめに

### 1. 基本計画策定の経緯・目的

現在の県民体育館は、1973年（昭和48年）の開館以降、長年にわたり高知県（以下、「本県」という）におけるスポーツの振興及び県民の健康増進を図るうえで重要な役割を担うとともに、広く県民に親しまれてきた。競技大会や日常的なスポーツ活動の拠点として多くの県民に利用されてきたほか、成人式や文化イベントの会場としての利用など地域の交流やにぎわいの創出にも寄与してきたところである。

しかしながら、施設・設備の老朽化が進むことに伴い、安全性や快適性の確保、設備機能の修繕などの面で課題が顕在化しているほか、全国規模の大会や音楽コンサートなどのイベント、また近年人気がある屋内プロスポーツ（バスケットボール「Bリーグ」やバレーボール「Vリーグ」など）の試合を誘致・開催する観点で、機能面の制約が指摘されている状況にある。

こうした課題を踏まえ、県民が安全・安心に利用できるスポーツ環境の確保に加え、交流人口の拡大や地域の活性化に資する新たな拠点として、県民体育館の再整備を行うこととした。

令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」、令和7年度からの「新県民体育館整備等基本計画検討会」における議論を踏まえ、新県民体育館整備等基本計画（以下、「本計画」という）は、新県民体育館の基本的な考え方や施設の機能・規模、整備手法等について整理し、今後の具体的な整備に向けた指針を示すものである。

## 2. 現県民体育館の現状と課題

### (1) 位置

現県民体育館は高知市内にあり、JR 高知駅から車で7分、高知龍馬空港から車で24分とアクセス性に優れている。

図表 1 現県民体育館の位置



## (2) 施設の概要

現県民体育館は昭和48年に開館し、施設の構成として主競技場、補助競技場、屋内プールを備え、現在は公益財団法人高知県スポーツ振興財団が指定管理者として管理を行っている。

図表 2 現県民体育館の施設概要

設置年	昭和48年(1973年)
所在地	高知市棧橋通2丁目1番53号
面積	敷地面積：10,714 m <sup>2</sup> 建築面積：6,094 m <sup>2</sup> 延床面積：8,901 m <sup>2</sup>
施設内容	主競技場1階：1945.30 m <sup>2</sup> (39.7m×49m) バスケットボール2面、バレーボール3面、 バドミントン10面、卓球36面 定員4,644人 観客席(固定)1,572席 補助競技場：786.48 m <sup>2</sup> (23.2m×33.9m) バスケットボール1面、バレーボール1面、 バドミントン3面、卓球16面 屋内プール：25m×8コース 駐車場：82台 空調設備：主競技場及び補助競技場に完備
指定管理者	(公財)高知県スポーツ振興財団(令和7～11年度)
外観・内観	  

### (3) 施設の課題

現県民体育館においては、施設自体の老朽化や全国規模の大会を開催する際の設備不足といったハード面の課題に加え、利用者のニーズに適切に対応できていないといったソフト面の課題も指摘されている。

図表 3 現県民体育館の課題

課題	概要
老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、多額の修繕コストがかかっており、今後も必要な修繕が見込まれている</li> <li>修繕の工事期間中に利用できない状況が発生</li> <li>音響機器や放送設備、照明器具などが古く、構造上や在庫の状況から修繕が難しい設備がある</li> </ul>
土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民体育館の各施設の土日祝及び平日夜間の稼働率はほぼ100%であり、日単位の利用者数も多い</li> <li>周辺施設（体育館・プール）の利用者も多く、稼働率もほぼ100%</li> <li>利用希望者は抽選により決定するが、抽選漏れで利用できない状況がある</li> </ul>
全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場の不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>観客席：現状（1,572席）</li> <li>駐車場：現状（82台）</li> <li>全国規模の大会やイベントの開催実績が少ない</li> <li>イベントは、コンサート、プロレス、相撲など</li> </ul>
プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>トップチームによる試合は、ほとんどが野球やサッカーなどの屋外競技に限定</li> <li>既存の施設では、女性人気が高いバレーボール（Vリーグ）やバスケットボール（Bリーグ）、若者に人気のダンスなどを受け入れることが難しい</li> <li>全国的にはアリーナ型の施設整備が進んでおり、新たなスポーツの誘致については、施設面から不利な状況がみられる</li> </ul>

## 第2章 基礎調査

### 1. 上位計画、関連計画との整合

#### (1) 上位計画との整合

新県民体育館の整備にあたっては、高知県の上位計画におけるスポーツに係る施策の内容と整合を図り、計画を進める。

#### ① 高知県元気な未来創造戦略

高知県元気な未来創造戦略では、「将来を担う若者が、地域地域で魅力のある仕事に就き、いきいきと住み続けられる元気な高知県」を目指す姿とし、人口減少問題の克服に向け、「若者の定着・増加」を図るとともに、人口減少に適応した持続可能な社会の実現を目指して、「4 S（※）プロジェクト」を推進することとしている。

新県民体育館の整備は、競技環境の充実に加え、プロスポーツや大規模イベントの誘致により、特に若者や子育て世代が集い交流する機会を創出することで、スポーツを通じた交流人口の拡大や地域の賑わいづくりに寄与するものである。また、県立武道館や高知ちばさんセンター大ホール等の集約化により、公共施設等の適正な配置と効率的な運営に寄与するものである。

※ Smart Shrink for Sustainable Society（持続可能な社会の実現に向けた賢い縮小）

#### ② 第5期高知県産業振興計画

第5期高知県産業振興計画では、「地産外商」と「イノベーション（変革）」を戦略の柱に据え、「人口減少による負のスパイラル」により、下降を続けていた本県経済を上昇に転じさせ、県勢浮揚を成し遂げるため、本県経済の根本的な課題に正面から向き合い、抜本的な体質強化を図ることとしている。

新県民体育館は、若者に人気がある屋内競技のプロスポーツの試合や音楽コンサート、MICEなどの開催により、集客や賑わい、交流が生まれ、関係人口や交流人口の拡大、ひいては若者の県外流出の抑制につながるよう取り組むものである。

#### ③ 第3期高知県スポーツ推進計画

第3期高知県スポーツ推進計画では、誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境をつくとともに、青少年の健全育成や女性のスポーツ参加促進、共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進など、スポーツを通じて全ての県民や県内全ての地域を元気にする取り組みを進め、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力ある社会の実現を目指すこととしている。

施策の柱として「スポーツ参加の拡大」、「競技力の向上」、「スポーツを通じた

活力ある県づくり」を掲げており、新県民体育館の整備は、運動やスポーツをする機会の拡充や、全国大会や世界大会を目指す選手の育成、スポーツを通じた地域の活性化・まちづくりに資するものである。

## (2) 関連計画との整合

新県民体育館の整備にあたっては、高知県の関連計画におけるスポーツに係る施策の内容と整合を図り、計画を進める。

### ① 高知県公共施設等総合管理計画

高知県公共施設等総合管理計画では、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化・多様化していくことが予想されることを踏まえ、長期的な視点で、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置や有効活用の実現を目指すこととしている。

新県民体育館の整備にあたっては、県立武道館、高知ぢばさんセンター大ホール及び障害者スポーツセンターのプール機能を集約することにより、公共施設等の適正配置を図るとともに、効率的な施設運営の実現を目指すものである。また、整備費用の財源に有利な国の支援制度である「公共施設等適正管理推進事業債」を充当し、県の実質負担の軽減を図る。

### ② 高知県地域防災計画

高知県地域防災計画では、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方を基本方針とし、とりわけ人命を守るための対策を最重視するとともに、経済的被害ができるだけ少なくなるよう、防災関係機関、事業者、住民が一体となって、さまざまな対策を組み合わせた防災対策を推進することとしている。

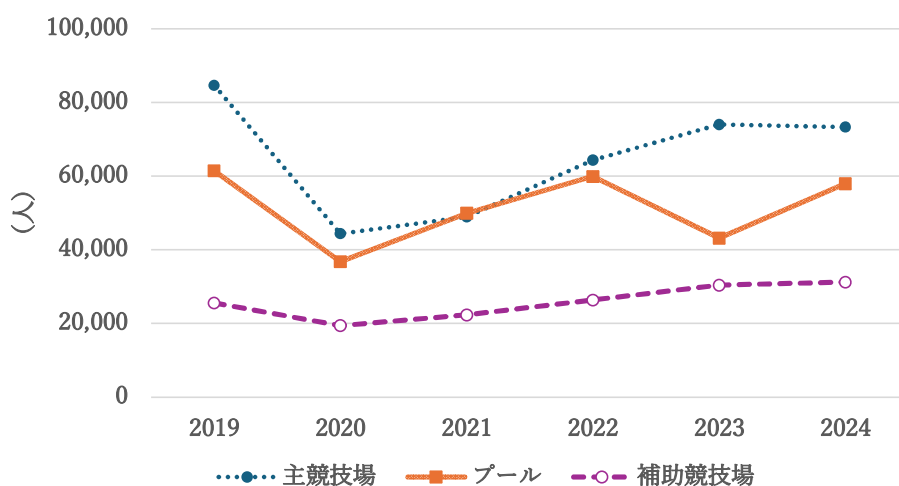
新県民体育館は、地域の「指定避難所」に加え、「指定緊急避難所」としての機能を備えた施設として整備し、地域の防災力の一層の向上に資するものとする。

## 2. 現県民体育館の利用状況

現県民体育館の利用状況は下記のとおり。2024年度の合計利用者数は162,476人、土日祝および平日夜の稼働率は99%と高くなっており、利用ニーズに対応しかねていることが課題として認識されている。

図表 4 現県民体育館の利用状況

施設	2022年	2023年	2024年	
			利用者（稼働率）	人数/日
主競技場	64,347	74,000	73,333 (99%)	205
補助競技場	26,366	30,412	31,210 (99%)	87
プール	59,919	43,161	57,933 (99%)	201
合計	150,632	147,573	162,476	



### 3. ニーズ調査

#### (1) アンケート調査

##### ① 調査概要

本県のスポーツ競技団体のうち、屋内競技のスポーツ団体に対してアンケート調査を実施し、12団体より回答を得た。

図表 5 回答団体一覧

団体名称	
• 高知県水泳連盟	• 高知県バドミントン協会
• 高知県レスリング協会	• 高知県柔道協会
• 高知県バレーボール協会	• 高知県剣道連盟
• 高知県バスケットボール協会	• 高知県空手道連盟
• 高知県ハンドボール協会	• 高知県少林寺拳法連盟
• 高知県卓球協会	• 高知県合気道連盟

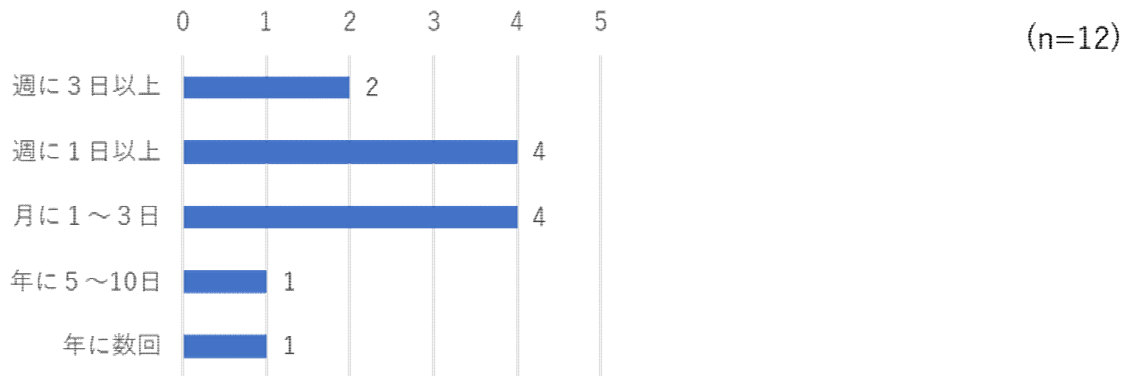
##### ② 調査結果

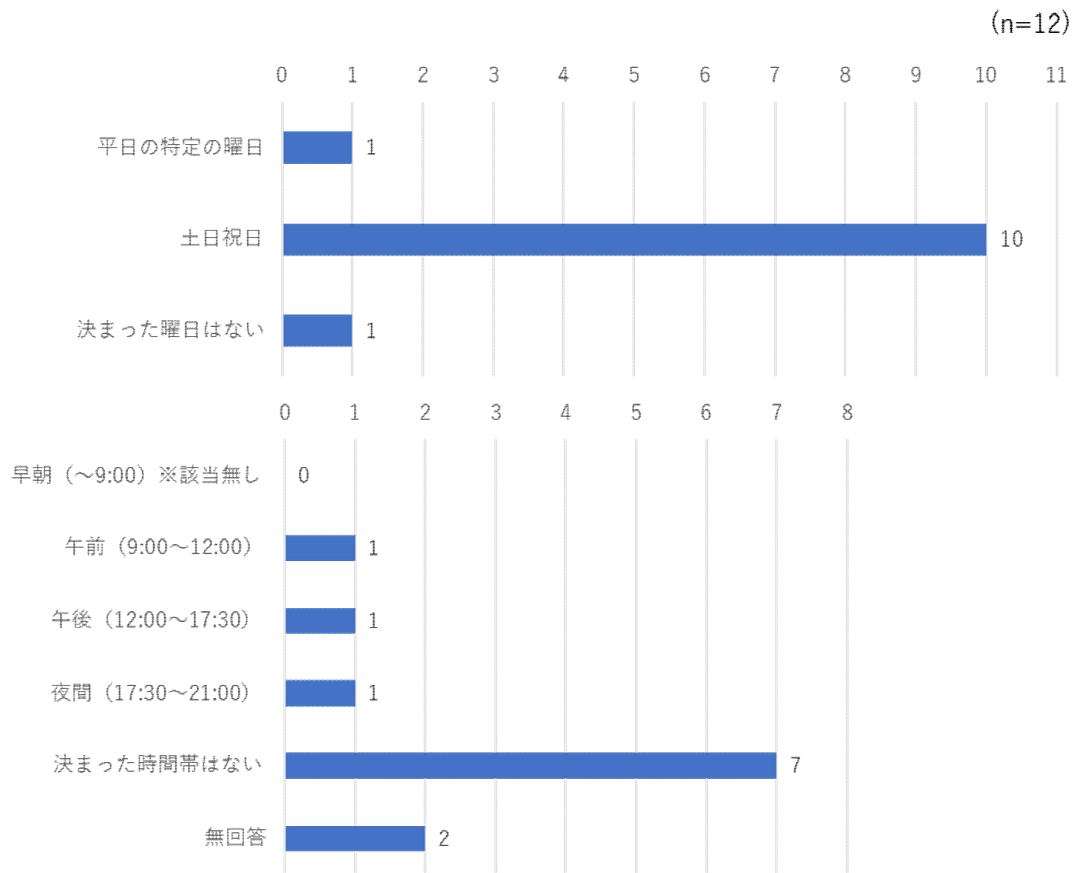
###### i. 現在の活動状況について

12団体中10団体は、月に1度以上活動を実施していた。活動日は土日祝日が中心で、時間帯を定めず活動していた。

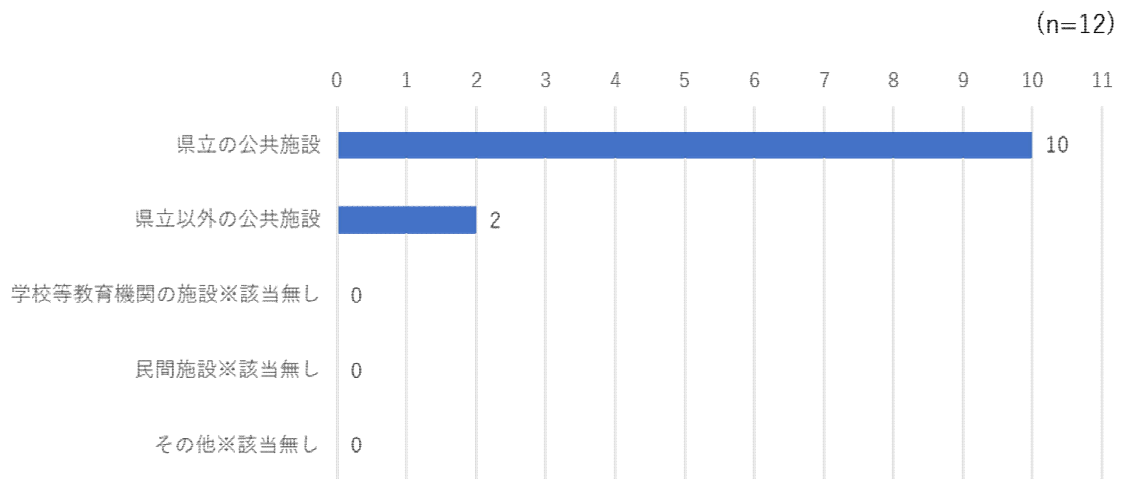
最も活動することが多い場所については、全ての団体が公共施設と回答した。

図表 6 活動の頻度





図表 7 最も活動することが多い場所



ii. 新県民体育館への要望について

理想的な競技面積として、大会・イベント開催時には平時より広い競技面積を必要とする団体が多く、最大で8,000 m<sup>2</sup>が必要であるとされた。

図表 8 理想的な競技面積の広さ

団体名称	平時の競技活動時	大会・イベント開催時
高知県水泳連盟	50m×10 レーン	50m×10 レーン 、 25m×10 レーン
高知県レスリング協会	レスリングマット 4 面分	レスリングマット 4 面分
高知県バレーボール協会	6 人制バレーボールコート 6 面分 メイン 4 面・サブ 2 面 メイン 78m×48m サブ 47m×38m 最低天井高さ 20m	無回答
高知県バスケットボール協会	バスケットボールコート 2 面	バスケットボールコート 4 面
高知県ハンドボール協会	コートを含め、70m×50mあるとよい	コートを含め、70m×50mあるとよい
高知県卓球協会	卓球台 45 台（主競技場）卓球台 20 台（補助競技場）	卓球台 50 台（主競技場）卓球台 25 台（補助競技場）
高知県バドミントン協会	バドミントンコート 16 面分	バドミントンコート 16 面分
高知県柔道協会	柔道試合場 2 面	柔道試合場 4 面
高知県剣道連盟	400 m <sup>2</sup>	8,000 m <sup>2</sup>
高知県空手道連盟	20m×20m 武道館、剣道場程度	40m×40m 武道館 3F 試合場程度
高知県少林寺拳法連盟	バスケットコート約 1 面分	バスケットコート約 2 面分
高知県合気道連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>現県立武道館が廃止される場合→柔道場 1 面×2 室 ※ 1 室でも可だが他武道との兼ね合いで不便になる。 可動式の間仕切り壁があれば使い勝手は格段に向上する。</li> <li>存続の場合→補完施設と考えて柔道場 1 面がほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現県立武道館が廃止される場合→柔道場 4 面が必要。加えて柔道場 2 面が整備されれば他武道とのイベント競合時に対応できる</li> <li>存続の場合→補完施設と考えて柔道場が 2 面あれば、他武道とのイベント競合時に対応できる</li> </ul>

最低限必要な競技面積として、大会・イベント開催時にバスケットボールコート4面程度（約3,600㎡程度）が必要と回答された。

図表 9 最低限必要な競技面積の広さ

団体名称	平時の競技活動時	大会・イベント開催時
高知県水泳連盟	25m×10レーン	25m×10レーン
高知県レスリング協会	レスリングマット4面分	レスリングマット4面分
高知県バレーボール協会	無回答	無回答
高知県バスケットボール協会	バスケットボールコート2面	バスケットボールコート4面
高知県ハンドボール協会	ハンドボールコート2面（40m×20m×2コート）	ハンドボールコート2面余裕をもってとれる広さ。 （コートを含め、60m×50mあるとよい）
高知県卓球協会	卓球台35台（主競技場）、卓球台15台（補助競技場）	主競技場 卓球台40台 補助競技場 卓球台20台
高知県バドミントン協会	バドミントンコート10面分	バドミントンコート10面分
高知県柔道協会	柔道試合場2面	柔道試合場2面
高知県剣道連盟	200㎡	1,000㎡
高知県空手道連盟	20m×20m 武道館、剣道場程度	40m×40m 武道館3F 試合場程度
高知県少林寺拳法連盟	バスケットコート約1面分	バスケットコート約2面分
高知県合気道連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>現県立武道館が廃止される場合→柔道場1面×2室 ※最低でも1室</li> <li>存続の場合→柔道場1面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現県立武道館が廃止される場合→柔道場4面が必要 加えて柔道場2面（可動式の間仕切り壁1室を2分割）が整備されれば他武道とのイベント競合時に対応できる</li> <li>存続の場合→補完施設として柔道場2面がほしい</li> </ul>

必要な駐車台数は、平時の競技活動時で最大400台、大会・イベント開催時で最大1,000台と回答された。

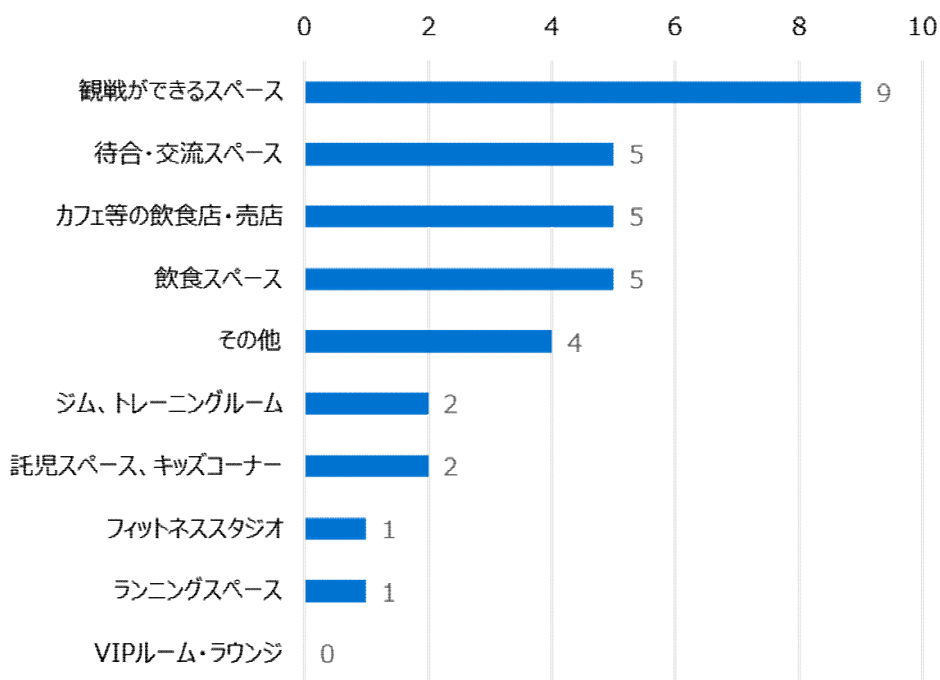
図表 10 必要な駐車台数

団体名称	平時の競技活動時	大会・イベント開催時	
	普通車（台）	普通車（台）	大型バス（台）
高知県水泳連盟	300	300	0
高知県レスリング協会	5	200	20
高知県バレーボール協会	200	200	10
高知県バスケットボール協会	200	500	3
高知県ハンドボール協会	100	150	2
高知県卓球協会	400	700	5
高知県バドミントン協会	200	300	5
高知県柔道協会	30	30	3
高知県剣道連盟	300	1,000	0
高知県空手道連盟	100	100	0
高知県少林寺拳法連盟	20	70	0
高知県合気道連盟	20	50	0

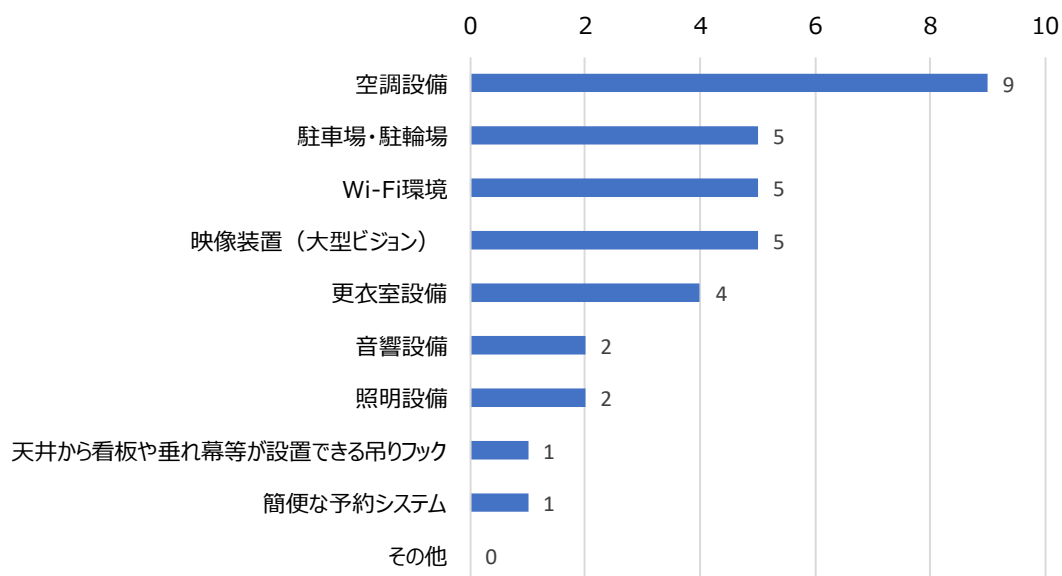
導入を希望する諸室機能としては、観戦・待合スペースや飲食店・売店など、主に観覧者をターゲットとしたものが要望された。

導入を希望する設備機能としては、気流の影響が小さく競技エリアを重点的に冷暖房する輻射空調設備が最も多い回答を集めた。

図表 11 導入を希望する諸室機能



図表 12 導入を希望する設備機能



### iii. 利用意向について

いずれの競技団体も、新県民体育館の利用意向を示した。

大会・イベントと練習利用を合計して、12 団体中 5 団体は年間 100 日以上の利用を想定した。

図表 13 利用意向の有無と利用想定日数

団体名称	利用意向 有無	利用想定日数		
		大会・イベント利 用想定日数（日／ 年）	大会・イベント利 用想定時期（月 頃）	練習利用想定日数 （日／年）
高知県水泳連盟	あり	—	—	200
高知県レスリング 協会	あり	未定	未定	未定
高知県バレーボー ル協会	あり	—	—	—
高知県バスケット ボール協会	あり	80	年間を通して	40
高知県ハンドボー ル協会	あり	20	年間	40
高知県卓球協会	あり	40	4～3月	—
高知県バドミント ン協会	あり	20	通年	90
高知県柔道協会	あり	15	—	10
高知県剣道連盟	あり	10	—	—
高知県空手道連盟	あり	20	5	100
高知県少林寺拳法 連盟	あり	1	6	6
高知県合気道連盟	あり	1～2	—	200

新たに利用が期待できるイベントや大会として、プロチームによる公式戦や合宿の誘致、アマチュアの大会等が挙げられた。

図表 14 新たに利用が期待できそうなイベントや大会

団体名称	回答
高知県水泳連盟	無回答
高知県レスリング協会	スポーツイベント
高知県バレーボール協会	SV リーグや V リーグなどのチームのキャンプや公式戦 世界戦への各国の事前合宿地
高知県バスケットボール協会	バスケットボール B リーグ W リーグ
高知県ハンドボール協会	プロリーグの定期的な試合開催
高知県卓球協会	競技フロアの関係で開催が厳しい、全国大会等の開催
高知県バドミントン協会	無回答
高知県柔道協会	競技者普及活動
高知県剣道連盟	国民スポーツ大会 インターハイ 全国中学生大会
高知県空手道連盟	日本スポーツマスターズ・全国中学生空手道選手権
高知県少林寺拳法連盟	四国地区あるいは中四国地区の学生大会をはじめ、全国規模の大会
高知県合気道連盟	無回答

## (2) ヒアリング調査

### ① 調査概要

施設の利用用途（県民利用向け又は興行利用向け等）の方向性やコンサート興行やその他のスポーツ利用の施設需要の動向等について把握するため、複数業種における代表的な企業等を対象にヒアリング調査を実施した。

図表 15 ヒアリング調査対象一覧

業種	対象者数
協会等	3者
経済・観光団体	3者
興行事業者	3者
スポーツ団体	2者

### ② 調査結果

ヒアリング調査で得られた、新県民体育館への意見と、そこから導出される示唆を取りまとめた。

図表 16 主な意見と示唆

(ア) 利用意向について	
意見	<ul style="list-style-type: none"><li>• 学校体育の延長で作られている施設が多いため、「見せる」要素がなく、誘致に向けたアピール力に欠ける。コンサート等も香川県や愛媛県では開催されるのに対し、高知県では開催されないという状況が常態化している。</li><li>• 大人数を動員するイベントの際は、十分な収容力を誇る会場がない。そのため、5,000人規模の新県民体育館が完成すれば、よさこい関係のイベントを拡充させ、新しい開催箇所として利用することも考えられる。</li><li>• BリーグやVリーグの公式戦を一定数誘致したい。現実的には、プレシーズンのキャンプを行うスポーツチームの誘致や、サッカーチームが取り組むスポーツを通じた地元住民との交流イベントを開催したい。</li><li>• 中古車の販売会や企業イベントの引き合いはあるため、新県民体育館では開催を検討したい。</li><li>• 地酒の試飲会や、鮎を食するイベントが高知市内で開催されているため、可能性は感じられる。</li><li>• 地元大学の入学式や学園祭等に利用される需要はあるのではない</li></ul>

	<p>か。また、路面電車（とさでん交通）の利用促進にもつながることを期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイナーな地域での公演にも積極的なアーティストもいる。プロモーターからアーティスト側にアプローチすることで、誘致できるよう働きかける余地はある規模である。</li> <li>学校のダンス部や地域のダンススクールが、公演や発表会の舞台として活用することは考えられる。</li> </ul>
示唆	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに 5,000 人規模の施設ができることで既存のイベント等を拡充される意向や誘致活動を拡大させていく意向があることから、イベント興行利用を増やしていくために、<b>施設運営と合わせて誘致活動を業務化していく工夫が必要</b>となる。</li> <li>多様なジャンルの利用意向が見込まれることから、<b>多目的に対応した施設整備</b>を行う必要がある。</li> </ul>
<b>(イ) 利用条件について</b>	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>車を寄せられることに加えて荷捌きや搬入ができる設えになっていることが必要である。</li> <li>コンサート開催に特化するうえでは、見切り席を限りなく削減できる U 字型の形状は魅力的である。</li> <li>照明・音響環境が整っている施設は高知県内にないため、公演の開催場所の候補から外れてしまい機会損失が発生している。</li> <li>市街地を走る路面電車（とさでん交通）は、大切な文化である。体育館と宿泊施設等を結ぶ路面電車に注目したパッケージを販売するなど、企画できるとよい。</li> <li>施設のアピールポイントがあると営業活動も展開しやすく誘致しやすい。</li> <li>常設の飲食店の出店は厳しいが、キッチンカーや仮設店舗、仮設の物販施設等を設置できる場所があれば、各種行事の際の消費喚起や域内経済の活性化につながる。</li> <li>駐車場面積が非常に狭いため、今後大規模イベントを誘致する際は混乱が生じる懸念がある。</li> <li>新県民体育館がイベント利用に供するため県民のスポーツ利用に使用できなくなると、既存の大会を継続的に回すことが厳しくなる。</li> </ul>
示唆	<ul style="list-style-type: none"> <li>設営撤去を考慮し、<b>搬出入スペースが十分に確保</b>されていることが、施設選定において重要である。</li> <li>イベント興行時において、<b>見切り席が限りなく最小限となる客席形状</b>が望ましい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まちづくりと連携したサービス提供（例示：宿泊付きの観戦チケット等）や先進事例を超える施設の特徴（例示：四国最大の大型ビジョン等）を出していく必要がある。</li> <li>• 駐車場も含め、利用用途に応じて、<u>フレキシブルに利用できるスペースの確保</u>が必要である。</li> <li>• 各諸室で<u>優先すべき利用用途を決めていく</u>必要がある。</li> </ul>
--	---

### （3）追加ヒアリング調査

#### ① 調査概要

前述の調査にて聴取した意見や検討会での討議を踏まえ、敷地設定や施設の基本要件を提示し、再度のヒアリング調査を実施した。調査対象は、ヒアリング調査に参加した企業等のうち3者である。

図表 17 追加ヒアリング調査対象一覧

業種	対象者数
経済・観光団体	2者
スポーツ団体	2者
興行事業者	1者

#### ② 調査結果

追加ヒアリング調査にて明らかになった、新県民体育館の施設計画や竣工後の利用意向、その他の要望等を取りまとめた。

図表 18 追加ヒアリング調査における主な意見

（ア）施設計画について
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 来賓向けの控室があるとよい。</li> <li>• 駐車場に関して、整備できる容積にも限界があるなか、現在の規模から3倍に拡大し、かつ搬入車が乗り入れられるということであれば、<u>与条件の中では十分な計画</u>ではないか。</li> <li>• この規模の敷地において<u>すべての機能が両立できるものか不安</u>である。近隣の県有地を有効活用し、現有地に建て替える施設の余白を増やすことも視野に入れるべき。</li> <li>• <u>Bリーグ基準で、設備が充実していることが重要</u>である。ただし、<u>最初からセンターハングビジョンを設える必要性まではない</u>ように感じられる。</li> <li>• <u>憩いの場からの誘客動線</u>が円滑に機能するよう計画してほしい。</li> </ul>
（イ）利用意向について
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>降雨等により中止となるリスクを孕んでいるイベントや年々規模の大きく</u></li> </ul>

なってきたイベントの一部移行させることが考えられる。

- 予約枠も限られており機会を得づらい。
- 集客を狙ったインドアスポーツのプロ興行を誘致していきたい。また、アマチュアの大会などスポーツイベントでも積極的に活用していきたい。
- 利用料金との兼ね合いもあるが、本施設が整備されれば従来では開催が首都圏などに偏っていたようなイベントや、グルメイベントといった天候リスクのある屋外イベントの開催も可能になる。

#### (ウ) その他要望等について

- Bリーグ基準での試合開催や音楽興行を念頭に、音響機材や天井の吊り金具など、設備面での充実が重要である。
- 単なる早い者勝ちではなく、全体最適を図れるような融通の利く予約システムを導入してほしい。
- 路面電車の臨時増便ができるよう、県より交通事業者に対して働きかけてほしい。
- 施設利用の誘致や稼働率向上に向けては、運営企業単独ではなく、多様なステークホルダーが連携・協力すべき。
- 社会体育施設としての側面を維持しつつ、観るスポーツのためのアリーナとしての魅力や効果を損なわないことを望む。

## 4. 県民意見の把握

### (1) プール利用者へのアンケート

#### ① 実施概要

現県民体育館のプール利用者に対して、アンケートを実施した。

図表 19 プール利用者へのアンケート実施概要

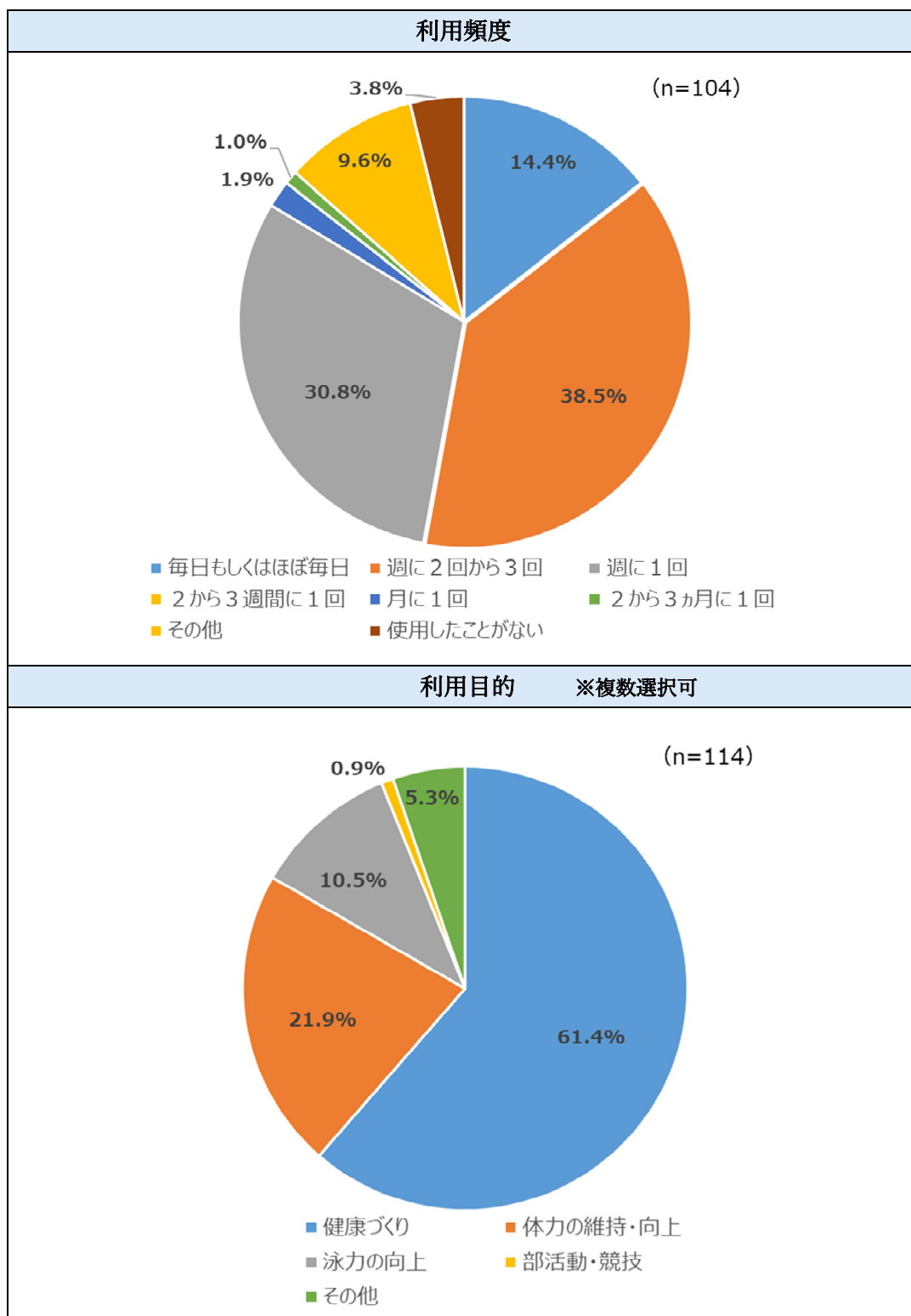
実施時期	令和7年8月
実施方法	直接聞き取り（アンケート記入方式）

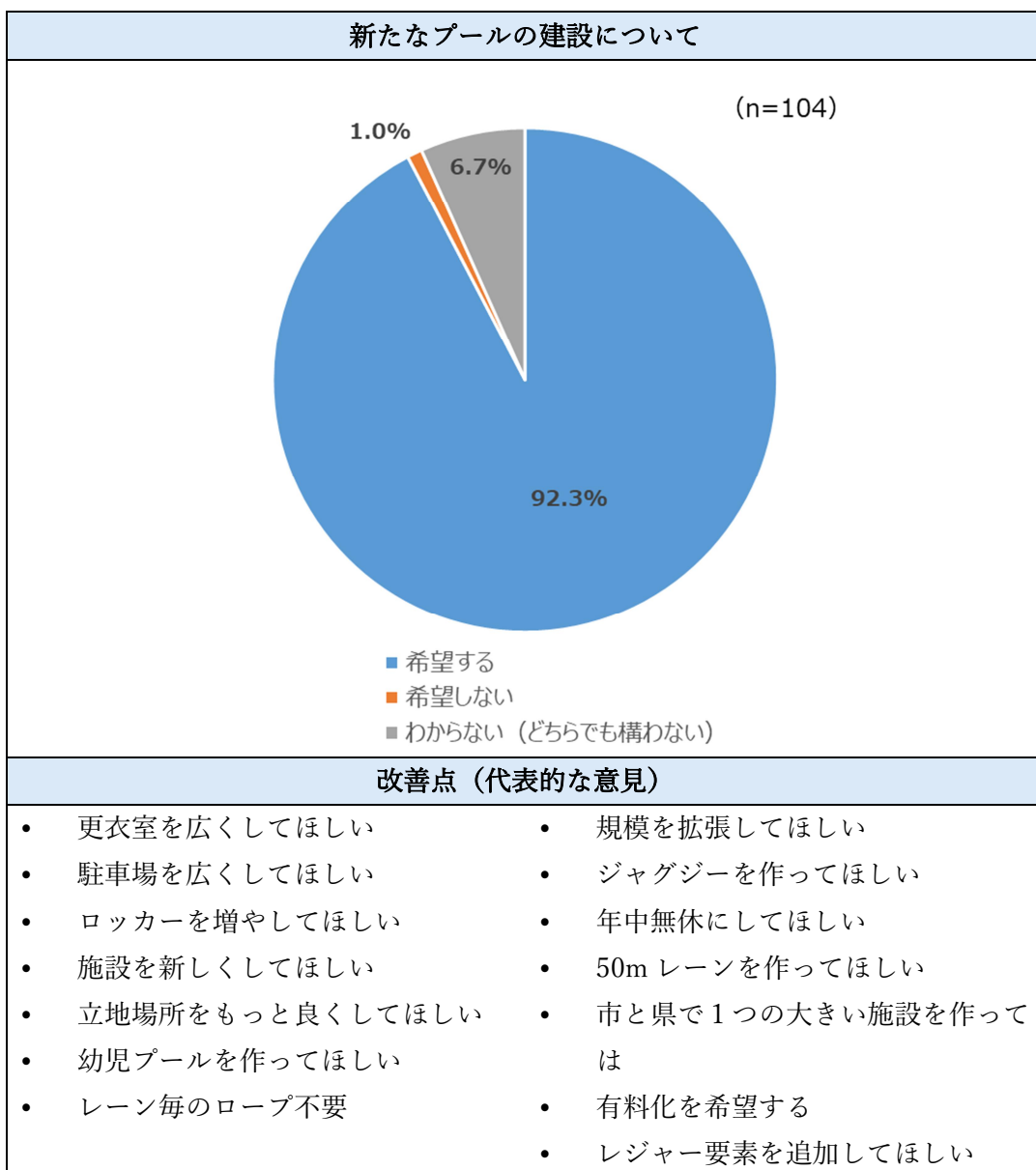
回答者の属性	年代	<p>(n=104)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10代以下</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>20~30代</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>40~50代</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>60~70代</td> <td>54.8%</td> </tr> <tr> <td>80代以上</td> <td>19.2%</td> </tr> </tbody> </table>	年代	割合	10代以下	6.7%	20~30代	9.6%	40~50代	9.6%	60~70代	54.8%	80代以上	19.2%
	年代	割合												
	10代以下	6.7%												
20~30代	9.6%													
40~50代	9.6%													
60~70代	54.8%													
80代以上	19.2%													
居住地	<p>(n=104)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知市内 (潮江地区)</td> <td>20.2%</td> </tr> <tr> <td>高知市内</td> <td>66.3%</td> </tr> <tr> <td>高知市外</td> <td>13.5%</td> </tr> </tbody> </table>	居住地	割合	高知市内 (潮江地区)	20.2%	高知市内	66.3%	高知市外	13.5%					
居住地	割合													
高知市内 (潮江地区)	20.2%													
高知市内	66.3%													
高知市外	13.5%													
所属	<p>(n=104)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>67.3%</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>32.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(主な団体名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐塾</li> <li>・ミセス</li> <li>・マーメイド</li> <li>・ブルー</li> <li>・スマイル</li> <li>・ポニート 等</li> </ul>	所属	割合	個人	67.3%	団体	32.7%							
所属	割合													
個人	67.3%													
団体	32.7%													

## ② 実施結果

プールの利用者は、定期的（週に1回以上）に利用している傾向が見られ、60%以上の利用者が健康づくりを目的に利用していた。

図表 20 プール利用者へのアンケート実施結果





(2) アスパルこうち内の教育支援センター利用者へのアンケート

① 実施概要

現在のアスパルこうちのグラウンドを含む敷地に新県民体育館を建てることを計画するにあたり、アスパルこうち内に所在する教育支援センターに通う生徒や保護者を対象にアンケートを実施した。

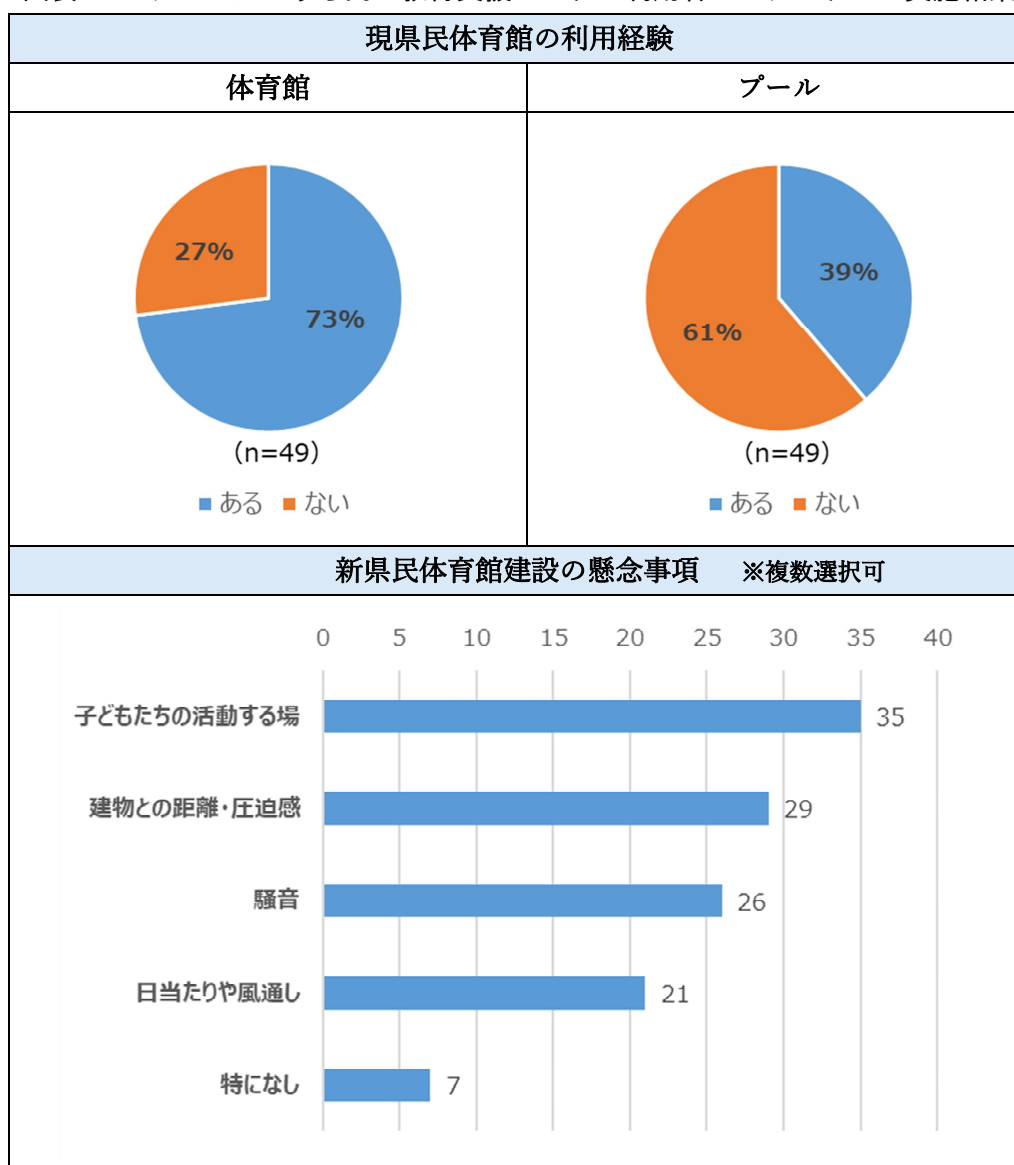
図表 21 アスパルこうち内の教育支援センター利用者へのアンケート実施概要

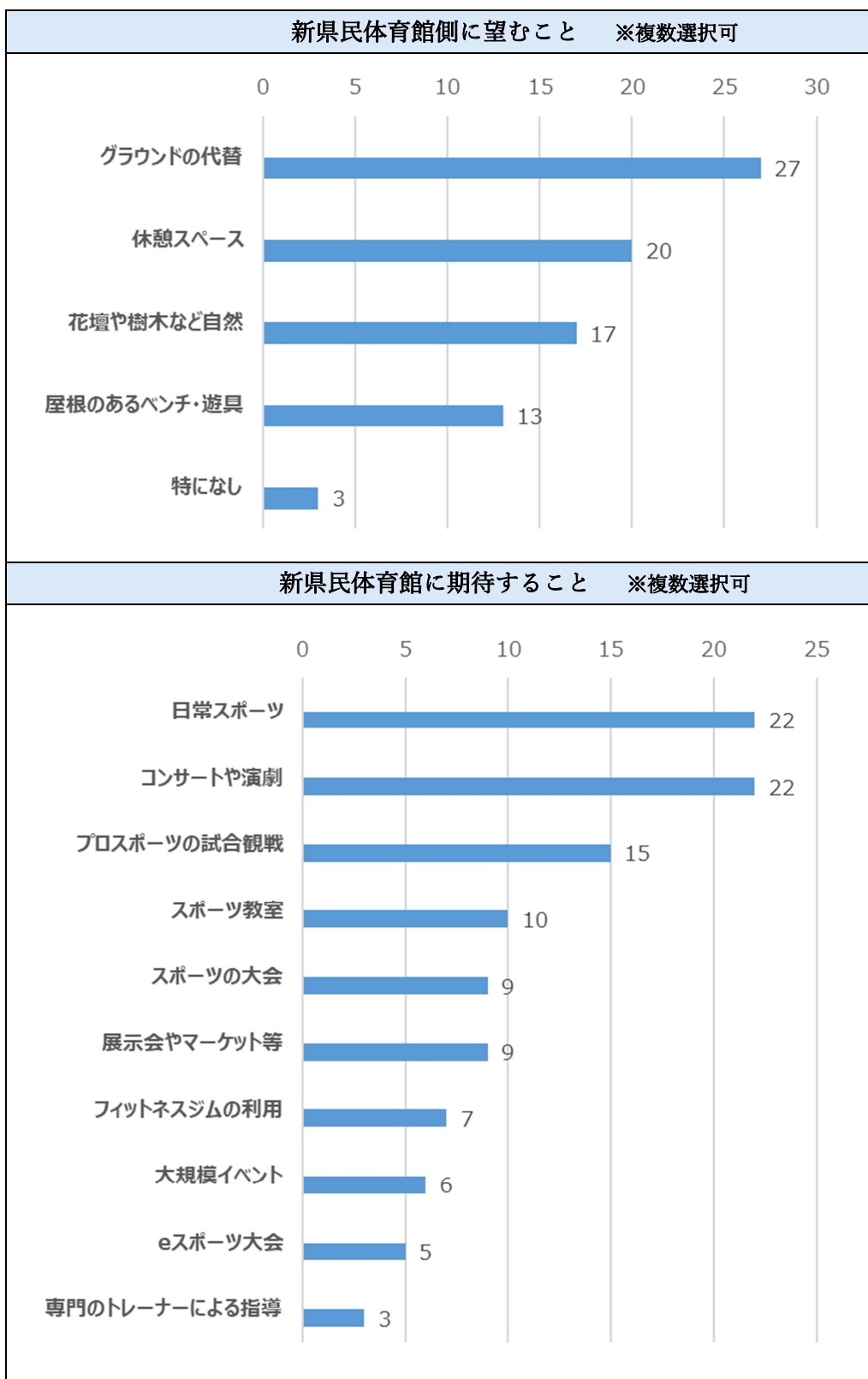
<b>実施時期</b>	令和7年11月19日～12月26日
<b>実施方法</b>	アンケート用紙による回答、QRコードによるモバイル回答

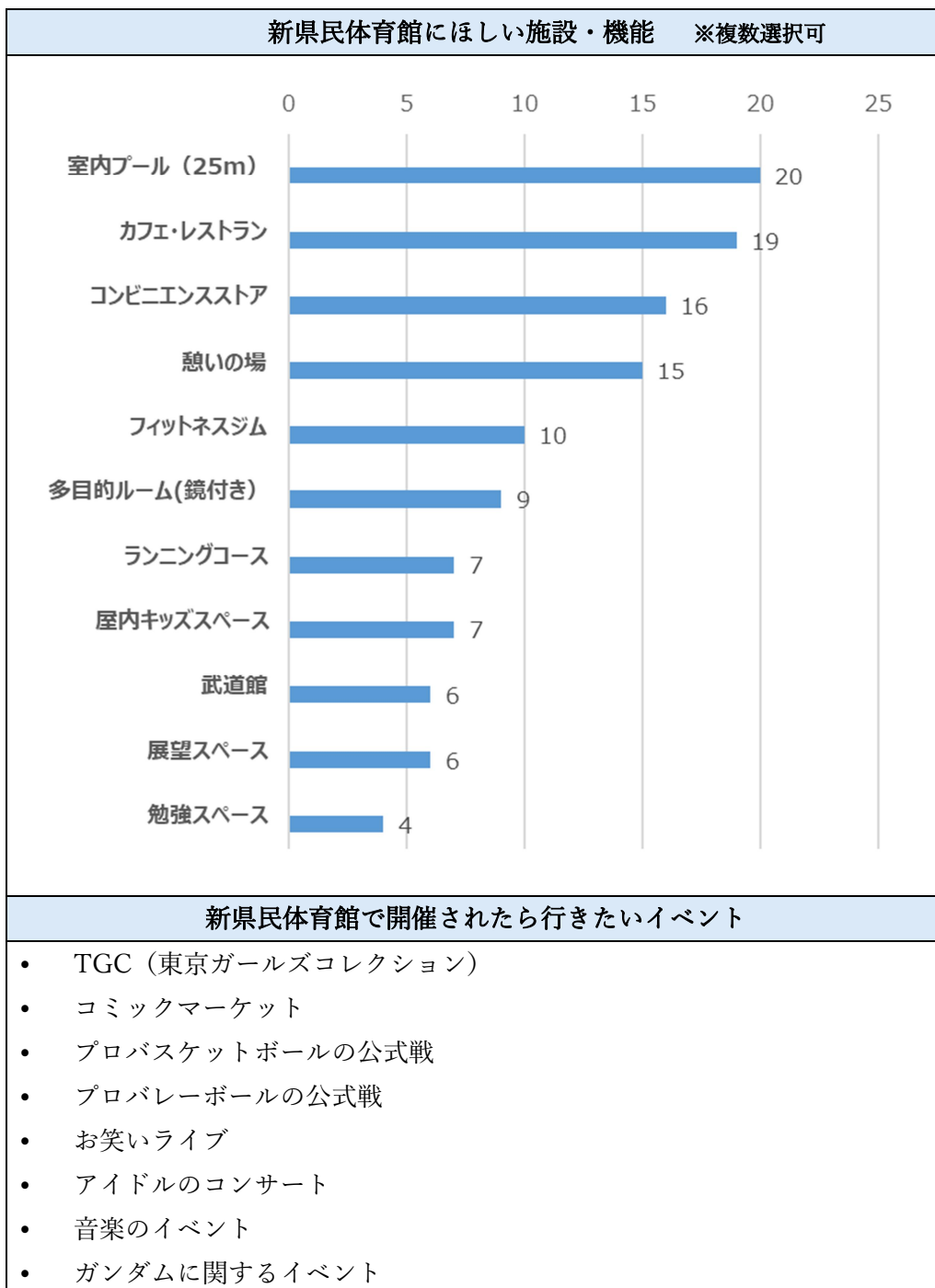
## ② 実施結果

新県民体育館がアスパルこうちに隣接することによる物理的な教育環境の悪化を懸念する意見が聞かれた。他方で、コンサートやプロスポーツ興行は人気が高く、新県民体育館にはグラウンドの代替機能のほかにカフェやコンビニ、休憩スペースといった心身のリフレッシュに資する機能が要望された。

図表 22 アスパルこうち内の教育支援センター利用者へのアンケート実施結果







意見・要望
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 整備するなら敷地を最大限活用して、様々なイベントが開催できる施設にしてほしい</li> <li>• 中途半端なアリーナ整備とならないよう、必要な投資はしっかりと行ってほしい</li> <li>• 既存の施設を廃止するのか改修するのか、市や県全体でスポーツ施設の配置を含めて考えるべき</li> <li>• 大会やイベントなど相応の数を開催しなければ経済効果が生まれないと思うが、その分子どもたちにとっては好ましくない環境になるのでは</li> </ul>

### (3) 高校生へのアンケート

#### ① 実施概要

新県民体育館の整備にあたり、普段から現県民体育館を利用している高校生や、現県民体育館の近辺に位置する高校に通う高校生の声を把握するため、アンケートを実施した。

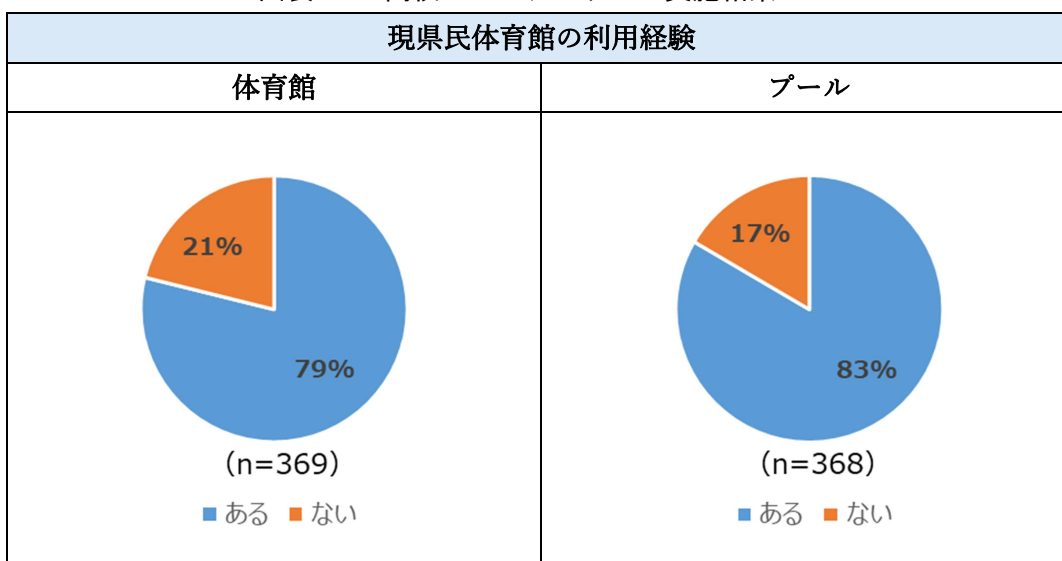
図表 23 高校生へのアンケート実施概要

実施時期	令和7年11月19日～12月26日
実施方法	QRコードによるモバイル回答

#### ② 実施結果

新県民体育館で開催されることを期待するイベントとして、コンサートや演劇、ライブイベント、人気テレビ番組が挙げられた。また、大型ショッピングモールや複合施設、人気小売店舗等を高知県内に要望する意見が寄せられた。

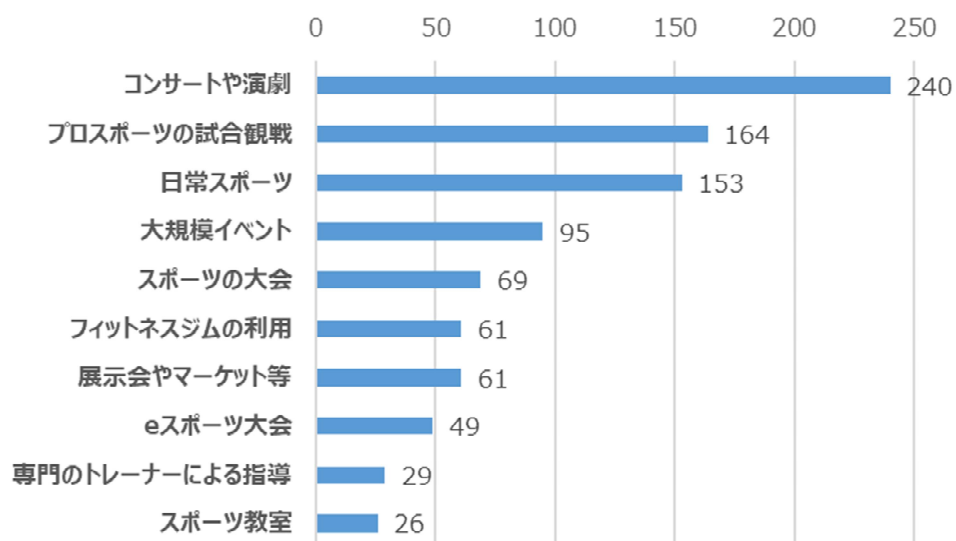
図表 24 高校生へのアンケート実施結果

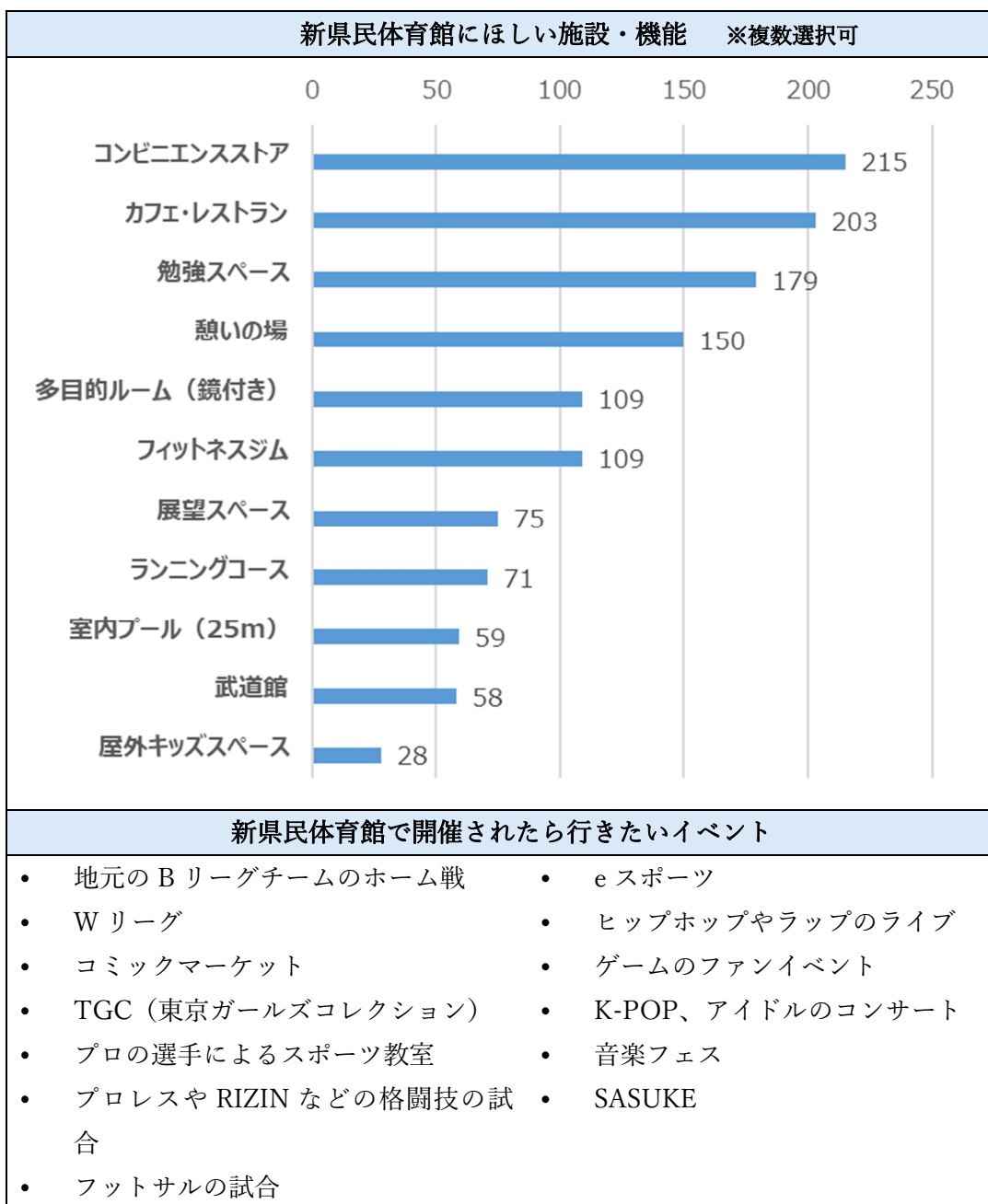


### 高知県でほしい施設やサービス

- 大型ショッピングモール
- テーマパークや複合施設
- 屋内で大人も子供も楽しめるアスレチック
- IKEA、サイゼリア、Loft、コストコ
- スポッチャのような個人では持てない道具を使って遊べるアミューズメントパーク
- バasketボールコート付きの公園
- 無料でいろんなスポーツができる公園
- ゆっくり過ごせる静かな場所
- 音楽が楽しめる場所
- 自然いっぱい綺麗な勉強できる場所
- 無料のフリースペース

### 新県民体育館に期待すること ※複数選択可





#### (4) オープンハウス

##### ① 実施概要

新県民体育館の整備に関する取組を紹介するパネルを公共施設へ掲示し、シールや付箋で貼り付けてもらうことで、県民・市民の期待することや希望することを幅広く募った。

図表 25 オープンハウス実施概要

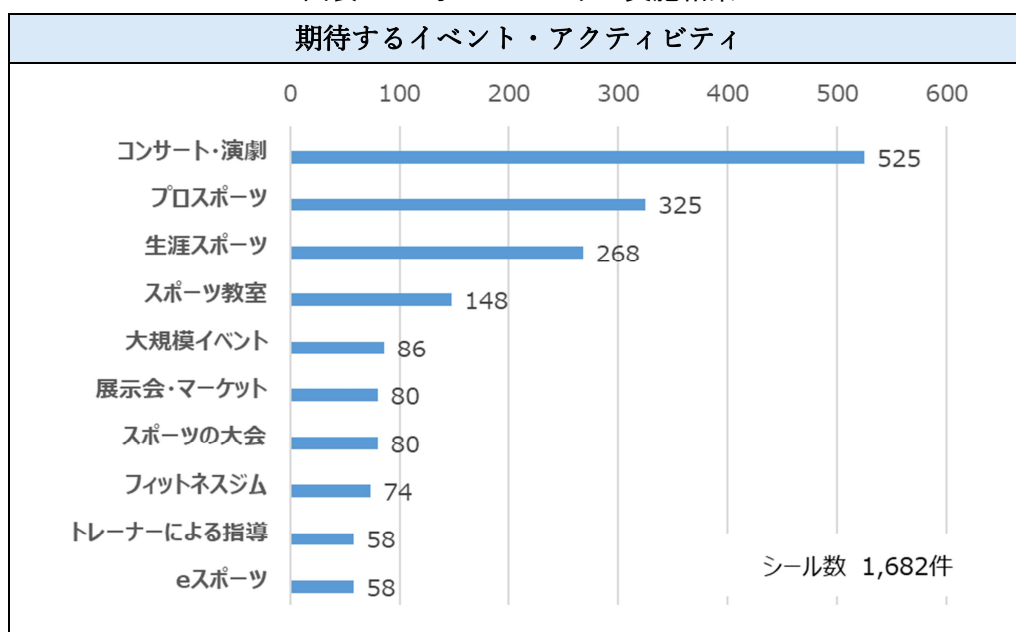
実施時期	令和7年11月19日～12月26日
実施場所	① 高知市役所1階正面ロビー ② オーテピア高知図書館1階ロビー ③ 県民体育館1階駐車場出入口

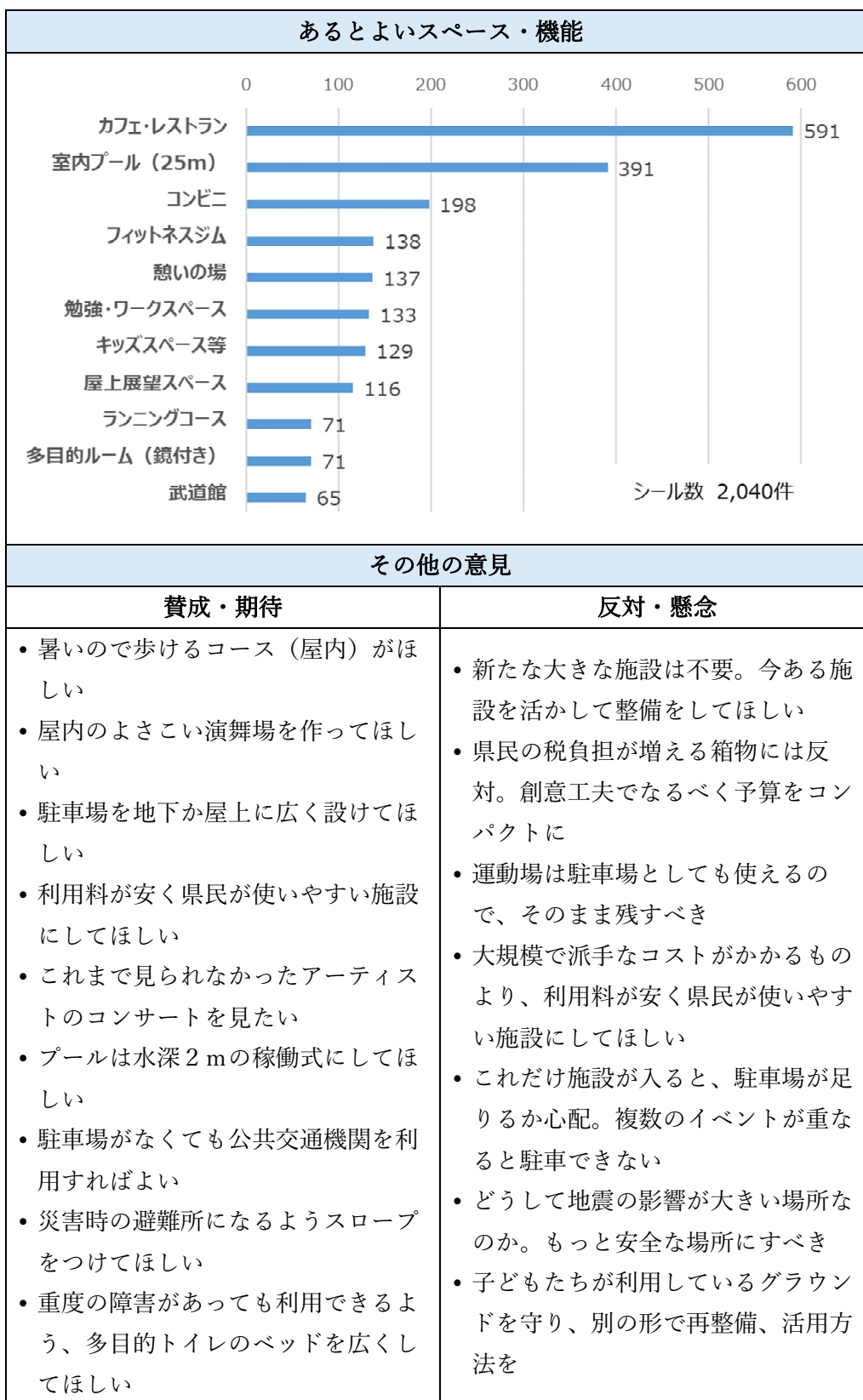
##### ② 実施結果

アスパルこうち内の教育支援センター利用者や高校生へのアンケート結果と同様の傾向として、コンサートや演劇といったイベントが期待され、スペースや機能としてはカフェ・レストランがあるとよいとされた。

【意見総数】シール総数 3,722件 自由記入総数 109件

図表 26 オープンハウス実施結果





(5) ちばさんセンター大ホール利用企業・団体へのアンケート調査

① 実施概要

新県民体育館において想定する機能のひとつであるコンベンション機能について、市場の動向やニーズを把握するため、既存施設である高知ちばさんセンター大ホールの利用企業・団体を対象にアンケートを実施した。

図表 27 ちばさんセンター大ホール利用企業・団体へのアンケート実施概要

実施時期	令和8年2月26日～3月17日
実施対象	21社（令和4年度以降に大ホールを利用した企業・団体、広告代理店）
実施方法	訪問による聞き取り17社、オンライン面談4社

② 実施結果

令和4年度以降に大ホールを利用した企業・団体のうち約95%（21社中20社）が、新県民体育館でもイベントを開催できると回答した。また、新県民体育館の利用にあたっては、利用しやすい搬入出口や駐車場の充実などが要望された。

図表 28 ちばさんセンター大ホール利用企業・団体へのアンケート実施結果

ちばさんセンターで開催しているイベントの新県民体育館での開催可能性			
回答内容	回答数	割合	理由
開催できる	20	95.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会開催に足り得る十分な会場規模がある（11）</li> <li>市内中心部に立地し、ちばさんセンターより利便性が高い（2）</li> <li>細かな条件等はあるが、現配置図等を見る限り、開催自体は問題無い（13）</li> </ul>
開催できない	0	0.0%	
わからない	1	4.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社方針によりイベントの開催自体が不透明</li> </ul>
計	21	100.0%	
新県民体育館利用にあたっての要望			
要望点	回答数	割合	主な意見
(1) 利用しやすい搬入出口	15	71.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民の迷惑とならないよう、スムーズな車両の出入りを希望</li> <li>搬出時のアリーナ内の混雑（屋外にスムーズに出られない）を懸念</li> <li>タクシーや送迎車両の待機場所が無い</li> </ul>

			<p>ことを懸念（電車通りでの一時停車による交通への影響が心配）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 搬出時（特に 17 時頃）の交通渋滞を懸念</li> <li>• サブアリーナにもトラックを乗り入れられる設計を希望</li> <li>• 他の利用者が会場に入れない動線の確保を希望</li> <li>• 4 方向の搬入出口を希望</li> </ul>
(2) 駐車場の充実	14	66.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般来場者の駐車場も敷地内に確保してほしい</li> <li>• ちばさんセンターの 800 台も現状満車状態となっているので、近隣に分散できるよう周知の工夫が必要</li> <li>• サブアリーナや武道館を別団体が利用する場合の不足を懸念</li> <li>• 利便性向上のため、駐車場は敷地内で分散せずに、一箇所に集約してほしい</li> <li>• 搬入出で複数回の出入りが想定されるため、1 日無料券等を備えてほしい</li> </ul>
(3) 火器の利用	8	38.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 給食ブースが出店できるよう、給排水、直火、電気系統の整備を希望</li> <li>• 油が使用できれば尚良い</li> <li>• 塗装設備の実演でガスを使用、溶剤系の塗料が使用できれば有難い</li> </ul>
(4) 屋外スペースの利用	8	38.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 5 台程度のキッチンカーが置けるスペースが必要</li> <li>• 学生が出す屋台や屋外飲食スペースが必要</li> <li>• 雨天でもキッチンカーを出せる屋根付の屋外スペースを希望</li> </ul>
(5) 早朝・夜間利用	6	28.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 早朝 6：30～夜間 21：00 までの利用を希望</li> <li>• 前日搬入で商品を展示するため、夜間セキュリティの厳重化を希望</li> </ul>
(6) その他	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• メイン会場と別に大中小会議室の使用</li> </ul>

			を希望 ・メインアリーナの分割利用（1/4～2/3）を希望 ・フローリングシートは施設側での準備を希望
<b>新県民体育館についての意見（括弧内は回答数）</b>			
<p>① 利用料金について （広告代理店）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内企業がイベントを開催する際の会場代は3日で100万円程度が理想</li> <li>・ ちばさんセンターの現行単価（約40万円/日）から大幅に高くなるなら、県内企業の継続利用は難しい可能性あり</li> </ul> <p>（利用者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在のちばさんセンターよりも高くなると利用は難しい（4）</li> <li>・ 新施設のため、一定の増加（ちばさんセンターの1.5倍程度まで）は許容（4）</li> <li>・ 利用は価格だけでなく、利便性等を含めた総合的判断（2）</li> <li>・ 試験会場として使う場合は、受験者1人あたり5,000円が会場使用料の目安（1）</li> </ul> <p>② 予約について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントの1年前からの予約解禁を希望（5）</li> <li>・ イベントの1年半前からの予約解禁を希望（1）</li> </ul> <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の人気が高くなり、スポーツに関係のない展示会利用の県外事業者が利用しにくくなることは避けてもらいたい（県内事業者の優先順位が高くなることへの懸念）</li> <li>・ 展示会は搬入前にブースを設置する必要があるため、アリーナ内にトラックを乗り入れて荷物を準備することは困難</li> </ul>			

### 第3章 計画地の概要

#### 1. 立地環境と周辺環境

計画地（高知県高知市棧橋通二丁目1-53）は、とさでん交通の棧橋通二丁目電停前に位置しており、JR高知駅から車で7分、高知龍馬空港から車で24分とアクセス・利便性も優れた場所となっている。計画地周辺は、高等学校や高知市立青年センター、図書館等の文教施設と住宅地が広がっているエリアである。

はりまや橋など高知市の中心部から徒歩20分圏内の立地であり、中心市街地と連動した賑わいづくりが期待できる。

#### 2. 計画地の現状、特性

計画地は、現県民体育館の敷地と、旧南消防署及びアスバルこうちグラウンドとする。現県民体育館には、主競技場と補助競技場、室内プールで構成された建物と駐車場（82台）があり、主競技場と室内プールにそれぞれエントランスが設置されている。

図表 29 計画地の現状



### 3. 関連法規制の整理

計画地における関連法規制のうち、建築物の形態規制に関する制限を整理した。

図表 30 関連法規制

用途地域	商業地域	第一種住居地域
地域地区	準防火地域	
敷地面積	約 17,950 m <sup>2</sup>	
	4,790 m <sup>2</sup> (図上計測)	13,160 m <sup>2</sup> (図上計測)
指定容積率	400%	200%
	加重平均：約 253%	
指定建ぺい率	80%	60%
	加重平均：約 85% (緩和適用値)	
日影による高さ制限	規制なし	地盤面から 4m の高さで敷地境界から 5m 超、10m 以下の範囲→ 5 時間以上の日影を生じさせない 敷地境界から 10m 超の範囲→ 3 時間以上の日影を生じさせない
接道条件	北側：潮江 261 号線 約 6.0m 南側：潮江 263 号線 約 8.4m	東側：潮江 271 号線 約 4.5~4.8m 西側：県道 34 号線 約 36.0m
道路斜線制限	摘要距離 : 20m	摘要距離 : 25m
	道路斜線勾配 : 1.5	道路斜線勾配 : 1.25
隣地斜線制限	基準高さ : 31m	基準高さ : 20m
	隣地斜線勾配 : 2.5	隣地斜線勾配 : 1.25
建築可能な用途 (建築基準法第 48 条)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇場、映画館、観覧場</li> <li>・ その他、工場以外のほぼすべての用途</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅、共同住宅、寄宿舍、下宿、幼稚園、学校、病院</li> <li>・ 3000 m<sup>2</sup>以下の店舗・飲食店、ポーリング場・スケート場・水泳場</li> <li>・ 特定行政庁が公益上やむを得ないと認めて許可したもの</li> </ul>

## 第4章 整備コンセプト

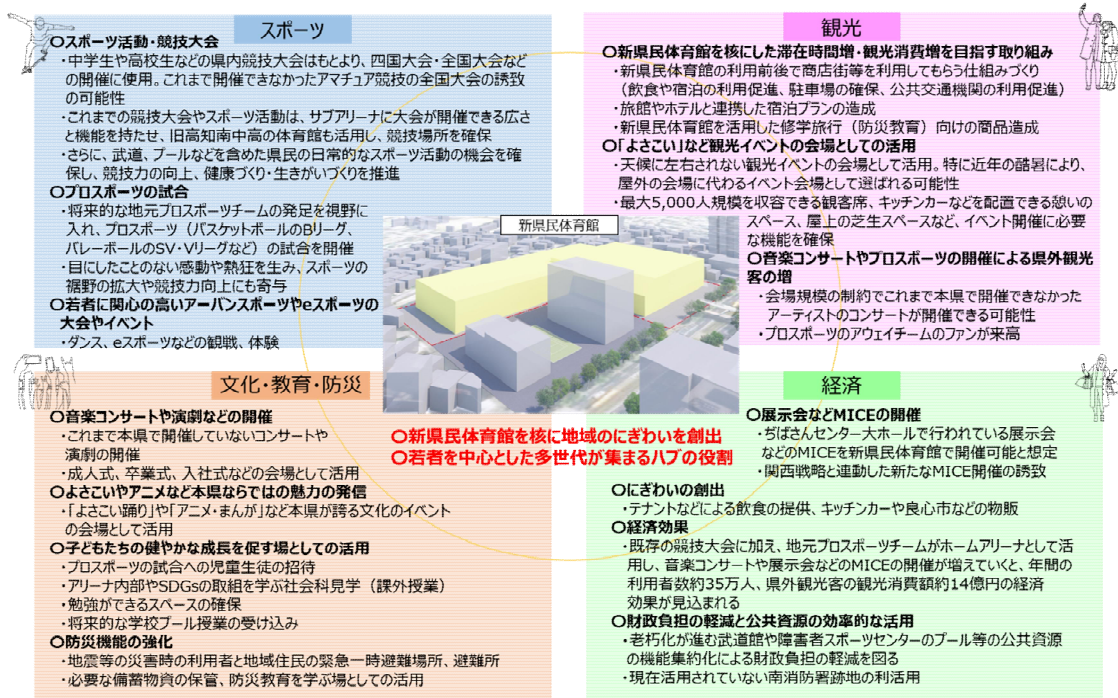
### 1. 基本的な考え方（基本理念と目指していく姿と取り組み）

新県民体育館の施設整備に向けた基本理念は、「誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点」と設定して、施設整備を行う。

また、新県民体育館の整備により目指していく姿と取り組みとして、以下の観点から、アリーナを核に地域のにぎわいを創出することと若者を中心とした多世代が集まるハブの役割を担うものとする。

#### 【新県民体育館の整備により目指していく姿と取り組み】

- 新県民体育館を核とした「まちづくり」「地域活性化」を進めることで、スポーツ、文化、観光、経済などの分野で一層の振興を図る
- 県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代が集まり交流することで、関係人口や交流人口の増につなげる
- 子どもたちの健やかな成長を促し、地域の防災力を向上させる施設として活用される



## 2. 基本方針

基本理念と目指していく姿と取り組みを踏まえ、新県民体育館の基本方針を設定した。

- (1) まちづくりの拠点 —————  
県民や県外から来られた方が**親しみ、愛着を持ち**、交流人口や関係人口の拡大につながる、**まちづくりやコミュニティの形成のハブとなる**施設を目指します。
- (2) スポーツ振興の拠点 —————  
県民の誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、若い世代のアスリートの育成や県民のニーズに合った**スポーツを「する」**ことができる施設を目指します。
- (3) にぎわいの拠点 —————  
プロスポーツのハイレベルな試合を観戦することにより憧れや感動を抱かせ、**スポーツを「みる」**という文化を定着させます。  
また、コンサートや展示会などの様々な催しが開催されることで、**県外から多くの人が本県を訪れ**、飲食や宿泊、観光産業が潤い、**地域活性化につながっていく**ことを目指します。
- (4) 安心・安全な拠点 —————  
県民の誰もが使いやすく安全・安心な施設となるように、**ユニバーサルデザイン**を取り入れた施設とします。  
また、災害等が発生した場合において、施設利用者や地域住民の**一時避難が可能な施設**とします。

## 3. 整備方針

新県民体育館の整備方針は、以下の10項目とする。

- スポーツをする施設（**社会体育施設**）に加え、**アリーナ機能**を融合させた**複合施設**の整備
- メインアリーナとサブアリーナを備え、「**スポーツ**」×「**エンタメ**」を実現し、**多目的に活用できる施設**として整備
- **プロスポーツ**のレギュレーションや**コンサート等の興行に適した規模・機能**の整備
- **県立武道館**を移転・集約化する整備
- **高知ぢばさんセンター大ホール**の機能を集約し、展示会等の**MICE**の開催が可能な規模・機能の整備
- 「稼げる」施設となるよう、**諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備**

- 老若男女、特に若者や子どもが集い、多世代で楽しみ、交流できる憩いの空間の整備
- ユニバーサルデザインに対応した整備
- 災害時の避難機能を備えた整備
- 県の財政状況も踏まえ、コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用した整備

#### 4. 周辺施設との一体的利用や役割

新県民体育館を核として、まちづくりや地域活性化につなげていくために、周辺施設との一体的利用や役割を整理した。

##### ○プロスポーツの試合や音楽コンサートなどの開催

- ・これまで本県で得ることが難しかった新しい体験を提供し、「感動」や「熱狂」、「活気」を生む
- ・関西圏を中心に、県と関係性のある屋内プロスポーツチーム等による教室開催や合宿誘致等を推進
- ・Bリーグ、SVリーグなどの屋内プロスポーツ等のプレシーズンマッチ等の招聘

##### ○展示会など MICE の開催

- ・ちばさんセンター大ホールで行っている展示会等を開催できる規模・機能を確保
- ・新たな MICE の掘り起こしなど、市中心部での新たな経済効果を生む

##### ○新県民体育館を中心とした滞在時間増・観光消費増を目指す取り組み

- ・新県民体育館の利用前後で主要な観光地や商店街等を巡り、飲食や宿泊など滞在時間を伸ばし、来場者の消費喚起を促す仕組みづくり
- ・市街地の駐車場の利用促進（「まちなか」駐車場割引など）
- ・公共交通機関の利用促進
- ・旅館やホテルと連携した宿泊プランの造成
- ・新県民体育館を活用した修学旅行（防災教育）向けの商品造成 など

##### ○若者に関心の高いアーバンスポーツやeスポーツの大会やイベント

- ・ダンス、eスポーツなど、新たなジャンルのスポーツを「する」「みる」体験

##### ○「よさこい」など観光イベントの会場としての活用

- ・天候に左右されない利点を生かした観光イベントの会場として活用
- ・「よさこい踊り」や「アニメ・まんが」など本県が誇る文化のイベントの会場として活用

##### ○イベントの開催がない日でも賑わいを生む設え

- ・キッチンカーなどによる飲食の提供、良心市、屋外マーケットなどによる物販
- ・学生の勉強スペースや社会人のワーキングスペースの設置を検討

- ・フィットネスジムやランニングコースの設置を検討

○地震等の災害時には、地域住民や利用者の緊急一時避難所や避難所として活用

- ・地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、災害時の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施

## 5. 施設整備において配慮すべき事項

新県民体育館の施設整備において、ユニバーサルデザイン、安全性、快適性、環境、隣接する高知市の教育施設の教育活動等への配慮の視点から整理した。

### (1) ユニバーサルデザインへの配慮

- ピクトグラムなど、子どもから高齢者、障害のある方、外国人の方にとって分かりやすい案内表示とし、視覚や音声による情報伝達に配慮するなど、来館するすべての人々が利用しやすい施設とする
- エレベーターやスロープなどにより、車椅子利用者が円滑に車椅子用客席をはじめとする施設内外へアクセスできるよう配慮し、すべての人々が安全で利用しやすい動線を計画する

### (2) 安全性への配慮

- 大地震発生時などの非常時において、メインアリーナの2階以上の観客席やコンコース、サブアリーナの屋上などに緊急一時避難ができ、収容可能人数分の備蓄を保管するスペースの確保など、防災対策を講じる
- 医務室を設置し、施設外へ通じる通路やドアは、担架や車椅子が支障なく通行できるだけの広さを確保するなどの緊急医療対策を想定した設計とする
- 試合やイベントの警戒レベルに応じた手荷物検査等が実施できるよう計画するなどのセキュリティ対策を想定した設計とする

### (3) 快適性への配慮

- どの観客席からもフロア全体が見渡せ、競技者や演技者に近い位置に観客席を設置する
- 観客席は、隣や前の席との間を一定とり、ドリンクホルダーの設置や座り心地など快適性へ配慮する
- 競技大会や式典などの開催に必要な照明や音響、空調の水準を確保する
- 音楽コンサートなどに必要な照明や音響の機材は主催者が持ち込むことを想定し、相応の演出が可能な設備水準を確保する
- Wi-Fi環境など、最新鋭の通信環境を整備し、施設利用者の利便性向上に配慮する

#### (4) 環境への配慮

- 周辺に住宅地や教育施設があることに配慮した施設の外観デザインとする
- 周辺駐車場の空き情報の提供など、周辺道路においてスムーズな通行の確保に配慮する
- 建物外への音漏れや振動が生じないような防音・防振対策を講じる
- 省エネルギー性に優れた設備機器を積極的に採用するなど、コスト面、環境面に配慮する
- 周辺には樹木などの植栽を配置する

#### (5) 隣接する高知市教育施設の教育活動等への配慮

- 高知市教育施設（アスパルこうち及び潮江市民図書館）の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮する
- 新県民体育館の敷地としてアスパルこうちのグラウンドを全面使用することへの代替措置として、グラウンド敷地に建つサブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、児童・生徒が運動や活動のために優先的に使用できるスペースを設置する
- 新県民体育館の建物はアスパルこうちの建物から一定の距離（15m以上を想定）を確保して圧迫感を軽減することや、新県民体育館の周辺に花壇や樹木などの自然植栽を設置し、児童・生徒が土や草木、虫に触れられるよう配慮する
- 県と高知市教育委員会で定期的な協議の場を設け、新県民体育館の供用開始後も、施設管理者と高知市教育委員会で定期的な協議の場を設ける
- この他、アスパルこうちのグラウンドを全面使用するにあたり、高知市教育委員会が求める「教育的な配慮」について、最大限の配慮を行うこととし、具体的な内容については、県と高知市教育委員会が開く定期的な協議の場で決めていく

図表 31 隣接する高知市教育施設の教育活動等への配慮

アスパルこうちのグラウンドを使用する場合の高知市教育委員会の要望に対する県の対応	
<p>■ 新県民体育館（以下、「新アリーナ」という。）の整備にあたり、アスパルこうちのグラウンド（敷地）を使用する場合は、高知市教育委員会が要望する「教育的な配慮」について、<b>最大限の配慮を行うこととして基本計画に盛り込み、設計段階で具体的な内容を反映させる。</b></p> <p><small>※①～③の要望内容は、令和7年10月1日付で高知市教育委員会から提出された「アスパルこうちグラウンドを新県民体育館整備に活用する場合の要望」に基づく</small></p>	
<p>① 土のグラウンドを少なくとも半面残すこと</p> <p>② 教育支援センター・学びの多様な化学校の活動のための屋外スペースや自然体験の機会の確保</p> <p>③ 自然環境を生かした学びと情緒安定の場づくり</p> <p><small>※1～3については、関連するもので一体的に回答</small></p> <p>○アスパルこうちのグラウンドについて、新アリーナの敷地として<b>全面使用</b>をさせていただきたい</p> <p>○代替措置として、グラウンド敷地に建つサブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、児童・生徒が運動や活動ができるスペースを設置し、曜日・時間帯による優先的な使用を行っていただく。また、グラウンドが必要な場合には、旧高知南中高グラウンドを優先的に使用いただく</p> <p>○サブアリーナとアスパルこうちの建物は一定の距離（15m以上を想定）を確保し、建物の圧迫感を軽減し、努める</p> <p>○新アリーナの周辺に花壇や樹木などの自然植栽を設置し、児童・生徒が土や草木、虫に触れられるようにする</p> <p>○サブアリーナを利用いただくことで、空調の効く環境下で運動をしていただくことも可能</p> <p>○地震等の災害時に児童・生徒が緊急一時避難ができるように避難場所の指定を受けるとともに、アスパルこうちと避難訓練を一緒に行うことも検討</p> <p>○工事期間中の騒音や振動に対し可能な限り抑制するよう配慮する</p>	<p>④ グラウンド全面を利用する利用者団体への代替場所の確保</p> <p>○現在の使用状況を踏まえ、旧高知南中高グラウンドを含む市内の公的施設が所管するグラウンドの情報提供を行う</p> <p>⑤ 運営ルールの柔軟な見直しと継続的協議の仕組み</p> <p>○新アリーナの開館後も、施設管理者と高知市教育委員会の定期的に協議の場を持つこととする</p> <p>⑥ 新県民体育館の整備に伴い支障となるアスパルこうちグラウンド照明柱やフェンスの整備（移設や新設）</p> <p>○夜間照明について、旧高知南中高グラウンドへの照明柱の移設や新設までは考えていない。例えば、グラウンドの一部を照らすなど、夜間でも一定の運動ができる照明設備の整備を検討。フェンスの設置については、高知市教育委員会と協議していく</p>
<p>&lt;教育環境の向上に向けた取組案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリスボーツの試合に高知市内の小中学生を招待（一定枠、無料）</li> <li>・スポーツを通じた体験学習</li> <li>・小中学生を対象にしたアリーナ内部や、SDGsの取組を学ぶ社会科見学（バックロードツアー）</li> <li>・アリーナを活用した防災教育</li> </ul>	

※令和7年12月18日開催「第4回新県民体育館整備等基本計画検討会」資料

## 第5章 施設整備計画

### 1. 関係規則、ガイドライン等整備条件の整理

関係規則、ガイドライン等に記載されているアリーナ施設又は多目的ホール施設の配置検討に必要な規模に関する条件（入場可能数、競技面積、必要諸室）を整理した。

図表 32 関係規則、ガイドライン等の整備条件一覧

関係規則、 ガイドライン等	出所	概要	整備条件に関する内容		
			入場 可能数	競技 面積	必要 諸室
Tリーグ規約・規定集	一般社団法人 Tリーグ	Tリーグに所属するチームが遵守する義務を負う要項	○	○	○
SVリーグ ホームアリーナ検査要項〔2024-30シーズン用〕	一般社団法人 SVリーグ	2024-30シーズンにおけるSVリーグのクラブライセンス規約を充足するために具備しなければならない条件	○	○	○
ホームアリーナ検査要項 2026-27シーズン B.PREMIER用	公益社団法人 ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ	2026-27シーズン B.PREMIERクラブライセンス交付のために、ホームアリーナが具備しなければならない条件	○	○	○
代替アリーナ検査要項 2026-27シーズン B.PREMIER用	公益社団法人 ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ	2026-27シーズン B.PREMIERライセンス交付規則を充足するアリーナの新設・改築計画があるが、利用できない際に代替するアリーナの条件	○	○	○
日本フットサルリーグ要項	一般財団法人 日本フットサル連盟	日本フットサルリーグに所属するクラブが遵守する義務を負う要項	○	○	○
日本ハンドボールリーグ規約/ 日本ハンドボールリーグ新規加盟要項(2023)	一般社団法人 日本ハンドボールリーグ	日本ハンドボールリーグに新規加盟するにあたって、備えなければならない要項	○	○	○
アリーナ標準	一般社団法人 アリーナスポーツ協議会	アリーナスポーツの競技団体による協議会が示すアリーナの基準	○	○	○
SAGA2024 競技施設基準	SAGA2024 実行委員会	令和5年度の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備指針	—	○	—
スタジアム・アリーナに係るコンセッション事業活用ガイドライン	内閣府	スタジアム・アリーナを対象とした公共施設等運営事業について解説したもの	—	—	—

(1) 入場可能数

各スポーツ興行の関係規則、ガイドラインより、必要な観客席数を整理した。2030年以降のSVリーグ/Vリーグのホームアリーナ検査要項を踏まえると、入場可能数は5,000席以上とすることで、すべてのプロスポーツを満たすことができる。

図表 33 各リーグにおける必要な入場可能数の一覧

競技種目	ディビジョン等	入場可能数	備考	関係規則、ガイドライン等	出所
Tリーグ (卓球)	—	2,000席程度	Play Off開催の場合は5,000～10,000席程度	Tリーグ規約・規定集	一般社団法人Tリーグ
SVリーグ Vリーグ (バレーボール)	SVリーグ (1部相当)	3,000席以上	2030年以降は5,000席以上	SVリーグ/Vリーグホームアリーナ検査要項〔2024-30シーズン用〕	一般社団法人SVリーグ
	Vリーグ (2部相当)	750席以上	2030年以降は2,000席以上		
Bリーグ (バスケットボール)	B.PREMIER	5,000席以上	代替アリーナ：3,000席以上	ホームアリーナ検査要項 2026-27シーズンB.PREMIER用 / 代替アリーナ検査要項 2026-27シーズンBPREMIER用 / B.LEAGUEウェブサイト	公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
	B.ONE	3,000席以上			
	B.NEXT	3,000席以上			
Fリーグ (フットサル)	—	1,000席以上		日本フットサルリーグ要項	一般財団法人日本フットサル連盟
JHL (ハンドボール)	—	1,000席以上	立見席は除く	日本ハンドボールリーグ新規加盟要項	一般社団法人日本ハンドボールリーグ
(参考) アリーナの クラス別分類	クラスS(国際大会決勝)	12,000席程度		アリーナ標準	一般社団法人アリーナスポーツ協議会
	クラスA(国際大会一般)	8,000席程度	(6,000～11,999席)		
	クラスB(国内スポーツ興行)	4,000席程度	(2,000～5,999席)		
	クラスC(その他)	2,000席以下			

## (2) 競技面積

各スポーツ興行の関係規則、ガイドラインより、必要な競技面積を整理した。すべての競技面積を満たすためには、ハンドボールの競技面積である42m×24mを確保する必要がある。

図表 34 各リーグにおける必要な競技面積の一覧

競技	競技面積	関係規則、ガイドライン等	出所
卓球	コート (16.8m×8.4m×H5m) その他エリア：チームベンチ、広告看板スペース、フォトグラファーポジション、など ※国体基準：14m×7m、12面設置できることが望ましい	Tリーグ規約・規定集 2024年8月	一般社団法人 Tリーグ
バレーボール	コート (31m×19m×H12.5m) ※フリーゾーンを含む その他エリア：記録席、審判台、チームベンチ、広告看板スペース (エンド・サイド)、フォトグラファーポジション、ウォームアップエリア、JURY席等本部エリア、JVIM判定席等ジャッジエリア、など ※国体基準：24m×15m×H7m	SVリーグ/Vリーグ ホームアリーナ検査要項〔2024-30シーズン用〕	一般社団法人 SVリーグ
バスケットボール	コート (32m×19m) その他エリア：スコアラーズテーブル、チームベンチ、ゴール器具、広告看板スペース (サイド)、フォトグラファーポジション ※国体基準：28m×15m	ホームアリーナ検査要項 2026-27シーズン B.PREMIER用	公益社団法人 ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
フットサル	コート (40m×20m×H4m) ベンチ (タッチラインより2m以上離す) その他エリア：マッチコミッショナー席、記録席、来賓席、記者席、スコアボード、カメラスペース、等 ※国体基準：実施なし	日本フットサルリーグ要項	一般財団法人 日本フットサル連盟
ハンドボール	コート (42m×24m) ※安全地帯を含む その他エリア：ベンチおよび交代エリア、ジャージーズテーブル、マッチオフィシャル席、等 ※国体基準：44m×22m	日本ハンドボールリーグ新規加盟要項	一般社団法人 日本ハンドボールリーグ

### (3) 関係諸室

各スポーツ興行の関係規則、ガイドラインより、必要諸室に関する情報を整理した。バレーボール及びバスケットボールでは、試合コートで当日練習不可の場合、別途練習コート（サブアリーナ）を確保する必要がある、バレーボール及びバスケットボールのホームアリーナ検査要項を満たすことで、すべての競技の必要諸室を確保することができる。

図表 35 各リーグにおける必要諸室の一覧

競技	必要諸室	関係規則、ガイドライン等	出所
卓球	練習コート（2面、5m×10m） チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、マッサージルーム、審判用更衣室、その他更衣室、主催者用諸室、来賓用諸室、メディア用諸室、ブロードキャスター用諸室、演出進行スペース、競技進行スペース、トイレ（対客席数比2%）、授乳室、医務室、ドーピングコントロール室、選球エリア、各種設備運用調整室	Tリーグ規約・規定集	一般社団法人 Tリーグ
バレーボール	練習コート（1面、サブアリーナまたは車で30分以内の練習場）、チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、審判用更衣室、主管者用諸室、来賓用諸室、メディア用諸室、ブロードキャスター用諸室、当日券売り場、トイレ（対客席数比2%）、医務室、ドーピングコントロール室、各種設備運用調整室	SVリーグ/Vリーグ ホームアリーナ検査要項〔2024-30シーズン用〕	一般社団法人 SVリーグ
バスケットボール	練習コート（1面、サブアリーナまたは車で30分以内の練習場）、チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、審判用更衣室、その他控室、主管者用諸室、メディア用諸室、ブロードキャスター用諸室、当日券売り場、トイレ（対客席数比2%必須）、医務室、ドーピングコントロール室、各種設備運用調整室	ホームアリーナ検査要項 2026-27 シーズン B.PREMIER 用	公益社団法人 ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
フットサル	チーム更衣室（温水シャワー付）、審判室、本部室、医務室、警察消防控室、カメラマン室、放送中継用ブース、ドーピングコントロール室、入場券売り場、場内放送設備、リーグ・クラブ旗の掲揚設備	日本フットサルリーグ要項	一般財団法人 日本フットサル連盟
ハンドボール	チーム更衣室（温水シャワー付）、レフェリー更衣室、オフィシャルミーティング室、運営役員控室、場内放送設備、その他諸室、リーグ・クラブ旗掲揚の設備	日本ハンドボールリーグ新規加盟要項	一般社団法人 日本ハンドボールリーグ

## 2. 集約化の検討

本県では人口減少への適応策として、スマートシュリンク（賢い縮小）の視点で、効率的で持続可能な社会の実現と県民生活の質の向上を図っている。

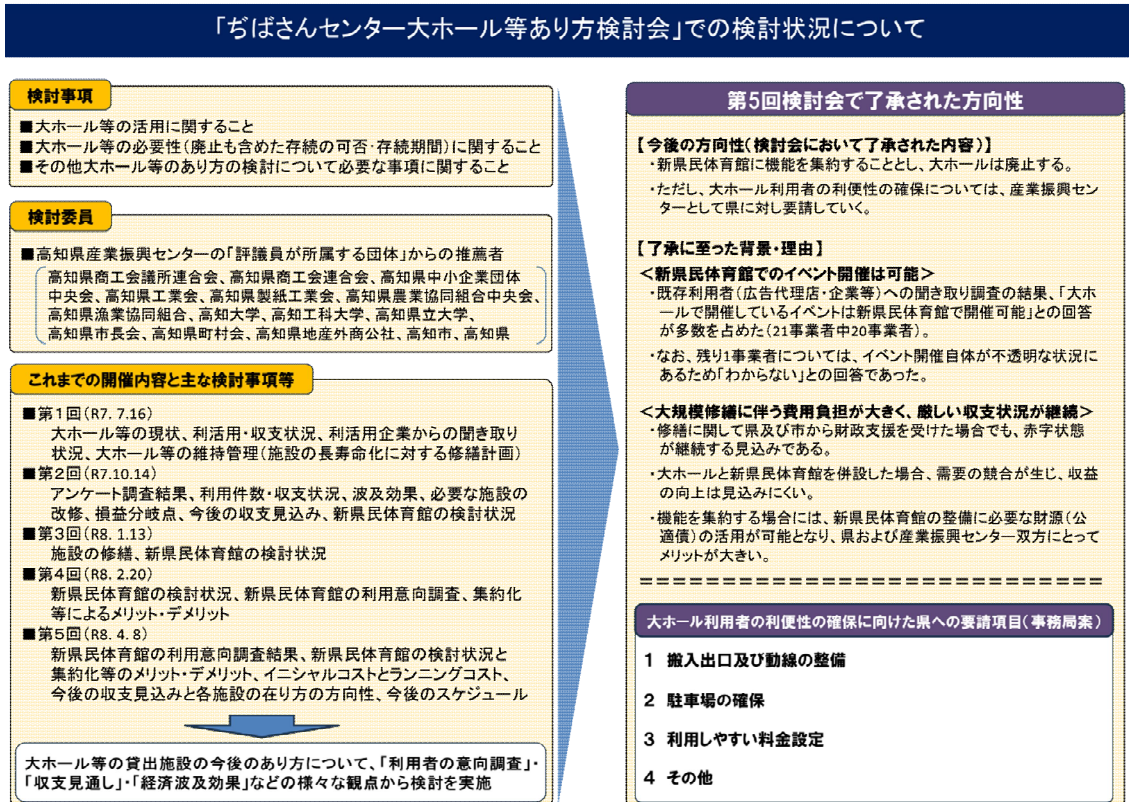
新県民体育館の整備においては、県立武道館における武道の大会や試合を開催する社会体育機能と、高知ちばさんセンター大ホールにおける展示会等の開催などのコンベンションホール機能、**障害者スポーツセンターのプール機能**の移転・集約化を行う。

集約化を行うことで、施設の機能や利用形態を整理し、効率的かつ効果的な施設運営が可能となる。これにより、個別施設ごとに必要であった維持管理費や更新費の縮減が期待でき、財政負担の平準化・軽減に資する。

特に高知ちばさんセンター大ホールが担ってきたコンベンションホール機能を高知市中心部に据えることが可能となり、中心市街地の賑わいの創出につながるとともに、商店街や公共交通機関等と連携したまちづくりにも寄与する。

また、財源面においても、公共施設等の集約化・複合化を伴う整備に際しては、「公共施設等適正管理推進事業債」の活用が可能であり、県の実質的な財政負担の軽減に資する。

図表 36 「ちばさんセンター大ホール等あり方検討会」での検討状況



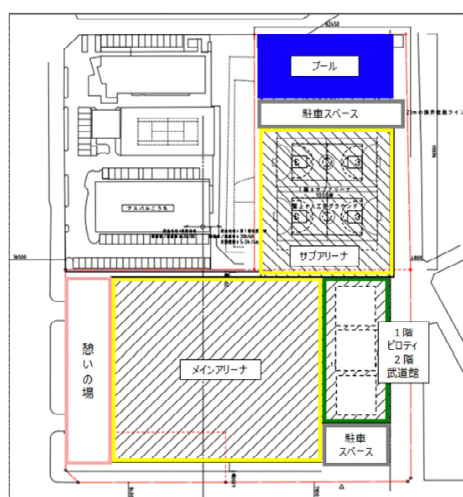
※令和8年4月17日開催「第8回新県民体育館整備等基本計画検討会」資料

### 3. 施設構成と機能・規模

#### (1) 施設構成

新県民体育館は、現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）を活用し、延床面積約 17,000～最大 19,000 m<sup>2</sup>（ピロティ、地下駐車場除く）程度とする。ただし、現時点で想定する面積であり、設計段階で変動することがある。主な施設は、メインアリーナ、サブアリーナ、武道館、プールを基本とし、メインアリーナ等の施設の中に、管理事務室、会議室、更衣室、トイレ、授乳室、控室、医務室、倉庫、機械室、メディアルーム等の各諸室を設置する。また、屋外やピロティ部分に駐車場や憩いの場を設ける。

図表 37 施設配置計画



#### (2) 主な諸室等の機能・規模

##### ①メインアリーナ

これまで本県で開催ができなかったアマチュア競技の全国大会やプロスポーツの試合、音楽コンサート、大規模展示会などの MICE を開催する諸室とする。主な機能・規模は以下のとおり。

- ・バスケットボール3面、バレーボール3面、観客席5,000席以上
- ・床面は土間コンクリートとし、スポーツ利用時は木製フローリングパネルを敷設
- ・壁面に収納できる可動席の設置を想定
- ・センターハングビジョンなど重量物の吊り下げが可能な強度の天井
- ・搬出入口を2ヶ所以上確保

## ②サブアリーナ

競技大会をサブアリーナ単体で開催可能な規模とし、屋上には運動や活動ができる人工芝等のスペースを設置する。主な機能・規模は以下のとおり。

- ・バスケットボール2面、バレーボール3面、観客席500～1,000席程度
- ・床面は木製フローリングを常設
- ・屋上に人工芝等による運動・活動スペースを設置

## ③武道館

武道大会や練習の場として活用するとともに、パーティションの稼働間仕切りによる3つの諸室として活用可能なフレキシブルな諸室とする。また、大規模な武道大会は、サブアリーナやメインアリーナを活用した諸室配置とする。主な機能・規模は以下のとおり。

- ・試合場3面、片面にひな壇型の観客席300席以上、本部席及び審判席のスペース
- ・柔道利用時の畳等や試合用具、本部席用家具等を保管する器具庫

## ④プール

障害のある方の利用、将来的な学校の水泳授業の受入れを想定し、「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」を設置する。主な機能・規模は以下のとおり。

- ・25m×6～8コース程度（うち1コースは入水用スロープ）

## ⑤憩いの場（屋外）

来館者が屋外でくつろげ、イベント時や休日にキッチンカーなどを配置し、にぎわいを創出する空間をメインアリーナ西側等に確保する。また、サブアリーナとアスパルこうちの建物間のスペースや屋上スペースも憩いの場として活用を検討する。

## ⑥駐車場（屋外、ピロティ等）

建物のピロティ空間や地下空間等を活用して、250台以上の駐車台数を確保する。イベント開催時には、主催者や出展事業者など関係者用の駐車場として使用する。

## ⑦その他

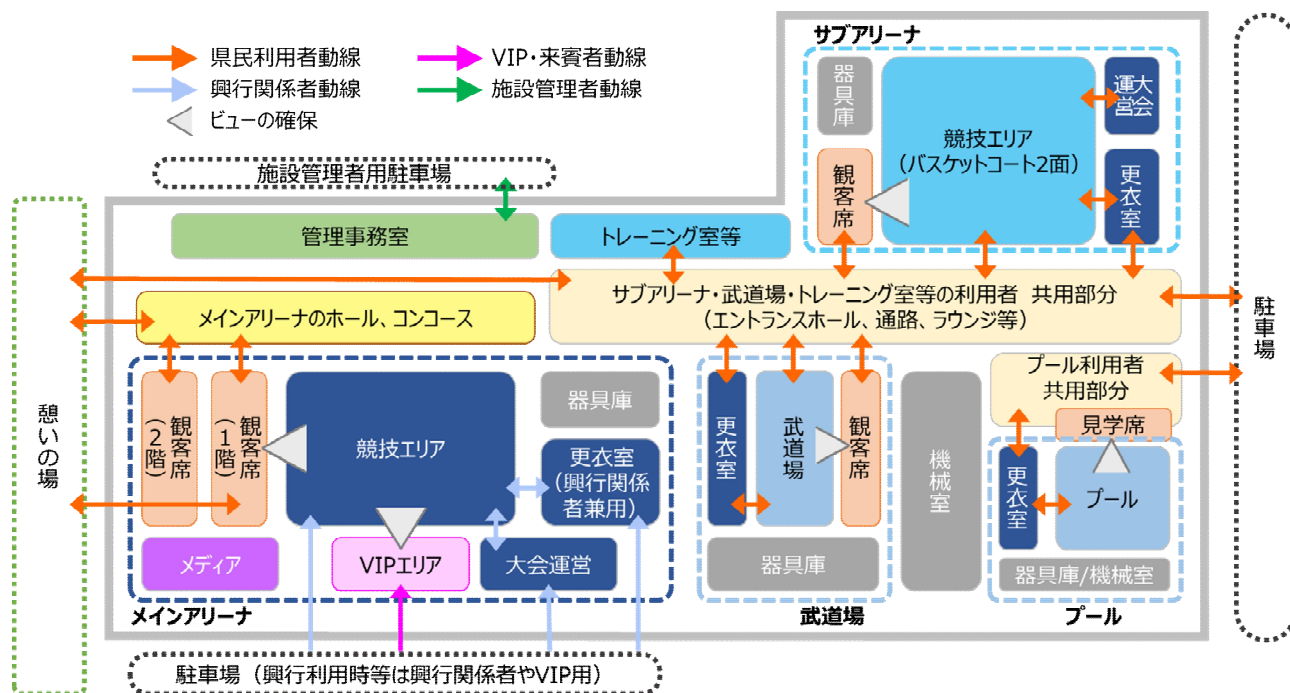
- ・メインアリーナは、将来的にプロスポーツチームがホームアリーナとして使用することを前提に、あらかじめVIP席等を設置する場所を想定し、利用ニーズの変化に応じた設備更新などに柔軟に対応できるよう、増改築がしやすい構造・整備とする。
- ・建材の一部に高知県産の木材を使用するなど、高知県の「県産材利用推進方針」に沿った整備とする。

- ・隣接する高知市教育施設（アスパルこうち及び潮江市民図書館）の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮した整備とする。

### (3) 諸室配置及び動線計画（機能相関図）

諸室配置及び動線計画は、メインアリーナ使用中においても、サブアリーナ機能（武道場、プール含む）が独立して利用ができる動線計画とする。一般エリアは、とさでん交通の棧橋通二丁目電停（県道34号線）側からのアプローチを考慮するとともに、1、2階のそれぞれにエントランスを設けることで、混雑の緩和を図る。施設利用者の目的に合わせて、それぞれのエリアに独立したエントランスを設けるとともに、車でのアクセスは、各エリアの利用者に応じて集約する。

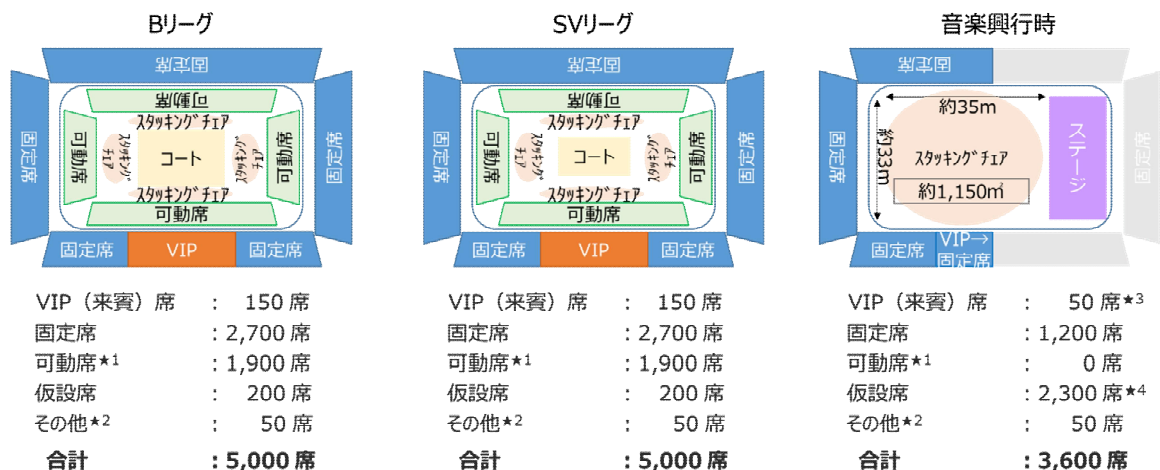
図表 38 機能相関図



#### (4) メインアリーナの座席数

新県民体育館の目指すアリーナ像を実現するための、スポーツ興行時の座席数は、5,000席以上とし、音楽興行時における座席数は、ステージ形状によって収容形式が変化する可能性があるが、概ね3,500席以上の施設規模を確保する。

図表 39 利用用途別の座席レイアウト



- ★1 可動席とは壁面収納できるロールバックチェアを想定等
- ★2 立見・車いす席、企画席 等
- ★3 各種大会等ではVIP席であるが、コンサート時においては、固定席の1種として利用。(座席は普段はVIP用の席のため、一般の固定席よりは、座席の質は良い。)
- ★4 高知市火災予防条例により、0.5㎡/人として整理。

#### 4. 構造計画 (耐震安全性含む)

新県民体育館の構造は、十分な耐震性能を満たす耐震安全性の分類 (国土交通省) として、構造体：Ⅱ類、建築非構造 部材：A類、建築設備：甲類 (それぞれ同等若しくはそれ以上) を基本とする。

#### 5. 防災対策・機能

本計画地は、津波浸水エリアに立地しており、南海トラフ地震 (L2 クラス) の発生で、2～3mの津波浸水、津波到達時間40～60分が予想される。現在の県民体育館は、「指定避難所」に指定されているが、「指定緊急避難場所」には指定されていないことから、「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」の浸水想定区域としての指定、長期浸水への対応も視野に入れ、地域の防災力の一層の向上を目指し整備することが望ましい。

そのため、新県民体育館の防災対策・機能については、次のとおりとする。

#### (1) 指定緊急避難場所について

「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」においても、これらのハザードを対象とした緊急避難場所の指定を見据えた規模・構造とすることに加えて、津波避難ビル指定に際し、第3次高知市備蓄計画に基づく資機材の保管スペースをメインアリーナ等の2階以上に確保する。また、有事の際の地域住民の速やかな受入れはもとより、これを円滑に行うための日常的な広報や防災訓練の実施等のソフト対策も合わせて行う。

#### (2) 指定避難所について

台風・風水害はもとより、南海トラフ地震においても揺れや津波の被害を免れた際の避難所の指定を行うとともに、施設全体のうち指定避難所の収容人数及び居住スペースとして可能なエリア・範囲を考慮した設計により、収容可能人数分の備蓄スペースを確保する。また、避難所の指定後は、地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、有事の際の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施する。

#### (3) 地下駐車場を整備する場合の対策

内水氾濫への対策として、地下駐車場の出入り口に止水板や土嚢等の設置による物理的な浸水対策を講じるとともに、浸水した場合に早期復旧が可能な排水ポンプ等の設置などの復旧対策を講じる。津波への対策として、新県民体育館を津波に耐えられる躯体構造とするほか、地下駐車場から垂直避難ができる階段（ルート）の複数確保や、水圧でドアが開かなくなることを防ぐための外開きドアとする仕様の採用などを行う。

#### (4) その他

南海トラフ地震を想定し、電気やガス、通信（Wi-Fi、電話）等のインフラについて、耐災害性を考慮（例：太陽光発電・蓄電池、空調整備の熱源をプロパンガスや、都市ガスとプロパンガスの併用にするなど）し、避難所の食事の質や生活用水、トイレ環境といった良好な生活環境を提供することに努め、発災後にも活用可能な調理設備や入浴設備等の整備を検討する。また、高知市の教育施設との連携した避難訓練の実施等を行う。

##### 高知県備蓄方針（抜粋）

- 外部からの支援の開始が4日目以降となることを踏まえ、最低3日分は県内の物資により対応する
- 3日分の物資は、個人備蓄を原則とするが、家屋の流失等のやむを得ない事情により物資が不足する者に対しては、公的備蓄や流通備蓄による供給体制を整備する。
- 3日間のうち、1日分は市町村による公的備蓄を行い、残り2日分は県・市町村の流通備蓄での確保を進めていく。

## 6. イメージパース

新県民体育館の規模が把握できるイメージパースを作成した。

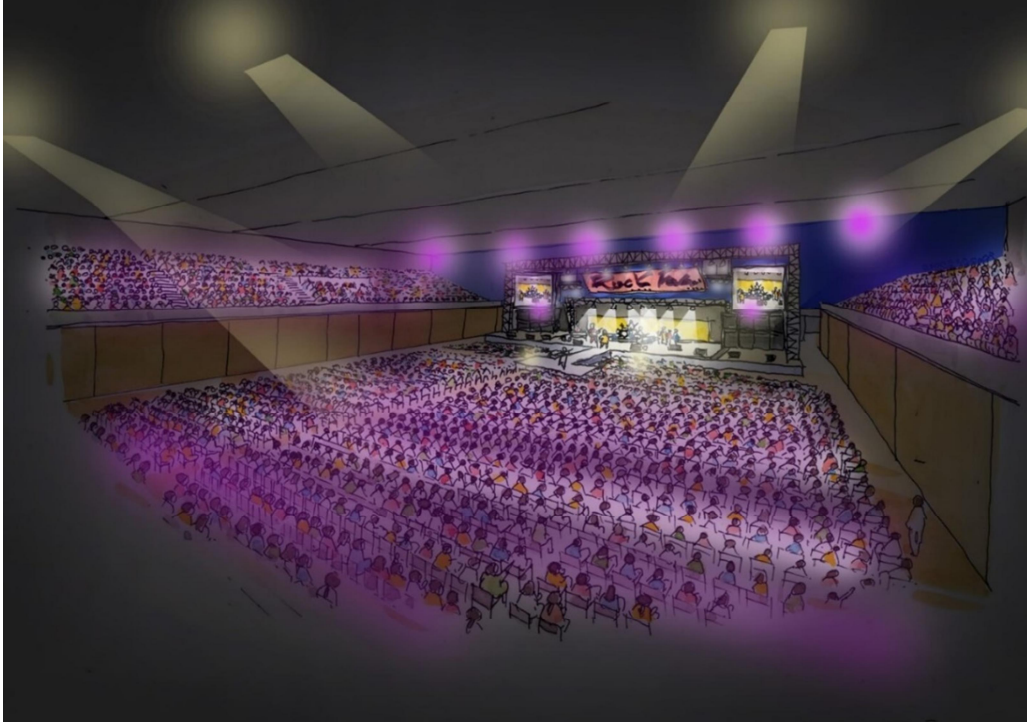
図表 40 南東からみた鳥瞰パース



図表 41 南西からみたアイレベルパース



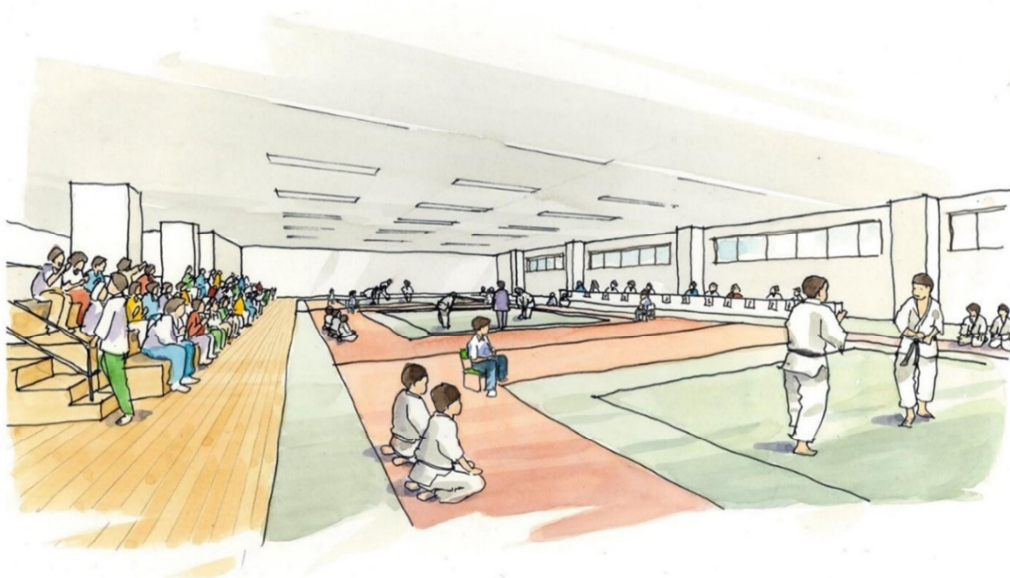
図表 42 メインアリーナ（コンサート興行時）の内観パース



図表 43 サブアリーナ（競技大会開催時）の内観パース



図表 44 武道場の内観パース



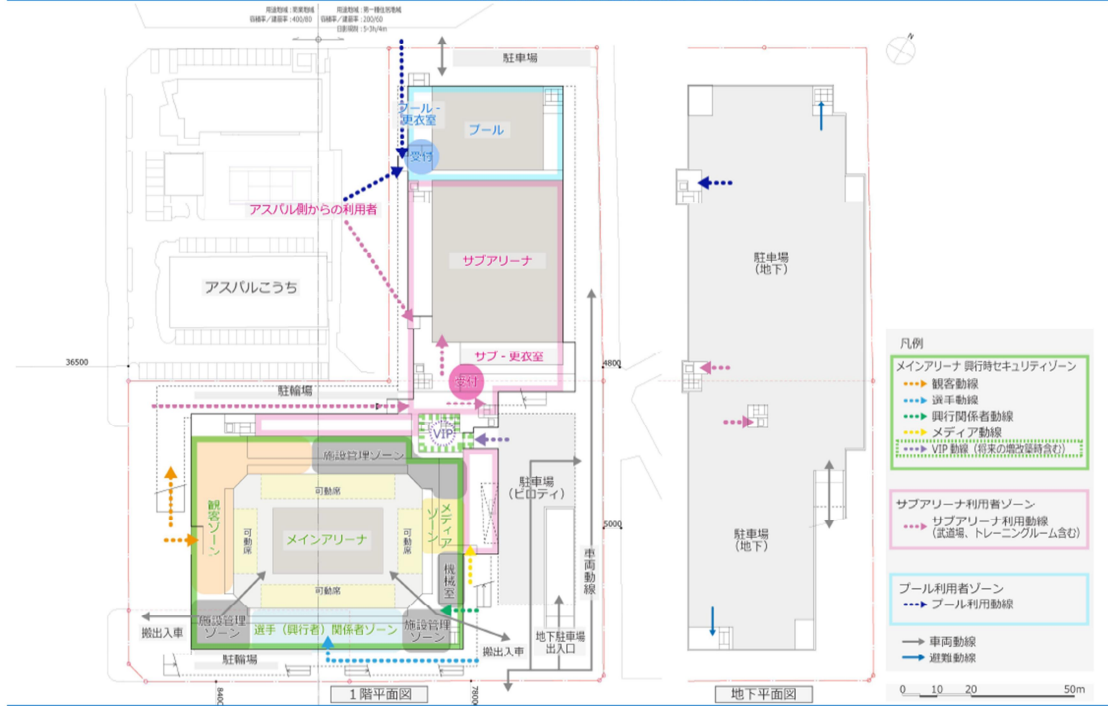
図表 45 共用部の内観パース



図表 46 モデルプラン (B1階・1階)

アリーナイメージ (モデルプラン) (B1-1階)

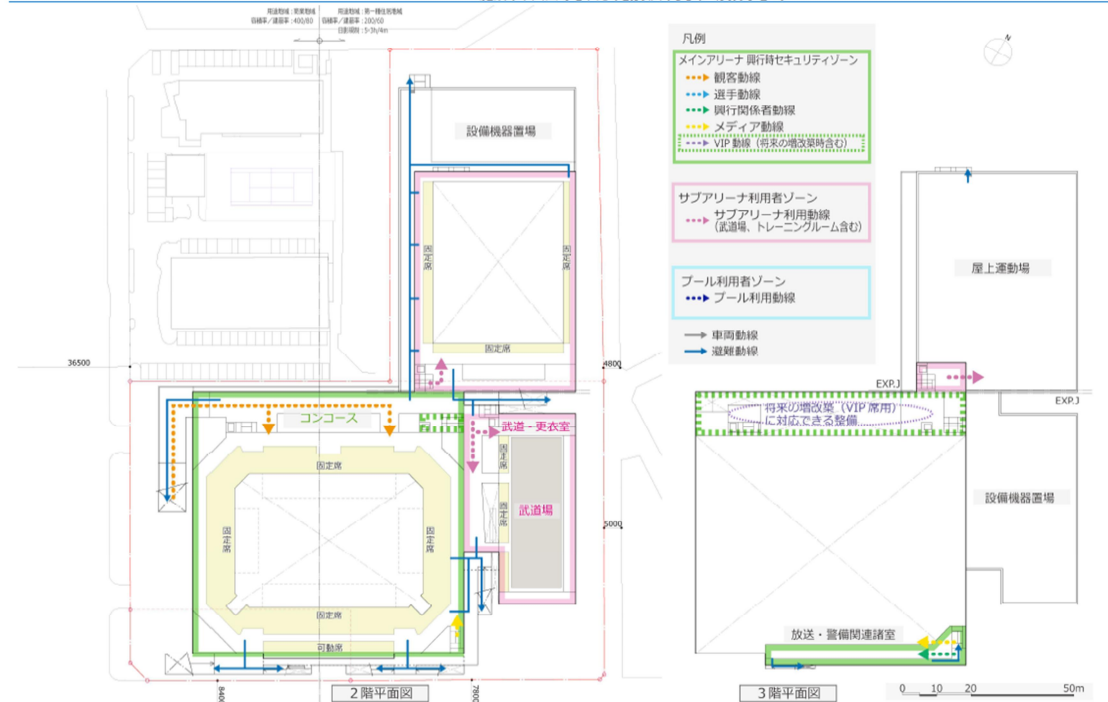
※当該モデルプランは、基本計画で検討・議論している内容が実現可能が検証するための図案であり、施設の平面図等を下記のとおり決めるものではありません。



図表 47 モデルプラン (2階・3階)

アリーナイメージ (モデルプラン) (2-3階)

※当該モデルプランは、基本計画で検討・議論している内容が実現可能が検証するための図案であり、施設の平面図等を下記のとおり決めるものではありません。



## 第6章 周辺環境への配慮についての検討

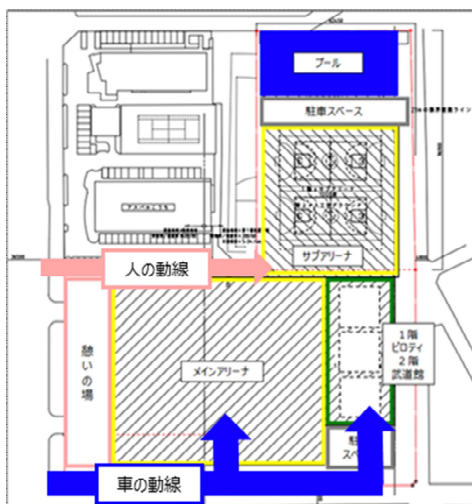
### 1. 動線計画

計画地内は、人の動線と車の動線を分け、歩行者の安全に配慮するとともに、周辺に住宅地や教育施設、公園があることに配慮した動線とする。

また、イベント時の行列や待機場所を想定し、周辺に混雑が発生しないよう配慮し、車の動線は敷地南側の市道とする。

イベント時の設営・撤去を行う大型トラックなどは、敷地南側の市道又は西側の県道34号線から直接メインアリーナのフロア（土間コンクリート）に進入できるようにする。搬入出口は、大型トラックが直接乗り入れることができる十分な間口、高さを確保し、段差のない構造とする。

図表 48 計画地内の動線計画



### 2. 公共交通利用促進策

計画地内に駐車場のスペースを十分に確保することが難しいため、一般来館者には公共交通機関の利用や徒歩での来館を促す。

図表 49 公共交通利用促進策の方向性

交通手段	ソフト施策の方向性
電車・バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者には、公共交通機関の利用や徒歩での来館を促す</li> <li>大規模イベントの際には路面電車や路線バスの臨時的な増便に向けて運営主体のとさでん交通株式会社と協議していく</li> </ul>
自動車	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺での渋滞や混雑の発生を極力少なくするため、車両進入路などの誘導板の設置を検討</li> <li>大規模イベント時には、潮江緑地や旧高知南中高のグラウンド等を臨時駐車場として活用することを検討</li> </ul>

## 第7章 概算事業費の算定

### 1. イニシャルコストの検討

過去10年間（2014年以降）に着工したプロスポーツ利用又はコンサート興行利用に対応し、延床面積が10,000㎡以上かつ最大収容人数が概ね5,000人以上のアリーナ施設の情報を収集した。

その結果、オープンハウスアリーナ太田、あなぶきアリーナ香川、SAGAアリーナ、沖縄アリーナなど11施設の整備費をもとに、1㎡あたりの整備単価の平均を算出（72.4万円/㎡）し、各施設の着工時期が異なることから、建設費高騰の係数補正を行ったうえで、R7年度時点の1㎡あたりの整備単価を試算（93.9万円/㎡）した。

解体費と整備費を合わせた概算事業費は208.9億円となる。その他、備品の整備費用が必要。（参考：あなぶきアリーナ約11億円。センターハングビジョン、リボンビジョン、デジタルサイネージ、木製フローリングパネル、移動式観覧席、バスケットゴール一式等）

着工が予定される令和10年には、さらなる建設費高騰による事業費の上振れが見込まれる。

図表 50 概算事業費

単位：億円

費目	計上すべき費用	金額	備考
解体費	現県民体育館及び旧南消防署の解体費	9.6	設計事務所の見積
整備費	建設費 新県民体育館の建設費 ※延床面積17,500㎡を想定 ※ピロティ、地下駐車場、 人工芝の整備費を除く	164.3	他のアリーナにおける建設費単価の平均値に、物価高騰を反映させた建設費単価93.9万円/㎡を採用 ※R7年4月現在予測
	ピロティ（駐車場）の建設費	7.0	設計事務所の見積
	地下駐車場の建設費	16.0	
	人工芝の整備費	0.9	
	外構工事費（+駐車場）	3.5	
	設計費	4.7	
	調査費	0.4	
	施工監理費	2.5	
合計		208.9	

## 2. ランニングコストの検討

新県民体育館の維持管理運営に伴う年間のランニングコストは、現在の県民体育館の運営にかかる支出実績を踏まえ、延床面積比較による支出の増を見込んで試算した。

なお、供用開始が予定される令和14年には、さらに人件費や光熱水費の高騰が見込まれることから、適宜、ランニングコストの精査及び見直しが必要となる。

図表 51 年間のランニングコスト

単位：千円/年

費目	金額	備考
人件費	127,144～158,478	
維持管理費ほか	139,156～171,972	光熱水費、設備保守管理費、修繕費 ※木製床設置撤去費用含む
支出合計	266,300～330,450	15,217～18,883 円/㎡当たり

## 3. 収入の見通し

収入は主に貸館収入と貸館以外収入で構成され、それぞれ試算の考え方を整理した。貸館収入は、プロスポーツ、音楽コンサート、MICE、競技大会などの年間利用日数に、現県民体育館の利用料金をベースに1.5倍又は2倍の水準を想定し算出した。利用料金は、平日・土日祝日、アマチュア・アマチュア以外、入場料の徴収あり・なしによって区分して設定した。

貸館以外収入は、備品貸出、ネーミングライツ、広告掲出料、物販飲食、駐車場収入などが考えられ、他のアリーナの事例や本県の状況を踏まえ試算した。

なお、収入の見通しの試算パターンとして、「するスポーツ中心」時期は県内にプロスポーツがない時期、「する+みるスポーツ」時期は県内にプロスポーツチームが誕生し、新県民体育館をホームアリーナとして試合を開催している時期を想定して、それぞれ試算した。

図表 52 収入の見通し

単位：千円/年

収入項目	利用料金2倍パターン		利用料金1.5倍パターン	
	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期	「するスポーツ中心」時期	「する+みるスポーツ」時期
貸館収入	76,922	115,898	57,691	86,923
貸館以外収入	27,388	55,448	25,772	52,858
収入合計	104,310	171,346	83,463	139,781

#### 4. 財政負担額（指定管理代行料）の見込み

収入の見通しからランニングコストを差引き、県の財政負担（指定管理者制度における指定管理代行料相当分）は年間 1.6 億円～1.9 億円程度が見込まれる。なお、財政負担を軽減させるための方策として、以下が考えられる。

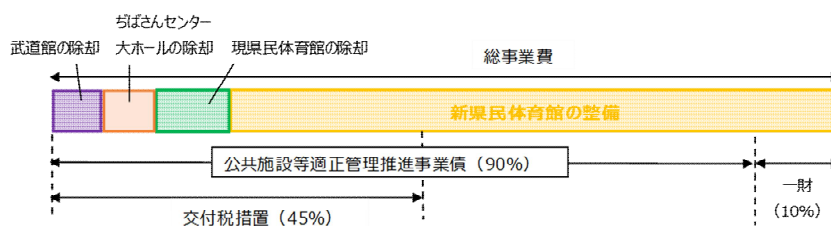
- ・ 将来的な地元のプロスポーツチームの誕生を見据えたプロスポーツの試合の誘致や、MICE、音楽コンサートなどの開催を増やすことにより、収入増を図る
- ・ 現時点では試算に見込んでいないが、プールでスイミングスクール事業を受け込む場合の収入や、トレーニングルームを設置する場合の利用料などの収入により、収支改善を図ることが可能と見込まれる
- ・ 集客を増やすことで、露出効果を高め、ネーミングライツや広告掲出料などの貸館以外収入の増を図る

#### 5. 財源の確保

令和 8 年 4 月 8 日開催の「第 5 回ちばさんセンター大ホール等あり方検討会」において、大ホールを廃止する方向性が出たことから、新県民体育館の事業費に対する財源の確保に向けては、集約化・複合化後の施設の延床面積が、現施設の延床面積より減少することが充当要件となる公共施設等適正管理推進事業債（以下「公適債」という。）を活用する。

公適債は、対象事業費における起債充当率 90%、交付税措置率 50%の制度で、県立武道館とともにちばさんセンター大ホールを集約化・複合化の対象施設とすることから、両施設の除却費用も起債対象となる。

図表 53 公適債の充当イメージ



また、障害者スポーツセンターのプールも集約化の対象施設とし、除却する際は起債対象となる。

なお、公適債の充当のほか、新県民体育館のうち指定避難所に指定される予定の部分については、緊急防災・減災事業債の活用も検討するとともに、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など、民間資金の活用も視野に入れ、可能な限り県の財政負担を低減させるものとする。

## 第8章 事業手法及び管理運営手法

### 1. 適用可能な事業手法の抽出

適用可能な事業手法を抽出に向けては、民間企業意向調査を踏まえたうえで、定性的・定量的評価を行い、総合評価を行う流れで検討を行う。事業手法は、本施設整備の特性を踏まえて、施設建設や管理運営の検討方針について、「県の財政負担が軽減されること」「民間ノウハウが効果的に発揮されること」「一定の県民利用が確保されること」の3つの目的が達成できる事業手法及び管理運営手法を選定する。

### 2. 事業スキームの検討

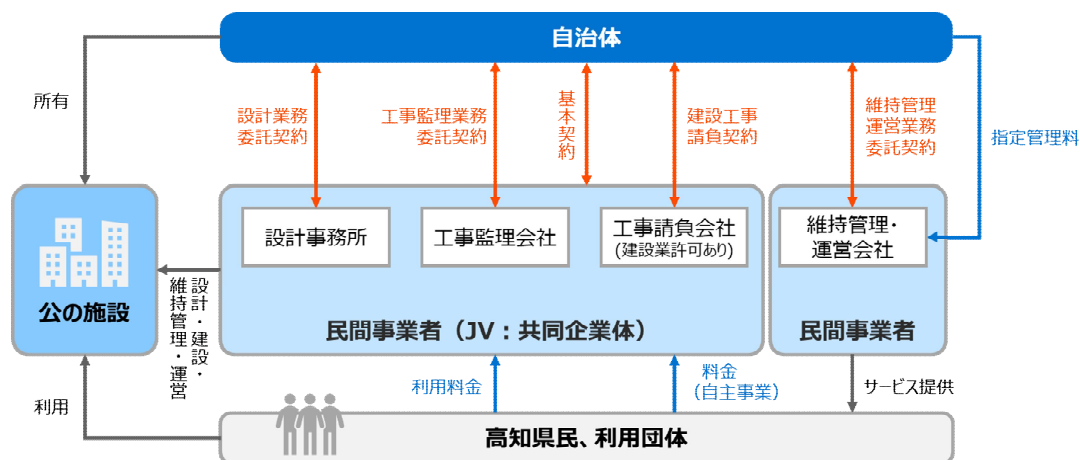
公の施設として整備され、指定管理者制度により運営される従来方式のアリーナ施設が大半を占めるなか、PFI方式や公共施設等運営権による事業手法によって事業化されているアリーナ施設も増えている。

#### (1) 設計施工一括発注方式+指定管理者制度 (DB+0)

設計施工一括発注方式+指定管理者制度 (DB+0) は、自治体が設計業務と建設業務を一括して民間事業者が発注するもので、従来発注よりも発注手続きが一括で実施することができるため期間を短縮することが期待できる。維持管理・運営業務は別途指定管理者の公募手続きを行い、指定管理者を選定する。

資金調達は自治体が行うため、民間事業者は必ずしもSPC(特別目的会社)を組成する必要はなく、JVでの事業実施も可能となる。

図表 54 設計施工一括発注方式+指定管理者制度 (DB+0) の事業スキーム



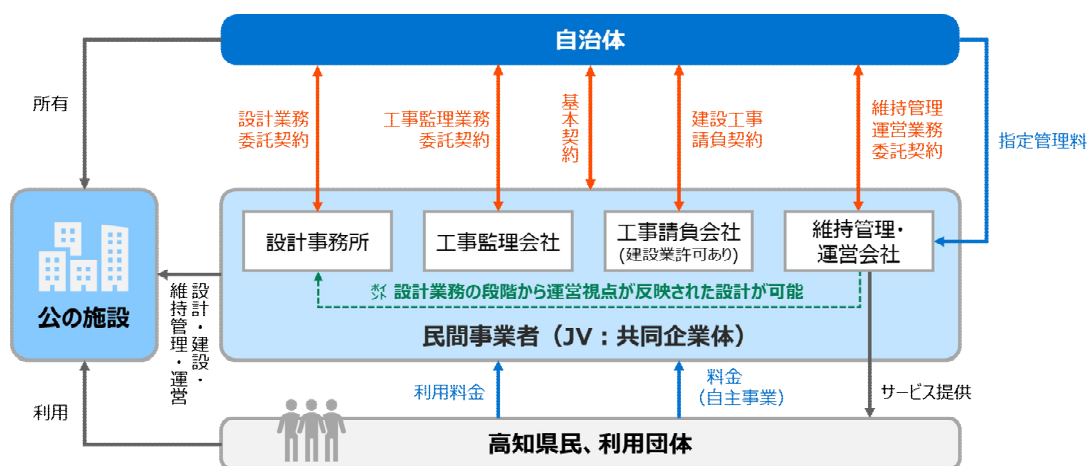
## (2) DBO方式

設計施工運営一括発注方式（DBO）は、自治体が設計施工と維持管理・運営を一括して民間事業者が発注するもので、従来発注よりも発注手続きが一括で実施することができるため期間を短縮することができる。

民間事業者は一定の裁量の中で設計から運営までを実施することから、設計業務の段階から運営視点が反映された設計を行うことが期待できる。

資金調達は自治体が行うため、民間事業者は必ずしもSPC（特別目的会社）を組成する必要はなく、JVでの事業実施も可能となる。

図表 55 DBO方式の事業スキーム



## (3) PFI-BTO方式

PFI-BTO方式は、自治体が設計建設と維持管理・運営を一括して民間事業者が本事業のみを実施するために設立する特別目的会社（SPC）が発注するもので、自治体は基本協定とPFI事業契約を締結するのみとなる。

民間事業者は、整備～維持管理・運営に関わる構成企業がSPCを組成し、SPCから各企業が委託を受けて各業務を実施する。また、事業費を金融機関からプロジェクトファイナンスで調達する。

プロジェクトファイナンスによる事業を行うことから、特別目的会社の経営状況（当該施設の運営状況）を明確に把握・モニタリングすることができる。



### 3. 民間企業意向調査

#### (1) サウンディング調査

##### ① 調査概要

新県民体育館の整備・運営等においてPPP/PFI事業の導入可能性を詳細に検討することに向け、民間企業の本事業への関心や創意工夫・ノウハウ発揮余地、建設企業の参画可能性を明らかにするため、令和7年11月から12月にかけてサウンディング調査を実施した。対象企業は、複数業種における代表的な企業とした。

図表 58 ヒアリング調査対象一覧

業種	対象者数
建設企業	7者
運営企業	7者
維持管理企業	4者
その他企業	1者

##### ② 調査結果

サウンディング調査から、本事業に対する民間事業者の関心や事業環境等に関する示唆を取りまとめた。

図表 59 サウンディング調査から導かれる示唆

(ア) 本事業への関心・関心のある業務範囲と立場
<ul style="list-style-type: none"><li>• 全国区の建設企業複数社が関心を示すなど、<u>本事業への関心度は高いものと思われる。ただし、先行案件により建設企業が繁忙となる可能性から、準大手や県内ゼネコンも含めた市場を構築する必要</u>がある。</li><li>• 運営・維持管理企業のうち、四国地方や高知県に営業拠点が無い企業は、それを理由に関心が高まりきっていない。</li><li>• <u>予算や事業手法が定かになれば、民間事業者側の姿勢がより明確になるもの</u>と考えられる。</li><li>• <u>全国区の建設企業・運営企業が、代表企業を務めることとなる見込み</u>がある。</li><li>• 設計～維持管理まで、それぞれ複数の事業者が関心を持っている。</li><li>• <u>アリーナビジネスに長けた運営事業者（例：広告代理店、プロモーター）がどのように参画するか、どのようなアリーナ活用の可能性が模索できるのか</u>が、各企業の関心事となっている。</li><li>•</li></ul>

<p>(イ) 対象施設および周辺地域のポテンシャル</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 県内の他の運動施設と比べると、<u>中心市街地からのアクセスが良いことや、現状で県民の利用が定着していることが評価された。</u></li> <li>• 一方で、興行開催を念頭に置いたうえで、<u>5,000人規模で集客できる興行を定期的に開催できるポテンシャルを有すると評価した意見は寄せられなかった。</u></li> </ul>
<p>(ウ) 民間事業者のノウハウが期待できるポイント</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現状、施設規模や配置パターンが未定であることから、整備面（設計・施工）に関する具体的なノウハウ発揮の言及は限定的であった。</li> <li>• 災害時には<u>浸水することが想定される敷地であるため、浸水対策を重視する意見</u>が複数あり、特に駐車場の整備については、<u>浸水リスク及び施工コストが高い地下駐車場を避け、地上に設置することが推奨された。</u></li> <li>• 新県民体育館は、アリーナ、プール、武道館から構成されるものの、<u>整備面では特殊性が少ない施設であるため、ゼネコン側は、民間ノウハウ発揮の余地があるという見解であり、参入者が限られるという事業ではないことが伺える。</u></li> <li>• <u>運営面、維持管理面において民間ノウハウは発揮できる事業であることが分かった。</u></li> <li>• <u>維持管理費は10,000～12,000円/㎡・年が目安と推測される。</u>運営費や職員配置数については各社見解が分かれる。<u>総じて維持管理費・運営費の削減の余地は見込める施設規模である。</u></li> <li>• <u>プールがあることで、スイミングスクール事業や温浴施設等により民間事業者が自主事業を実施できる機会が生まれやすくなる。</u>そのため、スイミングスクール事業や学校の水泳事業の受入といった用途があることで、新県民体育館の利用者層の幅を広げ、ひいては収益化の幅を広げられる点ではメリットがあることが分かった。<u>プール事業については、総じてコストに見合った投資対効果は得られるもの</u>と思料する。</li> <li>• 興行利用による収益化を目指すためには、<u>Bリーグチーム等のアリーナ運営におけるコンテンツの核となる存在</u>が検討段階で存在している/存在していない場合は創設の確度が高い、あるいは創設に向けた動きが活発である状況が前提条件であることが伺えた。現状は、収益性が弱いため、訴求力を高める必要がある。</li> </ul>
<p>(エ) 民間施設の導入可能性</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• いずれの企業も<u>立地面を理由に飲食・物販施設の誘致は難しいことが分かった。</u>他方で、<u>スポーツ合宿やオフシーズンのキャンプ地誘致等はビジネスチャンスとして期待できる。</u></li> </ul>

- 飲食・物販施設は、常設は難しいものの、スポーツの試合や大会時に合わせてキッチンカーの設置や無人販売の店舗形態、飲食業態以外の事業展開等、様々な店舗形態による事業展開の方策がみられた。設え上の工夫も、収益性に寄与するポイントとなることが伺えた。
- プロスポーツチームに頼り過ぎるのではなく、アマチュアから学生まで裾野を広げ、スポーツを呼び水とし、日常利用と興行利用の稼働バランスを整えていくことが、長期かつ安定的な施設運営においては必要となる。

#### (オ) 本事業における望ましい事業手法

- ゼネコンは施設の特殊性やプロスポーツコンテンツ不在の観点から DB 方式、維持管理・運営側はコストメリットの観点から PFI 方式が望ましいことが分かった。民間事業者側は、現県民体育館の指定管理者の関与や位置づけによって望ましい事業手法が変わるとの考え。
- 高知県スポーツ振興財団は、高知県・高知市と事業連携がとりやすい従来方式や DB 方式が望ましいことが分かった。
- 特に民間事業者が維持管理と運営を一体的に行う PFI 方式は、運営者目線で施設設計・整備に対しても意見できることがメリットであり、結果、人員配置の適正化や先端技術の導入等によるコスト削減が果たせる事業であることが分かった。
- 一方で、維持管理・運営が業務範囲に含まれることで、当該ノウハウ・実績を有する地元事業者が限定されるため、地元事業者からは従来方式を望む点にも留意が必要。

#### (カ) 事業スケジュールに関するご意見

- 最短となる 2029 年（令和 11 年）供用開始に向けた段取りでは、繁忙状況からして参画が難しいとする事業者が見られたが、スケジュールが後ろ倒しになる分には各社から歓迎されていた。
- ただし後ろ倒しになることでより建設単価が大きくなる可能性があることが指摘された。
- 運営企業からは、公募準備期間を十分に設けることが要望された。現県民体育館の指定管理者からは、休館期間を短くすることで利用者離れを防ぎたい考えが示された。

#### (キ) 本事業への課題・懸念点等

- アリーナを本拠地とするプロチームが不在であることによる運営の困難が強く懸念されている。
- 土間コン仕様とすることや、屋上グラウンド、可動式競技床、プールの整備について、コストアップ要因であることが指摘された。
- 発注者となる県において、本事業において達成すべきこと（日常/興行、タ

ーゲット層、スポーツの種類など)を絞り込んでいく必要がある。
(ク) 県への要望等
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>建設費用の高騰を想定した、十分な予算の確保がなければ、不調となる可能性</u>がある。</li> <li>• <u>アリーナ事業単体で黒字化することは難しいので、本事業によるエリア活性化に意義を見出すことで公共が積極的に投資する姿勢が求められる。</u></li> <li>• 公募の際は、地元企業が参画しやすい要件設定とすることや、光熱水費等の変動費を明瞭に会計すること、物価高騰への適切な対応を導入することが求められている。</li> </ul>

## (2) 追加サウンディング調査

### ① 調査概要

前述の調査にて聴取した意見や検討会での討議を踏まえ、敷地設定や施設の基本要件を提示し、令和8年3月から4月にかけて再度のサウンディング調査を実施した。調査対象は、サウンディング調査に参加した企業のうち12者である。

図表 60 ヒアリング調査対象一覧

業種	対象者数
建設企業	5者
運営企業	4者
維持管理企業	2者
その他企業	1者

### ② 調査結果

追加サウンディング調査にて明らかになった、新県民体育館の施設計画やPFI方式とするための諸条件、その他の要望等を取りまとめた。

図表 61 追加サウンディング調査における主な意見

(ア) 施設計画について
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資材ヤードの確保やアスファルト側の敷地への安全確保などが懸念事項となり、<u>施工計画上の制約</u>となり得る。</li> <li>• 最初の時点ではスケルトンに近い状態に留め、プロスポーツチームによる利用の目途が立ち次第追加工事するなど、<u>段階的に整備することも有効</u>である。</li> <li>• 施設竣工後の事業継続性を考え、<u>運營業務の担い手となり得る関係者の意向</u></li> </ul>

を入念に聞き取ることが必要と思われる。

- VIPの動線と搬出入動線は、分けられることが望ましい。
- 特にアリーナについては興行利用/一般利用の動線を切り分けること、搬入出動線や倉庫容量が充実していること、防災拠点機能としてのあり方などについて、要求水準書に適切に反映されることを要望する。
- アスバルこうち側からの利用者入口が2か所設置されていることについて、各入口に対応する受付を設ける場合は、コストアップにつながる可能性を懸念している。受付は一か所とし、運営コストを下げることを考える方がよい。
- メインアリーナとサブアリーナは、連携が必要となるケースと分離が必要となるケースとがあり、その両方に対応できることが望まれる。
- 平日の稼働率を上げる場合は、清掃業務等の実施回数も増え、地方のビルメンテナンス事業者にとっては人員確保が困難になることを懸念する。
- 駐車場を地下化することは施工費用の増大を招くことに留意が必要である。また、モデルプランでは出入口が1ヶ所のみであり、渋滞が懸念される。
- 地下駐車場は、地下水位も浅いと考えられ、施工の難航や内水氾濫への懸念がある。

#### (イ) PFI方式とするための諸条件について

- プロスポーツチームが設立されておらず、運営や採算に確証が持てない状況下では、運営会社とチーム組成することが難しい。
- 仮に運営会社側からSPC組成への声掛けがあり、運営収支の見通しについて納得感のある情報開示があれば、PFI方式でも検討の俎上に載る。
- 建物の管理運営フェーズでは運営等の事業者に代表企業を交代できると、役割分担に柔軟性が生まれ、参画を検討しやすい。
- 短期間の管理運營業務期間ではノウハウが蓄積されず、官民連携による効果が期待できない。また、業務期間に対して、準備期間が長く、応札する意義を感じづらい。基本的には15年程度の運営期間を設定することがよい。
- いずれの事業手法であったとしても、サービス購入料をコンソーシアム内で納得のいく形で按分できるかどうかが問題となる。
- プロスポーツチームが何年後にできるといった、稼働率が高まる見込みが明確に立っていれば問題ない。

#### (ウ) その他要望等

- 興行利用等を除いた残りの日数をどう有効活用するかは、アリーナ事業において重要な視点である。
- 入札不調が相次いでいる昨今の市場に見合った事業費の検討を要望する。

- 契約時点から着工までの期間における物価上昇に対し、物価スライドの適用による十分な配慮がされることを望む。
- 地下駐車場について、掘削した際に、水の流入があると、止水に時間を要して工期が遅延することも考えられるため注意が必要である。
- 運営企業の視点では、収益を最大化するため、なるべく多くの日数をプロスポーツによる利用で埋めることが好ましい。
- 運営事業においてどのように稼働日数を増やしていけるのか不安を感じている。SPCの取組に依存せず、高知県とも協力のもと進めていくことを要望する。
- 現在のシミュレーションでは、Bリーグの下部カテゴリー規模のクラブが利用することは厳しいだろう。減免措置前提での収支を試算することが望ましい。
- 収支と指定管理料について、想定興行数の下で指定管理料を想定すること自体は問題ないが、想定を下回った場合のリスクは県が負担する形としてほしい（収益の増減を官民で分担する仕組みの発想）。
- 近隣との事業間で建設時期を調整することも視野に入れてほしい。
- スタッフが勤務するための事務所（体育館内でなくともよい）を開館の約1年前から設置できる場所があることが望ましい。
- 社会体育機能とアリーナ機能のどちらを重視した施設のあり方を採用するか、明確にしてほしい。




#### 4. 事業手法の評価

従来方式と比較し、官民連携手法によりどれだけの財政負担額を削減できるかを示す割合であるVFM (Value For Money) を算出し定量的評価を行った。

また、サウンディング調査（民間企業意向調査）結果などを踏まえ、事業手法に関する判断項目と比較検討し定性的評価を行った。

これらを整理したものが下記の表である。

図表 62 事業手法の総合評価

新県民体育館の事業手法の総合評価			
	従来方式	DB+O方式	DBO方式/PFI-BTO方式
<b>VFM</b>	-	<b>1.7%</b>	<b>3.8%/3.5%</b>
設計施工段階の運営目線確保	県が設計段階から主体的に関与し、 <u>運営目線を調整・反映可能</u> （アドバイザー等を活用）	アドバイザー活用等について <u>要求水準書に詳述することで運営目線を一定反映</u> （県の主体的関与には制約あり）	設計段階から運営企業が参画し、 <u>運営目線の反映が可能</u>
県民等の意見反映とその説明	<u>設計、施工の各段階において、県民や議会に対してタイムリーに、丁寧に進捗報告や説明が可能</u> 。透明性と合意形成の確実性を確保できる	事業者選定（要求水準書の提示・契約）の <u>タイミングで一括して説明</u> 。契約締結以降は、 <u>設計と施工が民間主導で一体不可分として進行するため、途中段階（基本設計相当の時期など）で県民意見の反映が構造的に難しい</u>	
状況変化やリスクへの対応（計画変更など）	・設計・解体・本体工事の手綱を県が握るため、 <u>状況変化への柔軟な対応が可能</u> ・発注者支援業務を導入することにより、 <u>執行体制を補強し、同時並行の複雑な工程を安全・確実に管理することが可能</u>	民間への一括委任となるため、 <u>契約後の状況変化に対して柔軟な軌道修正が利きにくい</u>	
工期遅延のリスク	・各段階の分離発注となるため、 <u>市場の影響を受けやすく、入札不調のリスクが伴う</u> 。 <u>工期遅延リスクは一番高い</u>	不調リスクは一括契約時のみ。万一、 <u>再公募となった場合のタイムロス</u> は従来方式よりも長い	
<b>総合評価</b>			
DB : Design Build (設計施工一体発注方式)    DBO : Design Build Operate (設計施工運営一体発注方式) PFI-BTO : Build Transfer Operate (自治体が設計建設と維持管理・運営を一括して民間事業者へ発注)			
<b>結論</b>	<b>本事業に最も適合する事業手法として、「従来方式」を採用とする</b> ※なお、実施にあたっては、サウンディング調査などにより市場動向等を踏まえ、不調・不落の回避や工期の確実な遵守に努める。		

定量的評価では、官民連携手法は従来方式と比較して、公共負担額を最大3.8%（現在価値ベース）削減できる試算となったが、本事業で重視する事項の定性的評価を踏まえ、総合的に判断した結果、新県民体育館が社会体育施設としての機能を有することに加え、県民等の意見反映、状況変化やリスクへの対応などの観点から、最も適した事業手法として「従来方式」を採用する。

なお、実施にあたっては、サウンディング調査などによる市場動向等の把握や、発注者支援業務の導入等を検討し、不調・不落の回避や工期の確実な遵守に努める。

## 第9章 経済波及効果

### 1. 経済波及効果の前提条件

高知県経済波及効果簡易分析ツール（平成27年表バージョン）を用いて、県内の消費、投資等の需要の増加がもたらす県内への経済波及効果を試算した。試算する経済波及効果の期間や項目等の前提条件は以下のとおり。

- 試算する経済波及効果の期間は30年間とし、年間利用日数シミュレーションで設定した「するスポーツ中心」時期を5年間、「する+みるスポーツ」時期を25年間とした日数に基づき、30年間の累計金額を試算
- スポーツ興行は、チケット収入・飲食費・グッズ購入費・宿泊費とする
- コンサート興行は、**チケット収入**とする
- 展示会などのMICEは、飲食費・買物・娯楽費・宿泊費とする
- 競技大会・文化系イベントは飲食費・宿泊費とする
- 1催事あたりの来場者数や消費単価は、県内の現状や他県の事例をもとに設定

### 2. 経済波及効果の試算結果

新県民体育館完成後、30年間で**1,089**億円を超える経済波及効果が見込まれる。

図表 63 経済波及効果の総額（30年間）

単位：百万円/30年

項目	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
建設による波及効果	20,890	6,257	3,803	30,950
維持管理運営による波及効果	5,985	1,511	1,061	8,558
イベント来場者による波及効果	<b>46,364</b>	<b>15,698</b>	<b>7,408</b>	<b>69,470</b>
合計	<b>73,239</b>	<b>23,466</b>	<b>12,272</b>	<b>108,977</b>

直接効果：自地域内の各産業分野で誘発された生産額

第1次波及効果：直接効果によって生じる原材料等の中間需要によって起こる波及効果

第2次波及効果：直接効果と第1次波及効果で増加した雇用者所得のうち消費に回された消費需要により新たな生産を誘発する効果

### 3. 利用者数と観光消費額

新県民体育館の「する＋みるスポーツ時期」における年間利用者数は約35万人、そのうち、県外観光客がもたらす観光消費額は年間約14億円と試算。

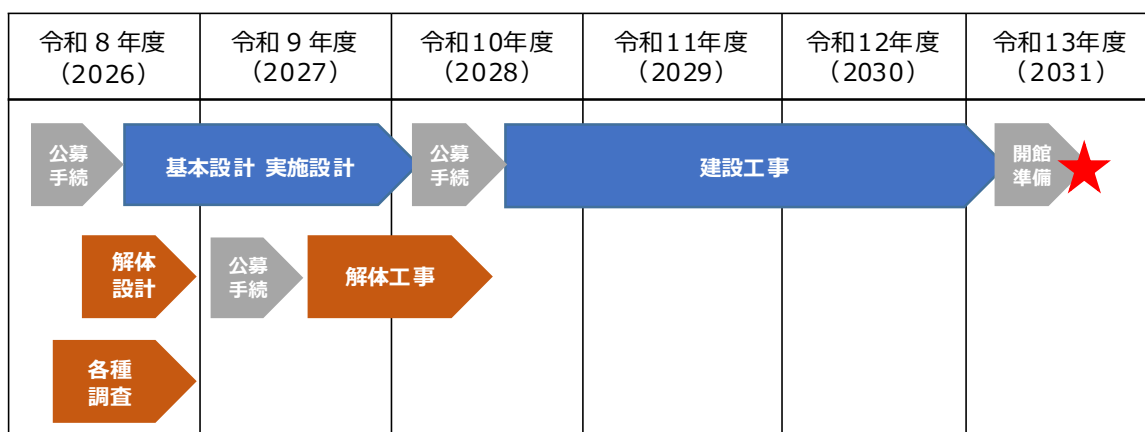
※利用者数は、令和8年3月24日に開催した「第7回新県民体育館整備等基本計画検討会」で示した年間利用のシミュレーションの日数に、令和6年度実績の現県民体育館や高知ちばさんセンター大ホール等の来館者数を乗じて算出した試算。また、県外観光客がもたらす観光消費額は、利用者数のうち県外観光客が約63,000人と見込み、県外観光客1人当たりの消費額22,452円（令和6年県外観光客入込・動態調査報告書（プロスポーツキャンプ等調査）より）を乗じて算出した試算。

## 第 10 章 整備スケジュール

### 1. 整備スケジュールの検討

令和 13 年度半ばの供用開始を目指す。

図表 64 整備スケジュール（想定）



## 第11章 実現に向けた課題整理

### 1. 検討会での議論

新県民体育館整備等基本計画の策定にあたり、整備運営、スポーツ振興、観光振興、まちづくり等に関して識見を有する者から意見を聴取することを目的に、令和6年度「県立スポーツ施設のあり方検討会」（以下、「あり方検討会」という）及び令和7年度、8年度「新県民体育館整備等基本計画検討会」（以下、「基本計画検討会」という）において下記のとおり議論を行った。

検討会の各回の議論の詳細については、別添資料にて示す。

図表 65 あり方検討会、基本計画検討会の開催実績

あり方検討会	第1回	令和6年7月19日（金）
	第2回	令和6年9月2日（月）
	第3回	令和6年10月18日（金）
	第4回	令和6年12月20日（金）
基本計画検討会	第1回	令和7年7月4日（金）
	第2回	令和7年9月3日（水）
	第3回	令和7年10月22日（水）
	第4回	令和7年12月18日（木）
	第5回	令和8年1月16日（金）
	第6回	令和8年2月17日（火）
	第7回	令和8年3月24日（火）
	第8回	令和8年4月17日（金）
	第9回	令和8年4月30日（木）
	第10回	令和8年5月26日（火）
	第11回	令和8年6月10日（水）

### 2. 今後の検討課題及び方針

#### （1）新県民体育館を核とした賑わいづくり

新県民体育館の整備を契機として、高知市中心市街地と連動した賑わいの創出や人の流れの形成を図るとともに、観光消費額の増加につなげていく。

具体的には、新県民体育館で開催されるイベントと宿泊施設を組み合わせた旅行商品の造成、中心市街地の駐車場と公共交通機関の利用を組み合わせたパーク・アンド・ライドの促進、商店街等と連携した情報発信などの取組を進める。

また、「賑わいづくり」をテーマとして開催した住民参加型ワークショップにおい

て出た意見やアイデアについて、設計内容や周辺整備の検討に生かしていく。

<第1回「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップ>

日 時： 令和8年3月29日（日）14:00～17:00

場 所： オーテピア図書館 4階研修室

講 師： 高知大学自然科学系理工学部門 講師 坂本 淳氏

参加者： 20名

【主な意見・アイデア】

- ・路面電車の停留所や歩道の拡幅
- ・路面電車の線路や沿道において草花のおもてなしによる装飾
- ・沿道にキッチンカーやオープンカフェの設置、日曜市のようなイベントの開催
- ・沿道にシンボルとなるオブジェや高知ならではの飲食・土産の出店の設置
- ・新県民体育館で音楽コンサートやイベント時に連動したラッピング電車の運行
- ・新県民体育館でライブ開催時、帯屋町商店街などでライブと連動したBGMを流す
- ・デジタルスタンプラリーの設置（イベントやライブと連動、マンホールを活用したスタンプラリーなど）
- ・プロスポーツの試合開催時に沿道に選手の旗や等身大のパネルの設置
- ・路面電車の増便 など

## （2）プロスポーツやMICEの誘致

プロスポーツの誘致については、他県のプロスポーツチームの合宿やプレシーズンマッチ等の開催を通じて、関係構築及び県内における機運醸成を図る。MICEの誘致については、高知ちばさんセンター大ホールにおける展示会等の開催実績を有する企業・団体への働きかけを行うとともに、これまで本県で開催が困難であった大規模MICEの受入可能性について検討を進める。

これらの取組を効果的に推進するため、プロスポーツ及びMICEの誘致に向けた官民連携の検討体制を構築し、具体的な方策について検討を進める。

## （3）地域防災

地震や津波等の災害時においては、新県民体育館の利用者及び地域住民の一時的な避難並びにその後の避難場所としての活用を想定し、一時避難、避難場所、備蓄物資の保管に必要なスペースを確保するとともに、避難時に必要となる電気、ガス、通信（Wi-Fi、電話等）などのインフラ機能の確保について検討を行う。これらについては、設計段階において高知市の防災担当部署と連携するとともに、専門家の意見を踏

まえながら具体化を図る。

また、大規模イベント開催時の発災を想定した長期帰宅困難者への対応についても併せて検討を進める。

さらに、「防災」をテーマとして開催した住民参加型ワークショップにおいて出た意見やアイデアについて、設計内容や防災機能のあり方の検討に生かしていく。

<第2回「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップ>

日 時： 令和8年5月16日（土）14:00～17:00

場 所： オーテピア図書館 4階研修室

講 師： 高知大学自然科学系理工学部門 講師 坂本 淳氏

参加者： 20名

【主な意見・アイデア】

- ・土地に馴染みのない人でも新県民体育館へ避難できる工夫（外国語対応やイラストを利用した標識、外から避難所とわかるよう建物の色を変えるなど）
- ・避難者が屋上へ避難できる外階段の設置
- ・コンサートやイベント時に発災した場合に、予め各階で避難するルートを定めておき、誘導灯を用いてルートを色分けし、避難誘導を円滑に行う
- ・インターネット環境を確保するために大人数の利用が可能な Wi-Fi 設備
- ・携帯電話の充電が可能なコンセント、ケーブルを設置したブース
- ・災害に対応した設備（自家発電、太陽光発電、貯水設備、空調設備）
- ・事前に、医務室、ペット室、子供の遊び場、着替え室などの諸室を決めておく
- ・隔離部屋を設置し、感染症や急病の患者への対応（換気しやすい空間づくり）
- ・施設内の混乱を防ぐため、館内アナウンスやエリアメールを利用した一斉連絡
- ・避難所運営をマニュアル化し、優先事項などを決めておく など

新県民体育館整備等基本計画

令和8年6月

発行 高知県

編集 観光振興スポーツ部スポーツ課

〒780-0850

高知県高知市丸ノ内1-7-52

電話 088-821-4712